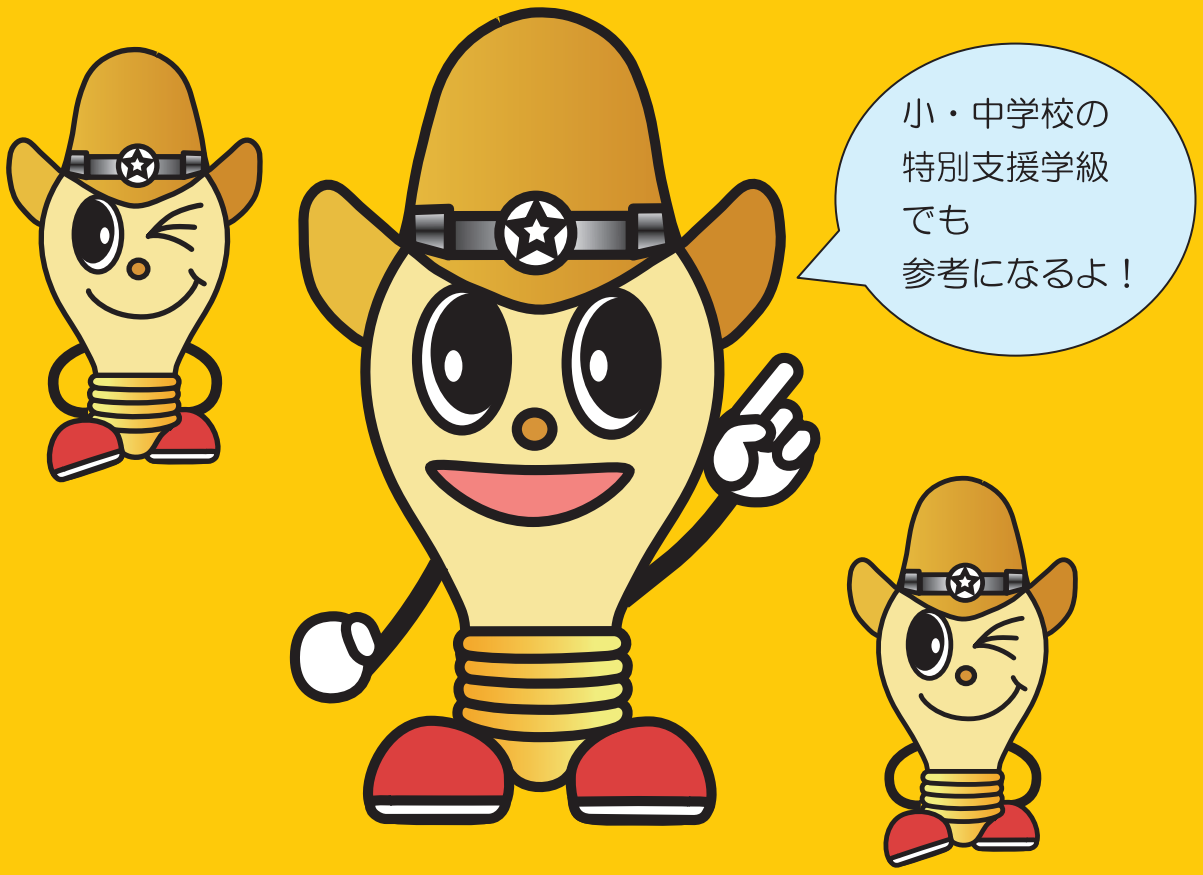
特別支援学校

教師のための
サポートブックⅡ

学習指導案を書こう ３０のポイント



宮城県特別支援教育センター

は　じ　め　に

「学習指導案は，教師としての力量を写しだす鏡である。」

遠い昔，諸先輩から，何度も指導され，叱咤激励されてきた言葉です。
その当時，先輩も後輩も関係なく，同じ教師（仲間）として，子どもたちにとって，良い授業とは何か！　分かりやすい学習指導案はどう書けば良いか！お互い議論し合い，切磋琢磨しながら教師としての力量を磨き合ったことを思い出します。

さて，特別支援教育が新たなスタートを切り三年目。
子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実が叫ばれ，教職員の専門性のさらなる向上が求められています。
本県の特別支援学校におけるセンター的機能の現状を見ても，各学校の特色を生かした各種研修会や教育相談を数多く実施し，その充実発展ぶりには目を見張ります。

しかし，そのセンター的機能の充実とは裏腹に，各学校の授業研究や学習指導案，教育課程等を見ていると，基本的な子どもたちへの指導の方法や「学習指導案」の書き方等で，首をかしげてしまう場面にも遭遇してしまいます。

子どもたち一人一人のニーズに応じた教育を実現するためには,教師全員が,日々の授業を大切にし,「授業力」を高めることが大切です。
そして，その授業の計画書であり設計図である「学習指導案」をしっかり書く訓練をすることが必要なのです。しっかりした「学習指導案」を書くことは,指導の方向性を明確にし，物の見方や論理性が身に付き，教師の専門性を向上させるのです。

そこで，今年度，当センターでは,「学習指導案」の書き方に焦点を当て,学校訪問指導等で気付いた点や内容を整理構成し,「特別支援学校・教師のためのサポートブックⅡ・学習指導案を書こう30のポイント」を刊行することにいたしました。

あくまで「学習指導案」とは，画一された一つの決まった形式があるわけではありません。各都道府県だけでなく，近隣の学校，同じ学校の他学年や他学部ですら違っているのが現実であり，今回示した,「学習指導案」の書き方30のポイントは，ほんの一例に過ぎません。

まだまだ不備な点の多い本冊子ですが，多くの先生方より，忌憚のないご意見ご指導を頂き，県内の各学校で，本冊子を参考にさらに検討を加え，各学校の実情に合わせた特色ある「分かる・楽しい学習指導案」を作成し，日々の授業を充実させてほしいと願っています。

最後に，本冊子の執筆に当たり，お忙しい中ご協力を頂きました県内の若き研究協力者５名の先生方，そして，相談や研修事業，各種講義等の忙しい合間に，企画から執筆，編集まで真摯に取り組んでくれた当センターのスタッフ全員に心から感謝を申し上げます。

平成 22 年２月

宮城県特別支援教育センター　　所長　　辻　誠一

＊　目　　次　＊

◇　はじめに

第１章　授業から子どもを育てよう
　１　学習指導案は書かなくてはいけないの？・・・・・・・・・・　１
　２　学習指導案は授業の設計図・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　３　子ども一人一人の「分かる」「楽しい」授業を展開するために・　２
　４　教師一人一人の資質向上のために・・・・・・・・・・・・・　３

第２章　特別支援学校の学習指導案～キーワードと３０のポイント～
　１　特別支援学校の学習指導案とは・・・・・・・・・・・・・・　５
　　１）通常の学級の学習指導案との違いは・・・・・・・・・・　５
　　２）学習指導案の形式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
　２　学校訪問指導から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
　　１）すばらしいところと課題となるところ・・・・・・・・・・　１０
　　２）特別支援学校における学習指導案のキーワード・・・・・　１２
　　３）学習指導案改善のポイント・・・・・・・・・・・・・・・　１４
　　４）３０のポイントを活用しよう・・・・・・・・・・・・・・　１６

第３章　授業の流れを略案からつかむ
　１　授業の流れと略案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
　　１）スタートは発想メモから・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
　　２）メモから略案へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
　２　略案づくりのポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
　３　略案はこう書く・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８
　４　略案を生かすために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
　　１）ＴＴ（ﾃｨｰﾑ･ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ）の役割分担を明確に・・・・・・　１９
　　２）誰にとっても分かりやすい略案を・・・・・・・・・・・・　１９
　　３）評価を積み重ねる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

第４章　学習指導案を書いてみよう・・・・・・・・・・・・・・・　２１
　１　「教科別の指導」の学習指導案を書こう・・・・・・・・・・　２３
　２　「遊びの指導」の学習指導案を書こう・・・・・・・・・・・　３５
　３　「生活単元学習」の学習指導案を書こう・・・・・・・・・・　４７
　４　「作業学習」の学習指導案を書こう・・・・・・・・・・・・　５９
　５　「自立活動」の学習指導案を書こう・・・・・・・・・・・・　７４

第５章　授業研究会で授業の評価・改善を
１　学校訪問指導から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８９
２　次につながる授業研究会に・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９１
１）チームで授業改善・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９１
２）全員が参加できる授業研究会へ・・・・・・・・・・・・・・　９２
３）授業研究会で活用できるいろいろな方法・・・・・・・・・　９５

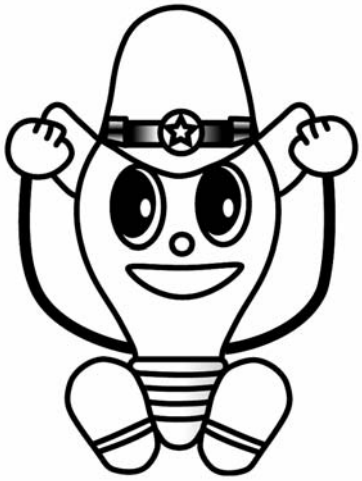
第６章　個別の指導計画とのつながり
１　個別の指導計画と学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・　９９
１）個別の指導計画を理解しよう・・・・・・・・・・・・・・・　９９
２）個別の指導計画作成の流れをつかもう・・・・・・・・・・１００
２　実態把握（アセスメント）からの出発・・・・・・・・・・・１０１
１）実態把握（アセスメント）とは・・・・・・・・・・・・・・１０１
２）実態把握（アセスメント）に必要な情報とは・・・・・・１０１
３　個別の指導計画から学習指導案へ・・・・・・・・・・・・・・１０４
１）実態把握のためのシートの作成・・・・・・・・・・・・・・１０４
２）個別の指導計画を作成してみよう・・・・・・・・・・・・・１０５
３）個別の指導計画と学習指導案のつながり・・・・・・・・・１０６

資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１２

参考・引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１４
項目別索引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１５

編集同人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１６

◇　おわりに



コラム

教師の授業力ってなんだろう・・・・・・・・・・・・・・・　４
ＴＴ（ティーム・ティーチング）を機能的に・・・・・・・・・・・・　２０
領域・教科を合わせた指導・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
遊びの発達・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４６
特別支援教育とキャリア教育・・・・・・・・・・・・・・・・　５８
自立活動とＩＣＦの視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８８
個別の教育支援計画と学習指導案・・・・・・・・・・・・・・１１０
ＰＡＴＨを個別の指導計画の作成につなげよう！・・・・・１１１

トピック

指導案？学習案？支援案？・・・・・・・・・・・・・・　１９
単元・題材の指導目標設定の観点・・・・・・・・・・・　２８
指導内容表を活用しよう・・・・・・・・・・・・・・・　３０
体育との違いは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０
場の設定の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４４
生活単元学習の発展？・・・・・・・・・・・・・・・・・　５２
単元の内容と構成は？・・・・・・・・・・・・・・・・・　５６
作業工程の分析と作業内容の分析の大切さ・・・・・　６８
作業学習と進路学習との関連・・・・・・・・・・・・・　７２
作業学習における単元と題材との違い・・・・・・・・　７３
個別の指導計画の短期目標と長期目標・・・・・・・・１０４

第１章

授業から子どもを育てよう

１　学習指導案は書かなくてはいけないの？

２　学習指導案は授業の設計図

３　子ども一人一人の「分かる」「楽しい」授業を展開するために

４　教師一人一人の資質向上のために

第1章　授業から子どもを育てよう

1　学習指導案は書かなくてはいけないの？

宮城県内の特別支援学校では，毎年，校内研究や授業改善のための授業研究会が行われています。授業研究会が近づくと学級や指導グループなどで学習指導案の作成が始まります。

学習指導案を作成するには，ちょっぴり気合いが必要です。こんな声は聞こえてきませんか？

「学習指導案を書くのは，とても大変！」
「一人の先生に書いてもらうのは，負担をかけてしまい申し訳ない。でも，自分が書くのは自信がないし・・・・。」

「学習指導案を作成する」ことは，どのように書かなければいけないというように明示されているものでもなく，法的に義務付けられているものでもありません。
それでも，学習指導案は書いた方がよいのでしょうか。
答えは“Yes”です。

では，なぜ，学習指導案を書くのでしょうか。もしも，学習指導案がなかったら・・・・・

学習指導案がなくても，授業はできるでしょう。しかし，授業のねらいがはっきりとせず，子どもも TT（ティーム・ティーチング）でかかわる先生方も見通しがもてず，なんとか時間は過ごしたけれどなんとなく終わってしまった・・・・そんな授業になってはいないでしょうか。指導内容が決まっていても，ただそれをこなしていくだけの授業の繰り返しでは，本当に子どもが育つ授業とは言えません。

２　学習指導案は授業の設計図

学習指導案は，授業のシナリオであり，設計図です。学習指導案を書かないで取り組む授業は，どんなに見栄えがよくても，柱が弱くて崩れやすい建物に似ています。

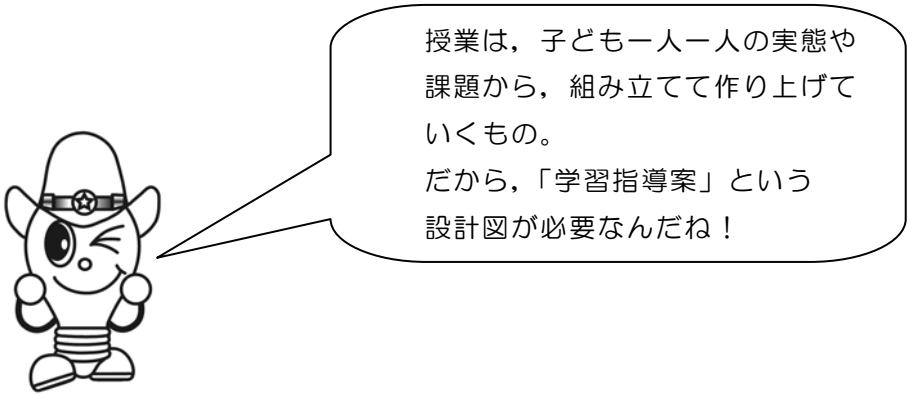
授業を支えているのは，子どもたちの実態から導き出されるねらい（目標）です。子どもたち一人一人のねらいが明確になれば，おのずと授業の内容や展開が見えてくるものです。年間指導計画を基本に，子どもたちの今の発達段階や興味・関心などを適切に把握しながら，子どもたちの学習意欲，活動意欲をかきたてるような授業を目指しましょう。

学習指導案を書くということは，授業の設計図を作りあげていくことです。教師が機会あるたび，学習指導案を書き，授業づくりに取り組むことが，

子ども一人一人にとって「分かる」「楽しい」授業

教師一人一人の授業力の向上

につながります。



３　子ども一人一人が「分かる」「楽しい」授業を展開するために

「授業中に，子どもがすぐ離席してしまう。」

「十分に睡眠をとっているはずなのに，あくびばかりして，すぐ居眠りしてしまう。」

「授業中，だんだん落ち着かなくなり，すぐ隣の子にちょっかいを出してしまう。」

このような子どもたちの行動は，障害や疾病のせいだけでしょうか。もしかしたら「授業が分からない」「つまらない」のかもしれません。学校生活の中心をなす授業。その授業がつまらなかったら，学校生活そのものもつまらないものになってしまうかも知れません。

『よく分かる』　『楽しい』　『もっとやりたい』　『おもしろい』

子どもたちがこんな思いで授業を終えることができたら，次の授業へ，そして明日の登校へ意欲をかきたて，楽しい学校生活を送れるようになるでしょう。

子どもたちが「分かる」「楽しい」授業を展開していくためには，子どもたちの実態を的確に把握したり発達段階や特性に合った授業を組み立てることは言うまでもありませんが，教師自身が子どもの立場や目線で，１単位時間の授業を見直してみることが大切ではないでしょうか。きっと，子どもを引きつける，ポイントが見つかるはずです。

４　教師一人一人の資質向上のために

学習指導案を書くことによって，教師は，子ども一人一人の様子を思い浮かべます。そして，授業の中で，何を，どんな順番で提示し，体験させ，考えさせ，コミュニケーションを重ねていくかを考えます。そんな作業を通して，教師の子どもを見る目が洗練され，授業を構成する力が付いていくでしょう。

「学習指導案を書く」ことは，教師にとって，主に次のようなメリットがあります。

○授業全体の組み立てが明らかになり，見通しがもてるようになります。
○児童生徒の実態が明確になることで，児童生徒の反応も予想できるようになります。
○教師自身の授業での動きや働き掛けが明確になります。
○ＴＴでの授業では，授業展開や児童生徒への指導や支援の共通理解が図られ，よりよい協力体制が生まれます。
○授業の参観者などに，授業のねらいや，組み立てを分かりやすく伝えることができるようになります。

学校教育の中心は，授業です。特別支援教育でも，やはり中心には授業があります。私たち教師は，授業を通して子どもたちを育て，授業を通して自分自身の資質を高めていきます。つまり，授業の設計図である学習指導案を書き，授業のアセスメントを積み重ねていくことが，教師の授業力を高め，子どもたちを育てることにつながります。

小学校学習指導要領解説総則編 第３章第５節 教育課程実施上の配慮事項 ［３ 学級経営と生徒指導の充実（第１章第４の２(3)）］には，「**分かる喜びや学ぶ意義を実感できない授業は児童にとって苦痛であり，児童の劣等意識を助長し，情緒の不安定をもたらし，様々な問題行動を生じさせる原因となることも考えられる。**」とあります。私たち教師は，常に授業勝負ということを忘れず，一人一人が資質を高めながら，日々の授業と向き合う必要があります。

コラム

教師の授業力ってなんだろう？

“授業力”と言われるものには，次の四つの力が考えられます。

子どもを理解する力 ⇒
- □ 発達の段階や障害特性の理解
- □ 子どもの行動をしっかり観察し，その行動に意味付けをしていく力

授業を計画し改善する力 ⇒
- □ 子どもの発達や生活経験，障害特性を踏まえて指導計画を作成する力
- □ 授業を振り返って改善する力

教材・教具を開発する力 ⇒
- □ 子どもの力を引き出せる教材・教具を探求し，開発・改善していく力

授業を展開する力 ⇒
- □ 授業の流れや場を工夫し，計画どおりにいかなくても，子どもの反応に応じて授業を構成し直していく力

さらに，特別支援教育の授業づくりでは，特に具体化する力が望まれます。例えば・・・

○この子は，これはできないけれど，このヒントがあればできそう・・・。
（実態把握での具体化）

○実物の三つの選択肢の中から一つ自分で選べることを目標にしよう・・・。
（目標設定での具体化）

○声掛けの支援は，「がんばれ！」だけでなく，「赤い線まで届くように投げよう」にしよう・・・・。（指導や支援の具体化）

○自分から「分からないのでやり方を教えてください。」と質問ができたら，本時の目標は達成したとしよう・・・・。（評価の具体化）

できるだけ具体的に，子どもの様子を把握し，目標設定，指導や支援，評価をしていくことが，発達がゆっくりな子どもたちの授業づくりには必要です。
教師がこのような力を付けていくことが，特別支援教育の授業力につながります。

第２章

特別支援学校の学習指導案

～キーワードと３０のポイント～

１　特別支援学校の学習指導案とは

　１）通常の学級の学習指導案との違いは

　２）学習指導案の形式

２　学校訪問指導から

　１）すばらしいところと課題となるところ

　２）特別支援学校における学習指導案のキーワード

　３）学習指導案改善のポイント

　４）３０のポイントを活用しよう

第２章 特別支援学校の学習指導案　～キーワードと３０のポイント～

１　特別支援学校の学習指導案とは

１）通常の学級の学習指導案との違いは

特別支援学校の学習指導案も，通常の学級の学習指導案も，授業の設計図としての働きに変わりはありません。しかし，より子どもたちの実態を詳しく把握し，一人一人の興味・関心や発達段階，特性等に応じた個への配慮や支援をきめ細かに行う特別支援学校では，学習指導案の形式や盛り込む内容などにも，細かな配慮が求められます。

	通常の学級の学習指導案	特別支援学校の学習指導案
児童生徒への働き掛け	○主に児童生徒全体への指導や支援	○児童生徒全体だけでなく， 一人一人の児童生徒への指導や支援も。 ○児童生徒の主体的な姿が引き出せるような指導や支援。
単元（題材）について	○「始めに教材観」 ① 教材観 ② 児童生徒観 ③ 指導観 学習指導要領に沿った指導計画に基づく授業なので，教材観から書き始めるのが一般的です。	○「始めに児童生徒観」 ① 児童生徒観 ② 単元（題材）観 ③ 指導観 「個別の指導計画」に留意しながら，児童生徒の実態→単元（題材）観→指導観の順に書くと，〔このような子どもたちだから，このような内容を，このような指導や支援で〕という表記になり，説得力が生じてきます。
目標・評価	○主に児童生徒全体の目標・評価	○児童生徒全体だけでなく， 一人一人の児童生徒の目標・評価も細かく示すと，授業中の指導や支援が明確になります。

特別支援学校の学習指導案は，

一人一人の児童生徒の実態から始まり，一人一人の児童生徒への指導や支援が，具体的に分かりやすく明記されます。TT との連携の在り方や個別の目標なども示されます。

こうした，子ども一人一人に着目した視点が随所に明示されていく点などが，通常の学級の学習指導案とは少し違うところです。では，特別支援学校の「学習指導案」を，どのように作成すれば，よりよい学習指導案になるのかについて，いくつかの例を示しながら紹介していきましょう。

※　必ずしもここで紹介するとおりに，学習指導案を書かなければならない，ということではありませんので，ご留意下さい。

２）学習指導案の形式

学習指導案の形式に決まった形はありませんが，大きく二つに分けられます。

略案（大まかな流れを押さえる設計図）

○　参観日等で保護者に授業を見てもらう場合

○　ＴＴ間で授業の共通理解を図るために用いる場合

○　授業研究会などで，授業者の意図を分かりやすく示すのに用いる場合

細案（全体が構造化されている綿密な設計図）

○　授業研究会で授業を提供する場合

○　授業改善などに役立てる場合

○　授業に対する関係者の助言を得る場合

（など）

略案については，第３章に詳しく書いてあるよ。

次に，特別支援学校で作成される，細案の主な項立ての一例を紹介します。

○○○○学習指導案

日時・場所
学部・学年
指導者○○○（Ｔ１）
△△△（Ｔ２）

1　単元（題材）名

必要以上の個人情報は，省かれる場合もあります。校内で使うか，校外にも提供されるのかによっても明示する内容や量は違ってきます。

2　単元（題材）について

○児童（生徒）観

＜一般的実態＞人数・性別・発達の様子・障害の種類や程度等

＜本単元（題材）についての実態＞単元（題材）に対する興味・関心，経験等

○単元（題材）観

取り上げた単元（題材）の意義，指導によって期待できること等

○指導観

手だて・方針・何をどう工夫するか・手順・学習意欲を高める工夫・留意点等

3　単元（題材）の目標

「児童（生徒）観」・「単元（題材）観」・「指導観」と項立てを必ず記す必要はありません。

4　指導計画（○時間扱い）

第一次

第二次

・・・

５　本時の指導

（１）本時の小単元名（題材名）

個人情報にかかわることが多く記載されるので，名前・診断名・検査結果については，省略し，状態像で示してもかまいません。取り扱いには十分注意が必要です。

（２）本時の目標

○全体の目標

○個別の実態と目標

児童（生徒）	単元（題材）における実態	目　　標
A		
B		
C		

（３）学習過程（指導過程）Ｐ８～９のように様々な形式があります。

学習活動	個々の中心課題□・教師の働き掛け○と指導上の留意点★					備考
	A	B	C	D	E	
	○	○	○ ★	□ ○	★	

（４）評価の観点

○児童の評価　　学習過程の中に書かれる場合もあります。

児童生徒	評　価　の　観　点
A	
B	
C	

評価の観点として，
【関心・意欲・態度】
【思考・判断】
【知識・理解】
【技能・表現】などを使う場合や，学校独自の観点を使う場合があります。

○教師の評価

（５）場の設定等（配置図，教材・教具など）

（６）その他

・準備物

・板書計画

・掲示計画（など）

教科や領域，授業の形態，児童生徒数や TT の人数などによって書き方は少し違ってくるよ。

学習過程（指導過程）の部分では，様々な要件により，いろいろな形式の書き方が見られます。いくつかの例を紹介しましょう。

①　全体の活動と個への指導や支援の両方が見える学習過程

学習の流れ	主な学習活動と教師の指導や支援（＊）				備考
	Ａ子	Ｂ男	Ｃ子	Ｄ夫	
	４人の子どもたちの活動				
	子どもの活動 ＊教師の指導や支援	子どもの活動 ＊教師の指導や支援	子どもの活動 ＊教師の指導や支援	子どもの活動 ＊教師の指導や支援	

◆◆共通の活動と個別の活動と指導や支援が，分けて示されており，子どもの動きと，個別の指導や支援が分かりやすくなっています。

②　教師の動きが見える学習過程

学習内容	Ｔ１	Ｔ２	Ｔ３	Ｔ４	備考

◆◆教師の動きを中心に書いているので，授業の進め方や，Ｔ・Ｔの動きを確認するのに有効です。

③　グループでの指導の様子が分かる学習過程

主な学習の流れ	Ａグループ （Ｄ夫，Ｅ子，Ｆ美）	Ｂグループ （Ｇ男，Ｈ也，Ｉ樹）	Ｃグループ （Ｊ真，Ｋ絵，Ｌ哉）	備考

◆◆グループごとに課題が分かれている場合，グループごとに活動の流れや，具体的な指導や支援を書いていくと，分かりやすくなります。作業学習や遊びの指導などの指導の形態では有効です。

④　評価の観点が分かる学習過程

学習の流れ	児童の主な学習活動と教師の働き掛け					評価の観点
	Ａ子	Ｂ男	Ｃ子	Ｄ夫	Ｅ美	

◆◆評価の観点の欄を設けることで，どの場面で，どのような観点で評価するのか明確になります。評価を次の学習へ生かすことができます。

⑤　教材・教具等の工夫が見える学習過程

学習内容や学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等
	○○作業　２名 Ａ君，Ｂ君	▲▲作業　２名 Ｃさん，Ｄ君	

◆◆作業学習等では，どの場面で，どのような教具を使用するか，どのような道具を提示するかが大切になってきます。グループごとの活動の流れと，教材・教具等の活用を分かりやすく書いていきます。

⑥　場の設定が分かりやすい学習過程

主な学習の流れ	場の設定	教師の働き掛けと指導上の留意点			
		Ａ子	Ｂ男	Ｃ子	Ｄ夫

◆◆遊びの指導，生活単元学習等では，場の設定が重要になってきます。子どもの動きや教師の動きが分かるように，図等を使って示していくと，分かりやすい学習過程になっていきます。

◆目的に応じた，使いやすい 見やすい学習指導案の形式を検討しましょう。◆

２　学校訪問指導から

１）すばらしいところと課題となるところ

宮城県特別支援教育センターの指導主事は，宮城県教育庁特別支援教育室からの依頼を受け，県内の県立特別支援学校の学校訪問指導を行っています。学校訪問指導では，学習指導案を基に，授業を参観し，研究協議の中で，いろいろな助言を行います。センター内の過去の学校訪問指導後の報告書や，記録を見ると，学習指導案に関して，以下のようなすばらしいところや課題となるところが見えてきます。

◇◇　すばらしい学習指導案の例　◇◇

□　一人一人の実態，目標，指導の手だてが大変詳細で明確に書かれており，個に応じた学習指導案になっている。
□　障害の特性にも着目し，子どもの興味・関心に沿った指導の手だてが大変工夫されている。
□　子どもに合った補助具，教材・教具等の工夫がよく分かる学習指導案である。
□　保護者の願いを取り入れ，学習指導案にも反映されている。
□　研究の視点等を意識し，学習指導案の構成が工夫されており，授業研究会の話し合いの視点につながるものになっている。

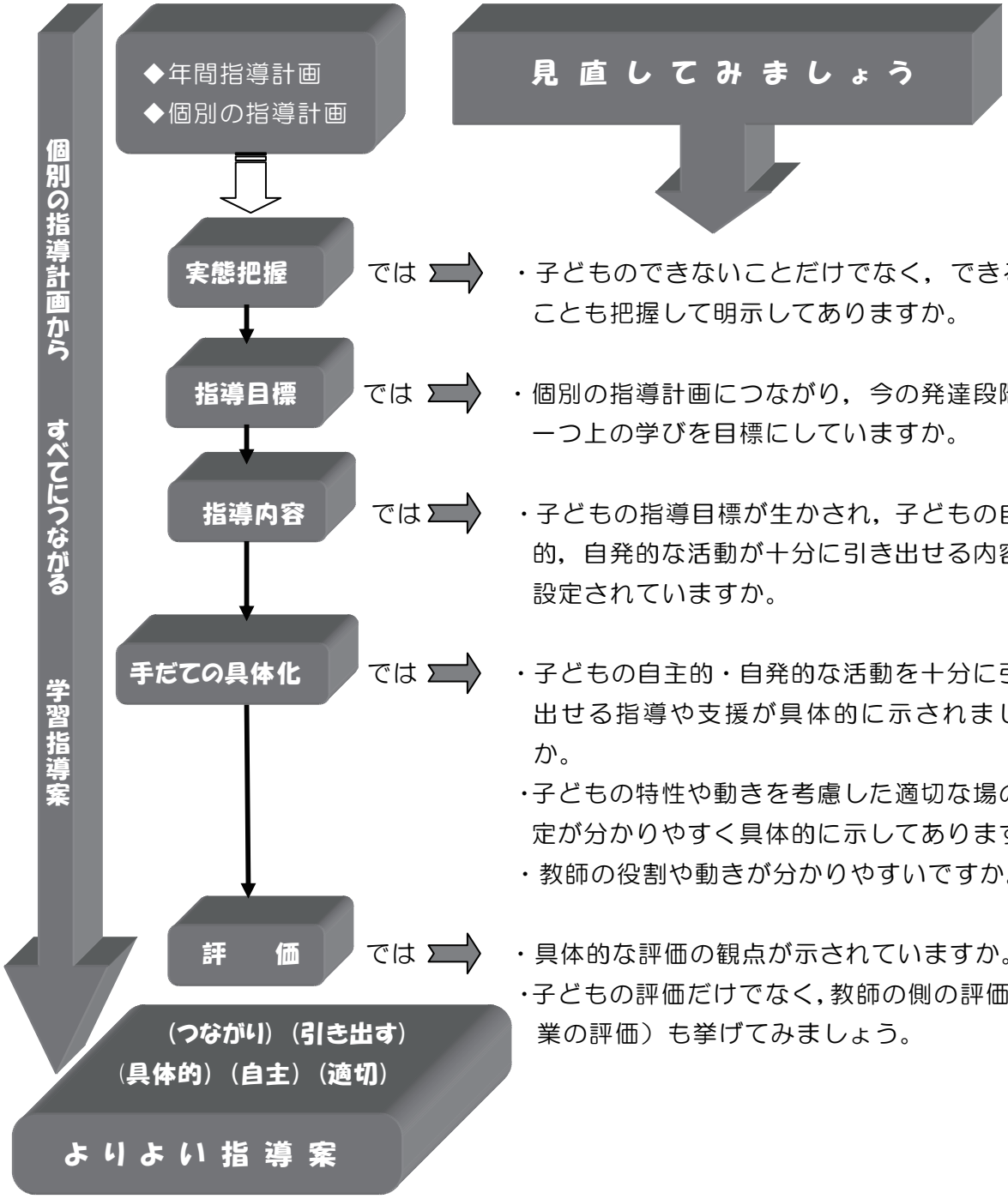
◆◆　課題のある学習指導案の例　◆◆

■　子ども主体でなく，教師主体で書かれているので，子どもの姿が浮かばない。
■　ＴＴの役割が明確に書かれていないため，教師の役割分担や動きが分かりにくい。
■　評価が，目標の裏返しになっているなど，具体的に書かれていない。また，教師側の授業の評価が書かれていない。
■　個別の指導計画とのつながりが薄く，個々の実態や課題が，学習過程の中に具体的に反映されていない。
■　子どもの自主的・自発的な活動を十分に引き出す指導や支援の工夫が示されていない。
■　レイアウト（構成）の工夫が足りず，文が長すぎたり詳しすぎたりして，読みにくい。

県内の各特別支援学校では，おおむね「一人一人の実態に合わせた細やかな指導や支援」に心掛け，学習指導案に反映させている学校が多いことが分かります。

しかし，中には，実態に見合ったものでなかったり，個別の指導計画との関連が全く見えなかったり，ＴＴのメリットが生かされていないなどの課題を含んでいることも分かりました。また，「一人一人の実態に合わせた細やかな指導や支援」に力を入れている一方で，「細やかな指導や支援」が「必要以上の指導や支援」になってしまい，子どもの自主的・自発的な活動が十分に引き出せていないのではないか，と感じさせる学習指導案も見られました。

「特別支援学校の学習指導案」を検証してみませんか！



すばらしいところや課題となるところを念頭に，学習指導案の構成や表記，内容などについて，見直していくと，次に示すような幾つかのポイントとなる項目が浮かんできます。

（生かす）（つながる）（自主的 自発的）（引き出す）（具体的）（適切）

これらのことから，特別支援学校の学習指導案づくりのキーワードが見えてきます。

２）特別支援学校における学習指導案のキーワード

学校訪問指導から得られたポイントを整理し，よりよい学習指導案の在り方を全体的に見てみると以下のようなことが言えます。

◎子ども主体で子どもを生かせる授業の提案がなされている，そして，子どもの自主性や自発性を，十分に引き出すことができる内容，展開になっている。

◎実態把握は適切で個々への指導や支援がしっかり押さえられていること。また具体的で分かりやすい指導目標，指導内容，指導や支援，評価等が示されている。

◎指導の形態ごとの年間指導計画を基本とし，そこに個別の指導計画との関連を考慮しながら，分かりやすく楽しい学習活動が展開されるところまで，学習指導案上の一連の要素がしっかりつながっていること。

そうすると，学習指導案のキーワードにふさわしいものが出てきます。

子ども主体　**分かりやすい**　**つながる**

この３つのキーワードは，具体的に次のような学習指導案をイメージできます。

キーワード 1　子ども主体（個に応じたきめ細やかさ）

○個別的であること
- 児童生徒一人一人のことがよく理解できる（その題材について）
- 児童生徒主体の表記や内容である
- 児童生徒一人一人の実態やニーズに本当に合致している

○前向きな支援姿勢
- 「できない」の否定的な表現でなく，「～すればできる」のような，肯定的な見方，指導や支援の方針である

キーワード 2　分かりやすい

○客観的であること
- 誰が見ても分かる
- 中心となるねらいや活動が明確であり，読み取りやすく分かりやすい

○具体的であること
- 児童生徒の学習の様子が具体的に分かりやすい（活動する姿が浮かぶ）
- 指導や支援の内容，手だてが具体的に分かる

キーワード 3　つながる

○関連性があること
- 個別の指導計画，実態，興味・関心，意欲など多面的な関連がある

○一貫性があること
- 実態～目標～活動内容～指導や支援～評価につながりがある

この３つのキーワードは，特別支援学校の学習指導案を書くときの大きな観点となります。また，キーワードは，学習指導案を書くときの観点になるばかりでなく，授業の事前や授業の事後に行われる，授業検討会等での協議の視点としても使えます。

この３つのキーワードを意識して学習指導案を書いていくと，一人一人の個に応じた，特別支援学校のよりよい授業に，一歩近づけるのではないでしょうか。

３）学習指導案改善のポイント

では，具体的に，学習指導案を書き進めるとき，一つ一つの項目では，どのように書き進めていくといいのでしょうか。

特別支援学校の学習指導案作成に当たってのキーワードをもとに，さらに，学習指導案上の，それぞれの項目でポイントになることは何かを詳細に検討し整理したものが，以下に示した「学習指導案　改善のポイント」（P．１４～１５）です。

特別支援学校の学習指導案作成のキーワード
- 子ども主体（個に応じたきめ細やかさ）
- 分かりやすい
- つながる

↓

学習指導案　改善のポイント

「学習指導案　改善のポイント」は，３０のポイントに整理することができました。このポイントは，次のような時に活用することができます。

① 学習指導案を書き進める時
② 学習指導案を改善して，良いものにしていこうとする時

【 重 要 ！】

「学習指導案　改善のポイント」は，絶対的なものではありません。授業の形態や指導の内容によっては，当てはまらない部分や構成もあります。

この「学習指導案　改善のポイント」は，『こんな風に学習指導案が作成されていたら，誰にも分かりやすく，そして見やすく，さらにはこれからの授業づくりに生かせるのではないか』という観点から整理し示したものです。学習指導案を書き進める時，また学習指導案をもう少し分かりやすく改善したいという時に，ぜひご活用ください。

学習指導案　改善のポイント

―（３つのキーワードと３０のポイント）―

特別支援学校の学習指導案作成のキーワード

子ども主体（個に応じたきめ細やかさ）	**個別的であること　前向きな支援姿勢**
分かりやすい	**客観的であること　具体的であること**
つながる	**関連性があること　一貫性があること**

１　単元（題材）名

1　活動がイメージしやすく，活動の意欲が高まる表現である

２　単元（題材）について

○児童（生徒）観

2　日常の学級の様子（グループの様子），学習の様子が分かる

3　単元（題材）に対する子どもの興味・関心，学習経験を述べている（単元に関する実態）

4　否定的でなく，より肯定的にできること・できそうなことに注目している

○単元（題材）観

5　単元（題材）の意義・教育的価値・ねらいが明確である

6　単元（題材）を通して，子どものどのような変容を期待するかが分かる

7　学習経験，生活経験，興味・関心，発達段階との関連が記述されている

○指導観

8　指導の方針・手だてが分かる

9　指導する上での工夫や留意点が簡潔に述べられている

10　児童（生徒）観・単元観（題材観）との一貫性がある

３　単元（題材）の目標

11　子どもの立場で書かれており，付けたい力・何を目指すのかが具体的で簡潔である

12　「（中心となる活動）を通して・・・・する」の表現で記述されている

４　指導計画

13　指導内容・指導段階・時間配分が明確に示されている

14　総時数と単元における本時の位置付けが明記されている

５　本時の指導

（１）本時の題材名

（２）本時の目標

○全体の目標

15　単元（題材）の目標との関連が分かる記述である

16　子どもの側に立っていて，具体的な表現である

○個別の実態と目標

＜実態＞

17　本時の指導につながる観点で，具体的である

18　できないことだけでなく，できそうなことに着目している

＜目標＞

19　子どもの個々の姿が見える具体的な目標である

20　個別の指導計画・全体の目標・実態との一貫性がある

（３）学習過程（指導過程）

21　授業全体の流れが分かり，中心的な学習活動が明確である

22　子ども一人一人の学習課題が明確に示されている

23　教師の動きやＴＴ間の役割が明確である

24　課題を達成するための指導や支援が具体的に分かる

・子どもの興味・関心を喚起する指導や支援

・主体的な活動を促す指導や支援

・活動が滞った時・予想と違ったときの指導や支援

・成就感を味わわせ，次時への意欲付けを図る指導や支援

・健康や安全に配慮する指導や支援　　・教材・教具を提示する時の配慮

（４）評価の観点

○児童（生徒）の評価（学習過程の中に表記される場合もあります）

25　指導目標の達成状況が分かる具体的な評価である

26　観点を定めて評価している

評価の観点には

【関心・意欲・態度】

【思考・判断】【知識・理解】

【技能・表現】等もあります。

○授業（教師）の評価

27　授業のねらいの達成状況が客観的・具体的に分かる

28　指導の適切さが確認でき，指導の改善につながる評価である

・個に応じた指導であったか　　・内容の分量は適切であったか

・発問や説明は分かりやすかったか　・教材・教具は効果的であったか

（５）場の設定，教材・教具等（学習過程の中に表記される場合もあります）

29　場の設定が図で示され，全体的に把握しやすい

30　教材・教具の工夫や使い方が具体的に示されている

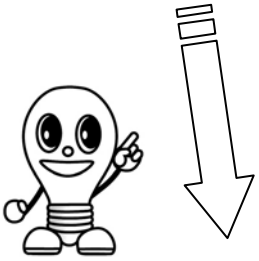
４）　３０のポイントを活用しよう

３０のポイントを活用して，学習指導案を書いてみましょう。すべてのポイントを満たすことが必要ということではありません。特に必要な部分や，書きながら自信のないところが出てきたとき，ポイントを活用してみましょう。

少し大変だな・・・と思う学習指導案も，流れに沿って，ポイントを意識しながら書いていくと，「子ども主体で，分かりやすい，つながる学習指導案」に近づいていきます。

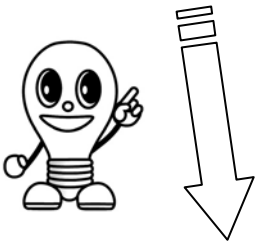
さらに，ポイントを活用して，学習指導案の改善を進めましょう。複数の目で多角的にチェックをすることで，より改善が図られると思います。授業研究会での協議の観点として活用することもできます。

ポイントを意識して，学習指導案を書く



○項立ての流れに沿って学習指導案を書き進めます。
○ポイントを見ながら，
　　授業をする子どもたちの姿が見えるように
　　授業のねらいが分かるように
　　ＴＴの動きが分かるように
　書いていきます。

ポイントで学習指導案を再度チェックする



○学習指導案ができあがったら，ポイントが生かされているかどうかチェックします。
○修正し，改善していきます。
○ＴＴで授業する時は，ＴＴの先生方と一緒に，複数の目でチェックしていくと，効果的です。

ポイントを観点にして，授業研究会をする

○授業研究会を，より焦点化し，深めていくために，いくつかのポイントを観点にして,授業研究会を進めるのもいいでしょう。

第３章

授業の流れを略案からつかむ

１　授業の流れと略案

　１）スタートは発想メモから

　２）メモから略案へ

２　略案づくりのポイント

３　略案はこう書く

４　略案を生かすために

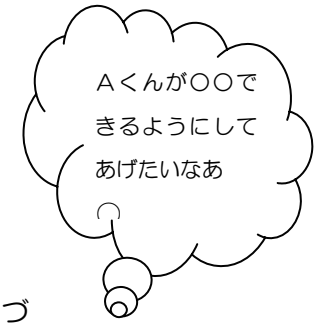
　１）ＴＴ（ティーム・ティーチング）の役割分担を明確に

　２）誰にとっても分かりやすい略案を

　３）評価を積み重ねる

第３章　　授業の流れを略案からつかむ

１　授業の流れと略案



１）　スタートは発想メモから

学習指導案を書くことの大切さや書く時のポイントについて分かっていただけたと思いますが，年に何度も細案を書くということはとても難しいことです。

でも，先生方は毎日，児童生徒の実態を踏まえた指導計画に基づき，授業内容や手だてを考える時，明日の授業ではこんなことができるようになるかな，こんなことをすれば児童生徒は喜んでくれるかな，と思い浮かべ授業の準備をしているのではないでしょうか。

この児童生徒への思いやアイデアを，メモを取るように紙に書き出してみてください。これが略案づくりのスタートになります。

２）　メモから略案へ

いくつかのメモができたら，次は大まかな授業の流れに沿って並べ替えてみましょう。これで，もう略案（大まかな流れを押さえた設計図）はできたようなものです。

最初は，きちんとしたものを書かなければ，という思いは不要です。大切なことは，考えたことを書き出すこと，それを授業のねらいに沿って整理し，授業の流れと大切な点をはっきりさせることです。この目に見える形に書き出すということが，自分自身の授業改善につながっていきます。継続は力なりです。ぜひ，毎日一つの授業でも続けられるように頑張ってみましょう。

２　略案づくりのポイント

略案でも細案と同じように決まった形式はありませんが，略案の内容は，基本的には細案の「本時の指導」に当たる部分が中心となります。

そこで，略案を書く時には，次のポイントが踏まえられているとよいでしょう。

なお，略案は自分の考えを整理するという意味をもつだけでなく，TT 方式での指導のための打ち合わせ資料や授業参観者のための資料となる場合もありますので，使用目的に応じて，重点的に詳しく書く部分がでてくる場合もあります。

略案を書く時に踏まえておきたい主なポイント（Ｐ１４～１５　３０のポイントより）

ポイント **１５**　単元（題材）の目標との関連性が分かる記述である
ポイント **２１**　授業全体の流れが分かり，中心的な学習活動が明確である
ポイント **２３**　教師の動きや TT 間の役割が明確である
ポイント **２４**　課題を達成するための指導や支援が具体的に分かる

３　略案はこう書く

略案には決まった形式はありません。ここでは，よく見かける形式で参考例を示しますが，略案は，ポイントを押さえておけば，自分にとって書きやすい形でかまいません。

＜生活単元学習　「野菜を育てよう」の略案例＞

小単元名	収穫祭，作った野菜で芋煮なべをつくろう	日時
目標	①　手順よく材料を準備し，芋煮なべをつくる ②　これまでの栽培活動を思い出しながら楽しく会食し，収穫した喜びを味わう	

単元の目標との関連性が分かるように書こう　15

学　習　活　動	指導上の留意点
１　はじめのあいさつをする	・Ａ児に号令を大きな声でかけるようにさせる（Ｔ１）
・あいさつの号令をかける（Ａ児）	・Ｔ１に注目させ，元気よくあいさつさせる（Ｔ２）
２　芋煮なべをつくることを知る	・作った野菜の絵カードを順番に黒板に貼り，思い出しやすいようにする（Ｔ１）
・作った野菜も材料になることを知る	
３　役割分担をする	・芋煮なべ作りの手順表を黒板に貼る（Ｔ２）
・役割分担	役割分担表を黒板に貼る（Ｔ２）
４　道具の準備	
・包丁を準備する（Ａ児，Ｂ児）	・包丁，まな板の場所を示し，準備の声掛けをする（Ｔ１）
・まな板を準備する（Ｄ児）	・Ｃ児に具体物の写真を提示し，フードカッターの準備を一人でできるようにする（Ｔ２）
・フードカッターを準備する（Ｃ児）	
５　調理する	
①　野菜を洗	Ｃ児が野菜を洗いやすくするために，野菜の持ち手を支えてやる（Ｔ２）
②　皮をむく	
・包丁で皮を	
・フードカッターで切る（Ｃ児）	・Ｃ児とともに皮をむいた材料を一カ所に集め，フードカッターに材料を入れやすくする（Ｔ２）
③　材料を煮る	
・煮ている合間に道具を片付ける	・Ａ児，Ｄ児に時々おたまでかき よう声がけする（Ｔ１）
④　味付けをする（Ｃ児）	・包丁の取り扱いには十分
６　会食する	
・いただきますの号令をかける（Ｃ児）	・Ｃ児が味噌で味付けする
・ごちそうさまの号令をかける（Ｄ児）	
７　片付けを	でのことを思い出させ楽しい会話になるようにする（Ｔ１，Ｔ２）
・自分の	
８　おわりの	食器を洗いやすいように持ち手を支えてやる（Ｔ２）
・あいさ	にはっきりと号令をかけるようにさせる（Ｔ１）

具体的に指導や支援の内容も書いておこう　24

中心となる学習活動では，段階などをより詳しく書いておこう　21

教師の役割分担の内容を分かりやすく書いておこう　23

備考欄には，Ｔ２と特に打ち合わせしておきたいことや準備物等を書いておこう

備　考	○　T2はＣ児を担当し，一人でできることが増えるような支援に心掛ける ○　刃物によるけがや調理中のやけど等，安全面には十分な注意を払う

４　略案を生かすために

１）　TT（ティーム・ティーチング）の役割分担を明確に

日々の学校生活の中で，事前の打ち合わせを毎日行うことは難しいことですが，たとえ話し合いの時間が取れなくても，略案を渡し共有することでＴ１の授業に対する思いは伝わります。略案があることで短時間での打ち合わせも可能となります。

２）　誰にとっても分かりやすい略案を

誰が読んでも分かりやすい略案づくりを心掛けると，児童生徒のこの活動だけは見落とさないでほしいという思いが表れた指導案になります。このことは，授業を焦点化し，本時の目標や学習内容を個別化することにもつながり，授業を進める上での自分にとっても，さらに分かりやすい指導案になります。

３）　評価を積み重ねる

略案づくりを心掛けると，授業ごとの評価を積み重ねていくことになります。このことが単元（題材）全体の総括的な評価につながり，終了時の個人目標の達成状況や支援の在り方をまとめることになります。また，次に取り組むべき課題等もはっきりしてきます。

略案を書き続けることで，「学習指導案の書き方に慣れる」だけでなく，児童生徒の見方や授業の作り方も上達することになります。

トピック

指導案？　学習案？　支援案？

学習指導案には，いろいろな呼び方がありますが，それは授業をどうとらえているか考え方の違いによるものです。

「指導案」が，「授業は教師が児童生徒に教えるもの」という考え方で表現されているのに対し，「学習案」では「授業を児童生徒の学習が中心に展開するもの」という考え方で表現されています。「支援案」では，「学習する主体は児童生徒であり，教師はそれを支える」という考え方で表現されています。

しかし，授業は教師が「教える」ことと児童生徒が「学ぶ」ことの両方が盛り込まれることで成立するものです。学習指導案には決まった形式はありませんが，授業の設計図となる学習指導案をつくる時は，この視点を十分に配慮し書くことが重要です。

※　当センターでは，「支援」も広く「指導」に含まれるものであること，教師が学びの場である授業を設計するものであること，という考えから，「学習指導案」の言葉を使います。

コラム　ＴＴ（ティーム･ティーチング）を機能的に

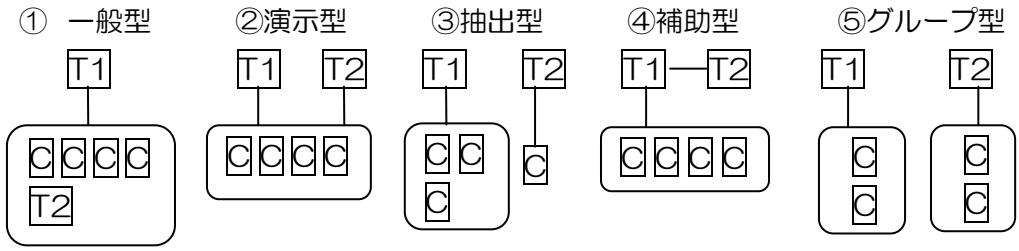
ティーム・ティーチングとは，複数の教員が役割を分担し，協力し合いながら指導計画を立て，指導し評価する方式のことです。単に同じ場所に複数の教員が配置されているというのではありません。チームの教員一人一人の特性を最大限に生かすための体制であり，各自が分担する役割をしっかりと果たすことで成り立つ指導形態です。

特別支援学校においては，ほとんどの授業がＴＴ方式による指導ですので，日頃から教員間の人間関係を良好にしておくことも大切です。

さて，ＴＴ方式の形式パターン例は下図の通りですが，学年や学部での合同授業など，教員や児童生徒の人数，学習内容等の違いでＴＴ方式の形式パターンが変わります。

パターン例を上手に組み合わせながら授業計画を立てることが大切です。

Ｔ・Ｔ方式の形式パターン例　　［Ｔ：教師　Ｃ：児童生徒 ］



【引用】辻誠一　著「特別支援教育のコツと技　教師力アップのために」 2008 日本文化科学社

ＴＴ方式で気を付けなければならない点は下記の通りです。授業を行う前には，必ず，誰がどの子どもに，どのような働き掛けをするかなど，役割分担をしっかりと確認しておきましょう。

ＴＴ方式で気を付けなければならない点

① 教員同士が互いに依存的になり，子どもへの働き掛けが滞ることがある。
② サブとなる教員の働き掛けが子どもの補助や管理だけに終始することがある。
③ その場限りの対応となることがある。

第４章

学習指導案を書いてみよう

１　「教科別の指導」の学習指導案を書こう

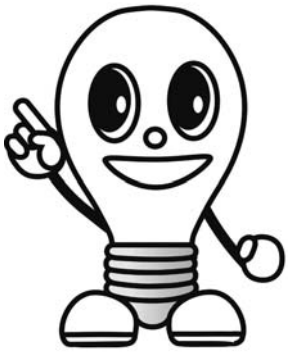
２　「遊びの指導」の学習指導案を書こう

３　「生活単元学習」の学習指導案を書こう

４　「作業学習」の学習指導案を書こう

５　「自立活動」の学習指導案を書こう

各教科等を合わせて指導する場合を
「領域・教科を合わせた指導」と言います。
「各教科等を合わせた指導」と使う場合も
あるようですが，このサポートブックでは，
従前より使われてきた
「領域・教科を合わせた指導」の言葉で
統一して，説明します。



第４章　学習指導案を書いてみよう

本章では，具体的な学習指導案の例をいくつか載せています。
例となる学習指導案を「３０のポイント」でチェックし，よりよい学習指導案に改善していく過程を例示しています。

① まず始めに，略案が載せてあります。

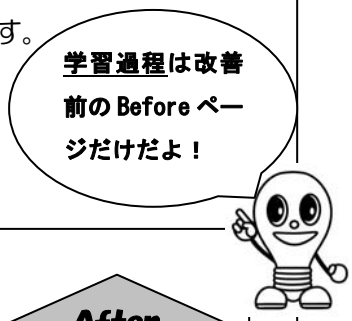
② 次に，同じ題材（単元）で書く細案を載せています。

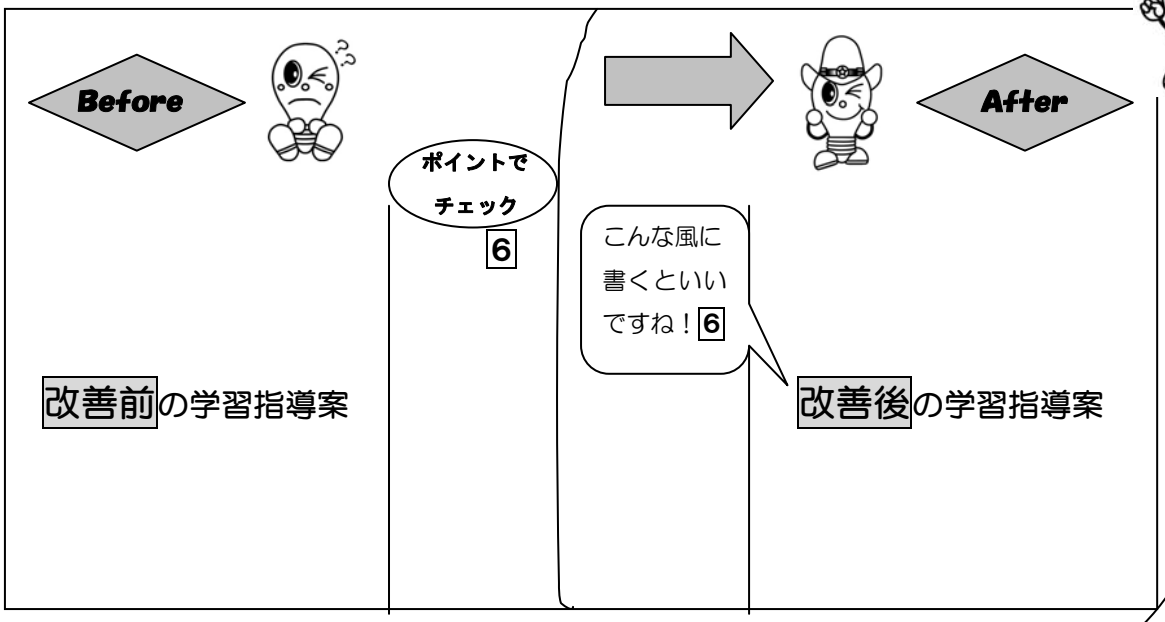
③ 見開きの左ページ **Before** が，改善前の学習指導案になっています。

チェックしたポイントが番号で示されています。（ex. 6 ）

④ 見開きの右ページ **After** が，改善後の学習指導案です。吹き出しには，ポイントに沿ってどのように改善したかを具体的に記述しています。

⑤ 学習過程は，**Before** のページのみを載せています。





３０のポイントでチェックして
改善していく様子が分かるよ。
左ページと右ページを比べて見てね。

学習指導案　改善のポイント

― ３つのキーワードと 30 のポイント ―

子ども主体　**分かりやすい**　**つながる**

1 活動がイメージしやすく，活動の意欲が高まる表現である

2 日常の学級の様子（グループの様子），学習の様子が分かる

3 単元（題材）に対する子どもの興味・関心，学習経験を述べている

4 否定的でなく，より肯定的にできること・できそうなことに注目している

5 単元（題材）の意義・教育的価値・ねらいが明確である

6 単元（題材）を通して，子どものどのような変容を期待するかが分かる

7 学習経験，生活経験，興味・関心，発達段階との関連が記述されている

8 指導の方針・手だてが分かる

9 指導する上での工夫や留意点が簡潔に述べられている

10 児童（生徒）観・単元（題材）観との一貫性がある

11 子どもの立場で書かれており，付けたい力・何を目指すのかが具体的で簡潔である

12 「（中心となる活動）を通して・・・・する」の表現で記述されている

13 指導内容・指導段階・時間配分が明確に示されている

14 総時数と単元における本時の位置付けが明記されている

15 単元（題材）の目標との関連が分かる記述である

16 子どもの側に立っていて，具体的な表現である

17 本時の指導につながる観点で，具体的である

18 できないことだけでなく，できそうなことに着目している

19 子どもの個々の姿が見える具体的な目標である

20 個別の指導計画・全体の目標・実態との一貫性がある

21 授業全体の流れが分かり，中心的な学習活動が明確である

22 子ども一人一人の学習課題が明確に示されている

23 教師の動きやＴＴ間の役割が明確である

24 課題を達成するための指導や支援が具体的に分かる

25 指導目標の達成状況が分かる具体的な評価である

26 観点を定めて評価している

27 授業のねらいの達成状況が客観的・具体的に分かる

28 指導の適切さが確認でき，指導の改善につながる評価である

29 場の設定が図で示され，全体的に把握しやすい

30 教材・教具の工夫や使い方が具体的に示されている

「教科別の指導」の学習指導案を書こう

「教科別の指導」のポイント

教科別の指導では，

- 他の教科や領域・教科を合わせた指導との関連を図ること。
- 児童生徒の興味・関心，実際の生活場面の課題などから，必要な指導内容を重点的に取り上げ，具体的な指導内容を設定していくこと。

が，大切です。

ここでは，教科別の指導の一例として中学部の数学を取り上げます。

１　「教科別の指導」の学習指導案を書こう

○ はじめに

知的障害のある子どもの「教科別の指導」は，教科の内容の系統性を意識しながらも子どもたちの生活の力となり日常生活を豊かにする指導となることが大切です。

学習指導要領には「教科別の指導」について次のように示しています。

○指導に当たっては

・学習指導要領における各教科の目標を踏まえ，児童生徒の実態に合わせて，適切な授業を創意工夫する必要がある。

・学習活動に生活的なねらいをもたせ，児童生徒の実態に即して，生活に即した活動を十分に取り入れつつ段階的に指導する必要がある。

・特に，児童生徒の個人差が大きい場合には，…中略…小集団を編成し個別的な手だてを講じるなどして，個に応じた指導を徹底する必要がある。

○指導計画を作成するに当たっては

・他の教科，道徳，総合的な学習の時間（小学部を除く。），特別活動及び自立活動との関連，また，各教科等を合わせて指導を行う場合との関連を図るとともに，児童生徒が習得したことを実際の生活に役立てるようにする必要がある。

授業の中で扱うゲームには，数を数える，計算するといった活動のほかに比較したり結果を表にまとめる等様々な数量関係の内容を含んでいます。以下の数学の授業では，個々の実態を踏まえて，役割や教具を工夫し，ゲームを楽しみながら個々の力に応じた学習ができるよう配慮してみました。

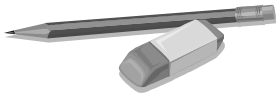
「教科別の指導（数学）」の学習指導案では，次のような生徒たちを想定しています。

～こんな子たちです～

特別支援学校（知的障害）

中学部　　３年生

グループの生徒数　　４名（男２名，女２名）



生徒の様子

中学部３年生には，１３名の生徒がいます。国語や数学の学習では，生徒の実態と単元の内容により，いくつかのグループに分かれて学習をしています。

今回は，ゲームを楽しみながら，その中で数や計算の力を伸ばすことを目的に４名で一つのグループを編成しました。Ａさん，Ｂさん，Ｃさん，Ｄさんとも知的な遅れがあり，Ｃさんは読み書きについても課題を抱えています。Ｄさんは自閉症の診断も受けています。

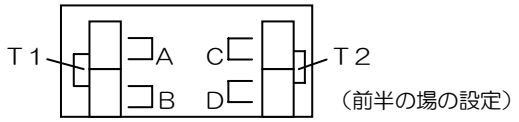
４名とも普段は「数」を意識して生活したり，実際に「数」を操作したり会話の中に「数」が出てくることもそう多くはない子どもたちです。

■■まずは略案から■■

「数学科」　略案　『数えよう，比べよう，みんなで遊ぼう』

小題材名	ボウリングゲームをしよう	指導日時：○月○日（火）○校時 場　　所：３の１教室

目標	・ゲームを通して，楽しみながら数を数えることや計算に興味をもつ。 ・具体物を数える，数を記入する，数を表に記入し大小を比較するなど初歩的な数量の処理や計算を学習し，活動に生かすことができる。

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
（導入） ・　あいさつ ・　本時の予定を知らせる	・　Ｔ１に注目させ，あいさつさせる。 ・　カードに書いた予定をはる。
（展開） **１）係の準備をしよう。** Ａ，Ｂ‥数え係 ・Ａ，Ｂは，１対１対応させながら数える。 Ｃ‥表・審判係 ・Ｃは，二つの数字を比べて大小を比較する。 Ｄ‥表・集計係 ・Ｄは，２桁や３桁の足し算，引き算の練習をする。	・Ａ，ＢとＣ，Ｄに別れて学習させる。  （前半の場の設定） AB：１０までの数唱，数量について具体物や半具体物を数える活動を通して学ばせる。 Ｃ：数の大小，違い（差）についてカードを用いてゲーム感覚で考えさせる。 Ｄ：表を用いて，集計や違い（差）について計算することを数多く取り組ませる。
２）ボウリングゲームをしよう。 ・表の名前の順番にボウリングを行う。 ・４名が順番に投球し，それぞれの方法で倒れたピンの数を数える。 ・Ｃは，結果を表にまとめ，数の大小から勝敗を決める。 ・Ｄは，合計を計算して記入する。 ・勝敗を発表する。	Ａ：リズム良く数唱してタイミングよくピンをしきりのついた箱に入れる。 Ｂ：ばらばらに倒れたピンを数えづらいときは，並べてから数えさせる。 Ｃ：友達や自分の倒れたピンの数を表に書き込ませ，数の大小を比較させる。 Ｄ：同時に三つの数を足していく方法と，二つの数を足してからもう一つを足していく方法の二通りを示し，分かりやすい方法で取り組ませる。
（終結） ・個々の学習を生かしてゲームを進め，みんなで楽しめたことを確認する。 ・次時の予告	・個々の学習を生かして，楽しくゲームを進められたかを振り返らせる。 ・次時の学習内容を知らせる。

備考	・前半は二人ずつ分かれて学習，後半は全体でゲームをする。 ・Ｔ１は○○先生で，ゲームでの全体への指示。ＡとＢの個別対応。 Ｔ２は□□先生で，ＣとＤの個別対応。書かせる場面でのＣへの支援。ゲームの場面では全体の動きをサポートする。 準備：ボーリングセット，牛乳パックで作ったしきりのついた箱，数カード，表

Before

ポイントでチェック

■■細案に挑戦■■

数学科 学習指導案

１　単元名

「ゲームをしよう」

２　単元設定の理由

〇生徒観

対象となる生徒は，・・・・・

学習活動全般においては，飽きやすく，興味のない活動には集中できないことが多い。

数学科の学習においては，道具を用い，１対１対応させながら数を数えられる生徒，１０までの数ならば，指差しながら数唱し数えることができる生徒，二つないし三つの数を比較して，表やグラフにまとめたり，合計や差を求めたりすることができる生徒と，その能力差が大きい。

〇単元観

本単元では，「ボウリングゲーム」「輪投げゲーム」「的あてゲーム」「ルーレットゲーム」と興味のある遊びを通して，楽しく学習を進めるものである。ゲームに夢中になれば，・・・・・

書きなおして
みると‥

一般的には　表題に学部や学年，
教科名，指導の形態名が記載されます。

After

数学科 学習指導案

日時：平成○年○月○日　○校時
場所：３年１組教室
指導者：Ｔ１　Ａ教諭
　　Ｔ２　Ｂ講師

授業の内容が具体的に分かる表現に！1

１　単元名

「数えよう，比べよう，みんなで遊ぼう」

２　単元設定の理由

○生徒観

対象となる生徒は，・・・・・略・・・・・
学習活動全般においては，興味のもてる活動には集中して取り組むことができる。また，どの生徒も，活動をパターン化し，文字や図等で次の行動等を示すことによって，見通しをもつことができる。

数学科の学習においては，具体物を用いて１対１対応させながら数を数えられる生徒，１０までの数を指差し・・・・・・・・・と実態に差が見られる。個々の実態の差が大きいので，それぞれの課題に取り組めるような単元の工夫が必要である。

否定的な表現は避ける！4
現在できていることやできつつあることが指導の手掛かりになります。

○単元観

本単元では，「ボウリングゲーム」「輪投げゲーム」「的あてゲーム」「ルーレットゲーム」と生徒たちが興味のある活動を通して，数と計算の学習を楽しく進めることができる。ゲームの中には，分類，数唱や順序数，比較，・・・・・・　統計など数と計算や数量関係の内容を多く含んでいる。ゲームを楽しみながら，それらを個々の実態に応じて習得させたい。

また，他の教科や領域・教科を合わせた指導の中や学校や家庭における余暇活動の中でも，数える，比較するといった活動を生活に生かせるようになってほしい。

単元の価値をはっきりと！5

○指導観

授業を，大きく二つの内容で構成する。

前半は，個別の学習課題を設定し，個々の実態や課題に応じて数量の処理や計算を行う。一つ一つの課題を生徒に分かりやすく提示し，落ち着いて取り組めるよう二人ずつに分かれて学習する。

後半のゲームでは，生徒が興味をもって取り組める教具の工夫を図る。さらに，数を分かりやすくとらえるために，視覚的な提示を多く取り入れる。さらに，授業の流れをパターン化して・・・・取り組めるようにする。

ポイントでチェック

Before

３　単元の目標

○　みんなで楽しくゲームをしよう

１１

・付けたい力が簡潔に書かれていますか？

４　単元計画

ルーレットゲームをしよう（２）
ボウリングゲームをしよう（２）　本時３／８
輪投げゲームをしよう　　（２）
的あてゲームをしよう　　（２）

１３

・指導内容が明確に示されていますか？

５　単元における個人の実態及び目標

氏名	実　　態	目　標
A	１０以上になると数を正確に数えられない。	１０までの数量を理解することができる。
B	活動内容が分かりにくいと怒り出す。 ５以上の数になると具体物を見ても数の大 とができない	１０までの数量を理解することができ，数の大小の比較ができる
C	興味が持続し 数字を書く る。 ２ 位数の繰 法ができない	
D	見通しが立 きく不安を感 筆算を用いて り上がり，繰 計算ができる	

１７

・項目に分けて実態をチェック
・現在できることに着目していますか？

トピック

単元・題材の指導目標設定の観点

「単元の目標」は授業のねらいにより以下の三つの観点から設定されます。

〈1〉学習課題に対して興味・関心をもたせるようにする，あるいは，その課題に取り組む意識・意欲・態度を形成する，という観点から設定される指導目標。

〈2〉学習課題と関連させて，その課題を経験させ，慣れ親しませる，という観点から設定される指導目標。

〈3〉学習課題に取り組むことによって，特定の知識や技能を習得させる，という観点から設定される指導目標。

通常，一つの単元・題材において，二つか三つの指導目標が設定されることが多い，その場合，上述した三つの観点の指導目標がすべて設定されるとは限らない。それらの指導目標がすべて設定されることもあるが，一つの観点からだけの指導目標が設定されることもある。（以下略）

障害児教育　授業の設計　阿部　芳久著　日本文化科学社

After

つけたい力が分かるように！**１１**

内容を明確に！　**１３**

具体的に個々の実態と目標を！**１７**
単元の実態と目標を個別に書きます。

３　単元の目標

・　様々なゲームを楽しみ，数に対して興味や関心をもつ。
・　数える，計算する，比べるといった日常生活における初歩的な数量の処理をすることができる。

４　単元計画　（８時間扱い　　本時　３／８時）

小単元名	学　習　内　容
ルーレットゲームをしよう（２）	サイコロ代わりに１から10までのルーレットを使って，すごろくゲームを行う。出た数だけ自分のコマを正しく進められるようにする。
ボウリングゲームをしよう（２）〔本時１／２〕	１０本のボーリングのピンを使って，ピンを何本倒せたか数える。表に倒したピンの数が分かるよう図に記入し，倒したピンの合計を数えて勝敗を競う。
輪投げゲームをしよう　（２）	１から９までの得点が表示してある輪投げを使用し，得た点数を表に記入する。各自の得点の合計を計算し勝敗を競う。
的あてゲームをしよう　（２）	中心から50，40、30，２０，１０，５，１と描かれた的にマジックテープのついたボールを投げ，得た得点の合計を競う。

５　生徒の本単元にかかわる個人の実態及び目標

名（性別）	Ａ（男）	Ｂ（女）	Ｃ（男）	Ｄ（女）
数への関心，授業への意欲等	・指示があれば物の数を数えようとする。 ・勝敗を意識しゲームを楽しむことができる。	・指示に従い〇個ずつ物を配ることができる。 ・活動内容が分かりにくいとかんしゃくを起こすことがある。	・カレンダーを見て日付を理解し行動できる。 ・読み書きに困難がある。時間をかければ数字を書いたり読んだりできる。	・計算が得意であり，意欲的である。 ・自閉症があり，見通しがたたないことに不安を覚える。勝ち負けにこだわる。
数の理解や表現	・１から１０までの数唱はできるが，数が多くなると具体物を数える際に言葉と手の動きが合わなくなることがある。	・１０までの物を指差しながら数えることができる。5までの数の大小を比較することができる。	・１位数同士の数の繰り上がり、繰り下がりのある加法計算や減法計算ができる。 ・支援があれば１０の位の数を意識し，２桁の数字を見て数の大小が分かる。	・２位数までの数字を比べて大小や多少が分かる。 ・筆算を用いて２位数の加法，減法計算ができる。
本単元に関する生徒の個人目標	・10 までの物の数を言葉と手の動きを合わせて正確に数えることができる,	・１０までの数の数量を理解し，大小や多少の比較をすることができる。	・２位数と１位数の繰り上がりのある加法ができる。２桁の数字の大小比較ができる。	・３位数までの加法ができ，表やグラフにまとめることができる。

ポイントでチェック

Before

６　本時の学習活動　（　３/８時　）

（１）小単元名　「ボウリングゲームをしよう」

（２）本時の目標

①　本時の全体目標

・ゲームを通して，楽しみながら数字や計算に興味をもつ。

・個別の課題学習を通して，数や数量，比較について内容や方法の理解を深めることができる。

②　本時の個人目標

氏名	目　　標
A	・楽しくゲームに参加することができる。 ・１０までの数を，具体物を使って正確に数えることができる。
B	・楽しくゲームに参加することができる。 ・１０までの数を，具体物を見て一人で正確に数えることができる。
C	・楽しくゲームに参加することができる。 ・２桁の数の足し算ができる。 ・数の大小を比較できる。
D	・楽しくゲームに参加することができる。 ・筆算を用いて三つの数の合計を計算することができる。 ・数の大小を比較できる。

１９

・個々の目標は何か具体的に書こう

２０

・個別の指導計画とつながりがありますか？

２６

・観点を決めて評価していますか？

（３）学習過程　別紙

（４）評価　　～　略　～

トピック

指導内容表を活用しよう

新しい内容を学習する際には，これまで学習してきたことと関連付けて考えたり，根拠を基に筋道を立てて考えたり，表現したりすることが大切です。そのような学習活動においては，学習内容のつながりを明確に児童生徒に意識させるために，教師が指導内容の系統性を明確にし，児童生徒の実態に基づいた学習指導を工夫することが必要となります。その際,学習指導要領や教科用図書から指導内容表を作成・活用することで児童生徒の実態を把握し，指導の見通しをもつことができます。

After

個々の目標を具体的に！
１９
目標を具体的に設定することで，指導する内容がはっきりします。

個別の指導計画の目標がより具体化し，本時の目標となります。
２０

あらかじめ何をどう評価するのかを決めておくことが大切です。
２６
児童生徒の実態によっては，以下に示す通常の学級で使われる算数・数学科の四つの観点で評価することもあります。
【関心･意欲･態度】
【数学的な考え方】
【表現･処理】
【知識･理解】

６　本時の学習活動　（　３／８時　）

（１）小単元名　「ボウリングゲームをしよう」

（２）本時の目標

①　本時の全体目標

・　ゲームを通して，楽しみながら数や計算に興味をもつ。

・　個別の課題学習を通して，数や数量，比較について内容や方法の理解を深めることができる。

②　本時の個人目標

氏名	目　　標
A	・数え係として楽しくゲームに参加し，進んで倒したピンの数を数え報告しようとする。 ・１０までの数を，言葉と指を使って正確に数えることができる。
B	・数え係として楽しくゲームに参加し，進んで倒したピンの数を数え記入しようとする。 ・１０までの数を見て，数の大小を比較しようとする。 ・１０までの数を，指差しながら正確に数えることができる。
C	・表・審判係として得点を意識してゲームの勝敗を判断し，ゲームを楽しむことができる。 ・２桁の数字を見て，数の大小を比較できる。 ・数え足しの方法を用いて，２位数と１位数の足し算ができる。
D	・表・集計係として得点を意識し，表に記入したり計算したりすることで勝敗に関心をもち，ゲームを楽しむことができる。 ・筆算を用いて三つの数の合計を計算することができる。 ・合計した数字を見て，数の大小を比較し勝敗を決めることができる。

（３）学習過程　別紙

（４）評価

〇生徒の評価　　評価の段階…◎十分達成できた　〇達成できた
△達成の度合いが不十分である　×達成できていない

氏名	評　価　項　目	評価
A	ゲームの中でボーリングのピンを数え報告しようとする。	
	１０本までのピンを，手の動きと言葉を合わせて正確に数えることができる。	
B	ゲームの中でボーリングのピンを数え記入しようとする。	
	１０本までのピンを，指さしながら正確に数えることができる。	
	１０までの二つの数字を見て，数の大小を比較できる。	

〇教師の評価　生徒が活動しやすい場の設定と教材が工夫できたか

（３）学習過程　**Before**

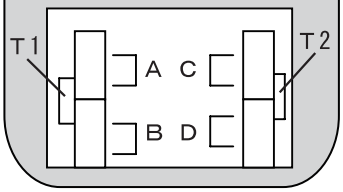
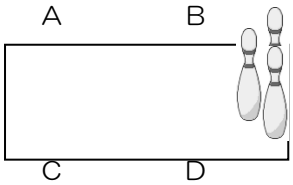
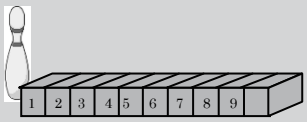
段階	学習内容	教師の働き掛け（○）指導上の留意点（●） Ａ（T1）	 Ｂ（T1）
導入 (5)	１　はじめのあいさつをする。 ２　本時の予定を知る。	○Ｔ１に注目させ，あいさつさせる。	
展開 (35)	３　係の準備をしよう。 ・２つのグループ（T1，T2）に別れて学習をする。 ・個々の実態に合わせて係や課題を設定する。 Ａ，Ｂさん・・・数え係 Ｃさん・・・・・表係・審判 Ｄさん・・・・・集計係 ・課題は，既習事項も含め，自分で解決するものと，新しい事項を含むものを織り交ぜたものを行う。	**Ｉ グループ** ピンを数える練習をする。 ○具体物を一緒に数えて数字カードを選ばせたり，書かせたりする。 ●一列に並べさせながら，ゆっくり声に出して数えさせる。 ●数唱がずれてしまった場合は，１から数え直させる。	絵に描いているものを数え数字で書く。 ○紙面に書かれたものを数えて数字を書かせる。 ●並べ替えができないものは，印を付けさせて，一つ一つ確実に数えさせる。 ●数字で書かせる場合は，数字カードを手本にして書かせる。
	４　ボウリングゲームをしよう ・表の名前の順番に行う。 ・４名が順番に投球し，ＡさんとＢさんは，倒れたピンの数を数える。 ・Ｃさんは，結果を表にまとめ，結果を比較する。 ・Ｄさんは，合計を計算して記入する。	（数え係） ○倒れたピンの数を数えて報告する。 ○倒れたピンに注目させ，しきりのついた箱に入れて数えさせる。 箱に入れるタイミングと数唱を合わせて，リズム良く数えさせ，倒れた分の数を意識させる。	○倒れたピンを指差しながら数えさせ，何本倒れたか問い掛ける。 ●ピンを指差しながら数えさせる。
終結 (5)	５　係の仕事をし，みんなでゲームを楽しめたことを確認する。 ６　終わりのあいさつをする。	○ゲームの中で，数が上手に数えられたか振り返らせる。 ○Ｔ１に注目させ，あいさつさせる。	○ゲームの中で正確に数が数えられたか振り返らせる。

個に応じた課題を具体的に提示しよう。例えば
○倒れたピンの数を数えて報告する。
Ａ：倒れたピンの数を，しきりのついた箱に入れて数える。
Ｂ：倒れたピンを指差しながら数える。 **２２**

生徒が困ったときの対応も書くと Good!　例えば，
「ばらばらに倒れたピンを数えづらいときは，並べてから・・・」 **２４**

学習過程は改善前のページだけを載せているよ！

Before

教師の働き掛け（○）指導上の留意点（●）		場面図・準備物	ポイントでチェック
C（T2）	D（T2）		
○学習の区切りを意識させる。	○本時の活動を確認させる。	Ｔ１（黒板）に向かって座る。	**２１** トランプ遊びでは学習内容が分からない。中心的な学習は明確にしよう。
「二つの数の大小を比較する練習をする」のように，課題の内容を分かりやすく書こう。 **２１**			
Ⅱ グループ		２グループに分かれ壁に向かって座る。	
トランプ遊びをする。	二つや三つの数を合計したり，差を求めたりする練習をする。	個別の課題をグループごとにするなら，次の活動に最小限影響のない，場の設定も必要です。 **２９** 	**２９** 場の設定は分かりやすく図で示そう。
○トランプを用いて，数の大小や違い（差）について，考えさせる。 ●比較する数は２０までの数とし，２位数同士の比較は，１０の位に注目させる。 ●集中力が切れないように，テンポよくカードを提示して取り組ませる。	○三つの数の計算方法を指導する。 ●同時に三つの数を足していく方法と，二つの数を足してからさらにもう一つを足していく方法の二通りを示し，分かりやすい方法で取り組ませる。		**２２** 一人一人の学習課題を具体的に示そう。
（表係・審判係） ○ゲームの結果を表にまとめる。 ○二つの数を比較する。	（表係・集計係） ○合計を計算して表にまとめる。 ○合計点を比較して順位を決める。	レーンに向かって座る。  ボウリングセット　集計表	**２４** 課題を達成するための支援を明確に！（指示）「並べて数えると簡単だね」
○友達や自分の倒れたピンの数を表に書き込ませる。 ●２桁の場合は位取りの補助線を書き加える。	○３回分の合計を計算して表に書き込ませる。 ●表の特性を生かして，筆算での計算を取り入れる。	使いやすい教具を準備すると意欲もＵｐ！ **２４** 【牛乳パックで作ったしきりのついた箱】 	**２４** 課題を達成するための支援を明確に。（教具）数えやすいようにしきりのついた箱を使おう。
○友達と自分の数を比較させる。 ●表の中から比較する数が見つけられない場合は，抽出する数が分かりやすいように囲んで示す。	○合計点数から，順位を考えさせる。 ●三つの数の比較が難しい場合は，二つの数の比較から考えさせる。		
○難しかったこと，楽しかったことを発表させる。 ○学習の区切りを意識せる。	○自分の役割を果たすことができたか振り返らせる。 ○Ｔ１に注目させ，あいさつさせる。	Ｔ１に向かって座る。	

コラム

領域・教科を合わせた指導

「領域・教科を合わせた指導」については，学校教育法施行規則第１３０条２項の規定により以下のように定められています。

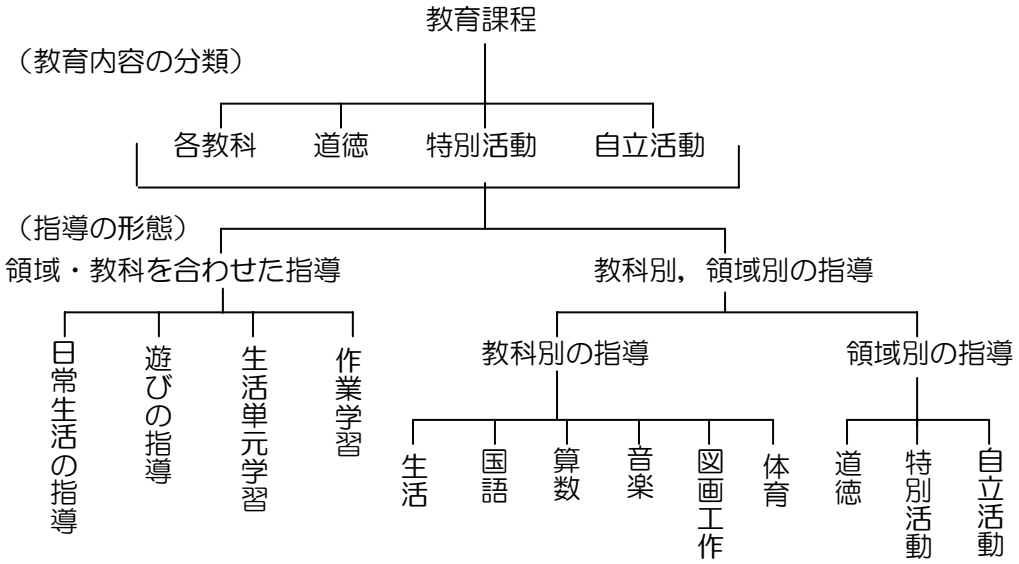
> 特別支援学校の小学部，中学部又は高等部においては，知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは，各教科，道徳，特別活動及び自立活動の全部又は一部について，合わせて授業を行うことができる。

知的障害のある児童生徒の教育では，教科別，領域別にそれぞれ分けて指導するより，各領域・教科に含まれる内容を統合して，総合的に学習する方が効果的なことから従前より各教科を合わせた指導を「領域・教科を合わせた指導」と呼び，「日常生活の指導」，「遊びの指導」，「生活単元学習」，「作業学習」などとして実践されてきています。

「領域・教科を合わせた指導」「教科別の指導」「領域別の指導」これらは，実際に授業を行う場合の指導の形態です。（下図参照）

指導に当たっては，領域・教科の指導内容をただ単に寄せ集めるだけではなく，児童生徒の実態に応じて分かりやすく，意欲的に取り組めるような内容に構成していくことが必要です。また，学校生活や家庭生活，社会生活に直接結び付くような学習を設定することが重要です。

教育課程の構造図（知的障害特別支援学校小学部の場合）



H3　特殊教育諸学校　小学部・中学部学習指導要領解説　ー養護学校（精神薄弱教育）編ーより（一部改）

※学習指導要領では「各教科等を合わせて指導を行う場合」の表現はありますが，「各教科等を合わせた指導」の表現はないので，当センターでは，従前より使われてきた「領域・教科を合わせた指導」の表現に統一して表記します。

「遊びの指導」の学習指導案を書こう

「遊びの指導」のポイント

遊びの指導では，子どもたちが，
・新しい遊び方を知る。
・思い切り遊ぶ。
・主体的，能動的に遊ぶ。
・遊ぶ楽しさを味わう。
ことができるように，指導内容を吟味し，
指導や支援を工夫します。

２　「遊びの指導」の学習指導案を書こう

○はじめに

遊びの指導とは…

「遊びの指導」は，領域・教科を合わせた指導の形態の一つとして，主に小学部を中心に教育課程に位置付けられています。

「遊びの指導」は，遊びを学習の中心に据えて，身体活動を活発にし，仲間とのかかわりを促し，意欲的な活動を育てていくものです。

遊びの指導の内容は，自由遊びと課題遊びとに分けられます。自由遊びは，一定の条件の場や遊具等が設定されることなく,児童が自由に取り組む遊びです。一方，課題遊びは，砂，水，粘土，ダンボール，積み木，ボール等で設定した一定の場や遊具等で，一定の課題に沿って取り組む遊びです。これらの課題が，生活単元学習や音楽，図画工作，体育等の学習の課題へと移行し，発展していくものです。

遊びの指導の展開の仕方は…

（１）児童が積極的に遊ぼうとする環境を設定します。

（２）遊びをできるだけ制限することなく，安全に遊べる場や遊具を設定するようにします。

（３）教師と児童，児童同士のかかわりを促す場を設定し，かかわりがより促進されるよう遊具等の選定や配置を工夫するようにします。

（４）自ら遊びに取り組むことが難しい児童には，遊びを促し，遊びに誘い，いろいろな遊びを体験させ，遊びの楽しさを味わわせるようにします。

（５）身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れるようにします。

（６）遊びの題材を豊富に取り入れた指導をします。

（７）児童の発想が新しい遊びを生んだり、新しい活動につながったりするような工夫をします。

ここでは，次のような児童を想定しました。特に個別の指導計画（第６章）と関連付けて,「遊びの指導」の学習指導案例を提示します。

～こんな子たちです～

特別支援学校（知的障害）
小学部　１～３年
在籍　　１４名（男９名，女５名）
児童の様子
- １４人とも簡単な指示は理解し行動できます。
- 普段の遊びの様子を見ると，それぞれが一人遊びをしていることが多いが，教師が仲立ちすれば一緒に遊ぶこともできるようになってきています。
- １４名中５名は自閉的な傾向があります。
- 自閉的な傾向のある児童は感覚遊びが中心で，意味のある発語がありません。

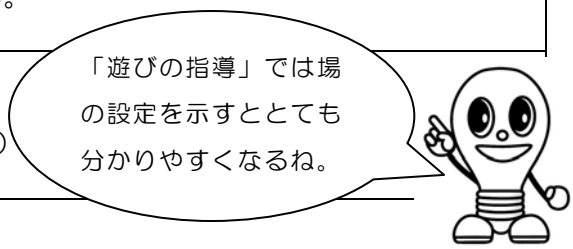
■■まずは略案から■■

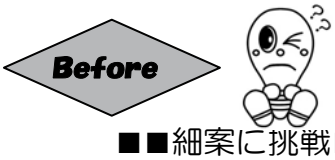
「遊びの指導」　略案　『カミかみランドで遊ぼう！』

小題材名	カミかみランドでいっぱい遊ぼう！（紙遊び）	指導日時	○月○日（○）○校時 ○：○○～○：○○
目標	・好きな紙遊びやコーナーを選んで遊ぶ。 ・紙遊びを通して友達や教師とかかわりがもてるようにする。		

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
１　始まりの音楽で集まる。 （５分）	・遊びの時間のテーマソングを流し，活動が始まることを知らせる。 ・始まりのあいさつはおじぎをする，視線を合わせるなど，一人一人の実態に応じた方法で行い，活動の始まりを意識させるようにする。
２　いろいろな遊びのコーナーで教師や友達と一緒に遊ぶ。（３５分） 全体指導　（Ｔ１） ・紙破り　（Ｔ２） ・紙ちぎり　（ 〃 ） ・紙吹雪　（ 〃 ） ・紙のプール（Ｔ３） ・トンネル　（ 〃 ） ・段ボールの滑り台 （Ｔ４，Ｔ５） ・空き箱の積み木（Ｔ５） ・障子の穴あけ（Ｔ６） ・のれんくぐり（ 〃 ）	・遊びのコーナーは，教師が事前に準備しておき，すぐに遊びが始められるようにしておく。 ・児童が自由に遊びを選べるように，始めはあまり強制せずに児童の様子を観察する。 ・なかなか遊びを始められない児童には，教師がついて一通り遊びを体験させ，表情や動きの様子から，興味を示した遊びは何かを観察するようにする。 ・児童と一緒に遊びながら，遊び方や遊びの楽しさを教えるようにする。 ・児童が他の児童や教師とのかかわりがもてるように，遊びの中でのやりとりの仕方を，意識的に児童に示範する。 ・いろいろな遊びに関心をもたせられるように，教師が積極的かつ楽しそうに遊んで見せて，興味を引くようにする。 ・準備物の安全面には十分に配慮する。
３　終わりの音楽で集まる。 （５分）	・終わりの合図の曲を流し，活動の終わりを知らせる。 ・「楽しかったね。」などの声掛けや，遊んだことの満足感を引き出すようにする。 ・終わりのあいさつを全員で行い，活動の終わりを意識させるようにする。

備考	・　前日に場の設定をしておく。 ※場の設定は，裏面に提示する。（省略）





■■細案に挑戦■■

遊びの指導 学習指導案

１　題材名

「紙を使っての遊び」

２　題材について

○　本学年の児童は，男子９名，女子５名であり，そのうちの５名が自閉的な傾向があり，意味のある発語がなく，・・・・・・・・・

普段の遊びの様子を見ると，自由遊びができる児童が少なく，教師の指示を待って遊んでいる児童が多い。それなりに自由遊びを行うが，遊びの経験が少なく，自分の好みの遊びに偏りがある。・・・

○　・・・身近にあるものとして，紙を使って遊ばせたい。
紙は安価でいろいろな種類があるので使いやすい。どの児童も喜んで取り組むような気がする。
紙での遊びは，昨年度も取り組んでいる児童も多く，慣れ親しんでいる。・・・

○・・・指導に当たっては，児童が自由に楽しく遊べるように，工夫したい。・・・

「題材名」とするか「単元名」とするかは，教材をどのように分けたり，まとまりとするかによって決まることになります。単元は，見通しをもって順序良く取り組む大きな流れで構成します。遊びの指導は「題材名」が使われることが多いようです。

ポイントでチェック

1
・活動のイメージがもてますか？

2
・学級の様子が分かりますか？

4
・児童の良いところはないのですか？

3
・題材に対する児童の興味・関心や実態はありますか？

5 **6**
・この題材を取り上げる意義は？
・子どものどんな変容が期待できるかを書きましょう！

8 **9**
・指導の方針・手だて，指導する上での工夫や留意点が簡潔に表現されていますか？

After

書きなおして
みると・・

児童が楽しみにする表現に！ 1

学級の一般的な実態を簡潔に書く 2
児童の良い点を見つけることも大切！4

題材に対する児童の興味関心や実態を具体的に！ 3

教材の意義と「～すれば～が期待できる」など，どんな変容が期待できるかを書くとGood！
5 6

指導の方針・手だて，指導する上での工夫や留意点を簡潔に書く
箇条書きでも！
8 9

遊びの指導 学習指導案

１　題材名　　○月△日３校時（小ホール・教室）

「カミかみランドで遊ぼう！」　　小学部　１～３年生　１４名

（紙遊び）　　指導者　Ｔ１～Ｔ６

２　題材について

○　本学年の児童は，男子９名，女子５名であり、・・・・・・そのうち５名は自閉的な傾向がある。多動の傾向が見られたり，大集団での集会に不安を感じたりする児童もいるが，入学してからの約半年間で学校生活にも慣れ，落ち着いて生活できるようになってきている。

普段の遊びの様子を見ると，お互いをあまり意識することなく，それぞれが自分の好きな遊びをしていることが多く，・・・・・・・・・・教師の働き掛けによっては，新しい遊びに気付いたり，友達を意識して遊んだりする姿も，少しずつ見られるようになってきた。

紙は身近なところに多種多様にあり，手に取って触れる機会が多い。児童たちは学校生活の中でも，折り紙を小さく折りたたんだり・・・・・・・紙類のもつ感触や素材の特徴に興味をもっている。

○　小学部における遊びの指導は・・・・・・・・・・・・。

また，低学年の児童が一緒に遊ぶ素材として，扱いやすく安全な紙を取り入れたい。紙という素材は，破る，ちぎる，丸めるなど，児童の発達段階に合わせていろいろな遊びを工夫することが可能であり，児童の自由な発想で遊びを展開することも期待できる。この活動を通して，児童の興味・関心を喚起しながら，児童の自発的な行動を引き出すと共に，友達や教師とのかかわりを一層深められると考え，本題材を設定した。

○　指導に当たっては，紙の素材を生かしていろいろな遊びの楽しさを味わわせたい。また，教師自身が楽しく遊ぶことで，みんなで一緒に遊ぶ楽しさを実感させたい。さらに，児童の自発的な遊びになるよう，できるだけ規制を少なくし，状況に応じた臨機応変な支援を[illegible]教材・教具については安全面に[illegible]が興味・関心をもって生き生きと[illegible]のかかわりを深めていくことができる[illegible]

第６章の個別の指導計画につながっている部分を網掛けしています。

Before

ポイントでチェック

３　題材の目標

・体全体で，紙の感触を楽しむ。
・紙を使った遊びの楽しさを味わう。
・友達や教師とかかわりながら遊ぶ。

４　指導計画（１０時間扱い）

小題材名	主な学習内容	時数
紙でつくろう	・紙で遊びコーナーで使う教材・教具つくる。	２
遊びコーナーで遊ぼう	・遊びコーナーで教師や友達と一緒に遊ぶ。	４
遊びコーナーで自由に遊ぼう	・遊びのコーナーで自由に遊ぶ。（本時）	４

５　本時の指導

（１）本時の題材
「遊びコーナーで自由に遊ぼう」

（２）本時の目標
・紙で友達や教師といっしょに楽しく遊ぶ。

（３）個別の実態と目標

氏名	実　　態	目　　標
A	機械に興味がある。 集中が続かない。	好きな遊びで集中して遊ぶ。
B	興味の範囲がせまい。 友達と一緒の活動を嫌がる。	興味のあるもので友達と一緒に遊ぶ。
C	本に興味がある。 一人で遊ぶ。	教師と一緒に遊ぶ。
D	紙でいたずらをする。 友達が好きである。	すすんで紙で遊ぶ。

１１
・児童に付けたい力・何を目指すのかが書いてありますか？

１２
・「…を通して～する」の表現で記述されていますか？

１４
・総時数と単元における本時の位置付けが明記されていますか？

１７
・本時の指導につながる観点での実態になっていますか？

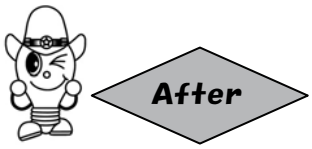
１９
・児童の姿が見える具体的な目標になっていますか？

紙面の都合で，ここでは14名中4名の児童についてのみ記述していきます。学習過程では，グループでの表記もできますね。

トピック

体育との違いは？

体育は教科で，遊びの指導は領域・教科を合わせた指導です。
「はじめに」（ｐ３６）にもありますように，遊びの指導とは，遊びを学習の中心に据えて，身体活動を活発にし，仲間とのかかわりを促し，意欲的な活動を育てていくものです。その課題が，生活単元学習や音楽科，図画工作科，体育科などの学習に移行し発展していきます。ですから，体育の前段階に遊びの指導があると考えることもできます。



この題材全体で何をねらいたいのかを明確に書く 11

「（中心となる活動）を通して～する」の表現になっている 12

総時数と題材における本時の位置付けを明記する 14

実態は本時にかかわる内容を整理して！ 17

目標は児童の姿が見える具体的な表現で書く 19

個別の指導計画・全体の目標・実態との一貫性がある 20

３　題材の目標

・紙遊びを通して，体全体で紙のいろいろな感触を味わう。
・紙を通して興味・関心をもって自発的に行動し，遊びの楽しさを味わう。
・紙を介して友達や教師と一緒に活動することを通して，人とのかかわりを学ぶ。

４　指導計画　　１０時間扱い（本時８／１０）

	小題材名	主な学習内容	時数
カミかみランドで遊ぼう！	カミかみランドを作ろう	・紙を破ったりちぎったりして，紙の感触を楽しむ。 ・ランドで使う教材や教具を教師と一緒に作る。	２
	カミかみランドで一緒に遊ぼう	・みんなで作った遊具を並べてランドを完成させる。 ・ランドにあるいろいろな遊びを教師と一緒に経験する。 ・友達とペアになって遊ぶ。	４
	カミかみランドでいっぱい遊ぼう	・いろいろな紙遊びのコーナーで教師や友達とのやりとりを楽しむ。	４ 本時 2/4

５　本時の指導

（１）本時の題材名

「カミかみランドでいっぱい遊ぼう！」（紙遊び）

（２）本時の目標

・好きな紙遊びやコーナーを選んで遊ぶ。
・紙遊びを通して友達や教師とかかわりがもてるようにする。

（３）個別の実態と目標

氏名	本時にかかわる実態	本時の目標 （本時で好んで遊ぶと予想される遊び）
A	・紙にはあまり興味を示さないが，機械のスイッチやボタンが好きである。 ・集中力がなく次々に遊びを変えることが多い。	・大好きな扇風機のスイッチを押して紙吹雪を飛ばしてみせる。 ・好きな遊びを見つけて遊び，教師と繰り返し遊ぶ。 （紙吹雪，障子の穴あけ，トンネル）
B	・ひらひら動くものに興味を示す。 ・クラスの友達とは一緒に活動できることもある。	・ランドの中にある紙がひらひらする遊びに興味をもち遊ぶ。 ・友達と一緒の場所で遊ぶ。 （紙吹雪，紙のプール，滑り台）
C	・本のページをめくって遊ぶことを好む。 ・自分の遊びに友達が入ってくることを嫌がる。	・教師と一緒に紙のプールで友達に紙をかけながら遊ぶ。 ・のれんくぐりで紙をめくって遊ぶ。 （紙のプール，のれんくぐり）
D	・ティッシュを丸めたり破いたりすることがある。 ・友達がそばにいると機嫌がよく笑顔を見せる。	・好きな紙遊びの場所に，自分から行って遊ぶ。 ・友達や教師のまねをして一緒に遊ぶ。 （紙破り，紙ちぎり，紙吹雪）

Before

学習過程は改善前のページだけを載せているよ！

（４）学習過程

段階	学習内容	教師の働き掛け（○）指導上の留意点（●） A	B
はじまり（5	１　始まりの音楽で集まる。 遊びのテーマソング 「アンパンマンのマーチ」 座位で円形に集まる	○あいさつの号令をかけるように促す。 ●元気にあいさつができたことを称賛し，活動への意欲を高めるようにする。	●活動の始まりを意識させるようにする。
なか（35分）	２　いろいろな遊びのコーナーで教師や友達と一緒に遊ぶ。 ①紙破り（Ｔ２） ・新聞紙を自由に破って遊ぶ。 ②紙ちぎり（Ｔ２） ・トイレットペーパーや和紙をちぎって遊ぶ。 ③紙吹雪（Ｔ２） ・細かく切った広告や折り紙を扇風機の風で飛ばして遊ぶ。 ④紙のプール（Ｔ３） ・ビニールプールに新聞紙などを細かくしたものを入れて中に入って遊ぶ。 ⑤トンネル（Ｔ３） ・ダンボールで作ったトンネルをくぐって遊ぶ。 ⑥段ボールの滑り台（Ｔ４，５） ・マットで山を作り，その上にダンボールを敷いて滑り台にして遊ぶ。 ⑦空き箱の積み木（Ｔ５） ・　お菓子の空き箱を使って・・・・。 ⑧穴あけ宝さがし（Ｔ６） ・　障子紙に指で穴を開けて遊ぶ。 ⑨のれんくぐり（Ｔ６） ・紙テープで作ったのれんを・・・。	○紙遊びを始めるように声掛けをする。 ●遊びの各コーナーは準備しておき ●児童が遊びを選べるように，しばらくは子どもの様子を観察する。 友達に扇風機で紙吹雪を飛ばしてみせる ●教師が一緒に遊びながら，遊び方や遊びの面白さを教えるようにする。 ●児童が友達の前でして見せたくなるように，「上手だね。」「すごいね。」などの意欲を高める声掛けを工夫する。	紙のプールに入り友達と一緒の場所で遊ぶ ●友達と自然な形で場を共有できるように，過度な声掛けやかかわり合いはしないように配慮する。 ●言葉だけで誘うのではなく，教材や教具を通して活動に興味をもたせるようにする。
おわり（5分）	３　終わりの音楽で集まる。 終わりの合図の曲 「勇気りんりん」 座位で円形に集まる	○終わりの合図の曲を流し，集合させる。 ●「楽しかったね。」などの声掛けや，・・・満足感やみんなで一緒に遊んだ連帯感などを引き出すようにする。 ○終わりのあいさつをさせる。	

遊びの指導なので，段階もやさしい言葉にしてみました。

一人一人の学習課題は枠で囲んだり強調したりすると分かりやすいですね。22

これではそれぞれの児童を，どの教師が支援するのかが分かりません。Dの後に（T〇）と明記するなど，どの教師が支援するのか分かるように工夫しましょう。23

Before

教師の働き掛け（〇）指	留意点（●）	準備物
C	D	
〇児童を集合させ，座らせる。 ●遊び 間のテーマソングを流して る。 る。 で一 活動することを意識させる。		・ＣＤ
●活動の始まりを意識させるようにする。	●活動の始まり 識させるようにする。	
〇紙遊びを始めるように声掛けをする。 ●遊びの各コーナーは準備しておき，遊びを始められるようにし ●児童が自由に遊びを選べる ばらくは児童の様子を観察		
教師と一緒に紙のプールで友達に紙をかけながら遊ぶ。	友達と仲良く遊ぶ	・新聞紙 ・トイレットペーパー ・和紙 ・おりがみ ・広告紙 ・段ボール ・空き箱 ・障子紙 ・紙テープ ・扇風機 ・ビニールプール ・マット
●児童の興味を引くように教師が面白そうに遊んで見せ，児童が自分もやってみたくなるような雰囲気を作る。 ●教師も楽しんで一 緒に遊びながら，友 達とやりとりをする きっかけを作るよう にする。	●同じコーナーで一緒になった友達と楽しく遊ばせる。	
〇終わりの合図の る。 ●「楽しかったね。」 ・・・満足感やみんなで一緒に遊んだ連帯感などを引き出すようにする。 〇終わりのあいさつをさせる。		〇

これらの“働きかけ”は，どの教師がどの児童に対してするのでしょう？　T・Tの動きがはっきり分かるように書きましょう。23

どの児童も同じ留意点でいいのでしょうか？　実態によって“視線を合わせる”“おじぎをさせる”“声を出させる”など，始まりを意識させるための支援は違ってくるはずです。24

“仲良く遊ぶ”とはどんな姿を想定しているのでしょう？　児童の姿が見えるような表現で具体的に書きましょう。22

自分から遊びを始められない場合や，友達と一緒のコーナーにならなかった場合など，どのような支援を行うのかが分かりません。児童の動きを想定して，具体的にどのような支援をするのかを書くことが大切です。24

遊びの指導では，教師の担当が，子どもに付く場合と遊具等の場所に付く場合があります。
ここでは，遊具ごとに担当の教師を決めています。

ポイントでチェック

22
・一人一人の学習課題が分かりますか？

23
・児童生徒の流れで書かれていても教師の動きが分かるようになっていますか？

24
・どの場面でどのように支援するかが分かりますか？

Before

６　評価の観点

氏名	評価の観点
A	好きな遊びで集中して遊ぶことができたか。
B	興味のあるもので遊ぶことができたか。
C	教師と一緒にいきいきと遊ぶことができたか。
D	すすんで紙で遊ぶことができたか。

７　場の設定

＜小ホール＞
・滑り台
・積み木　　・トンネル

＜教室＞
・のれんくぐり
・穴あけ宝さがし

＜教室＞
・紙のプール
・紙破り　　・紙吹雪
・紙ちぎり　　（扇風機）

ポイントでチェック

２５
・目標の裏返しになっていませんか？

２７　**２８**
・教師の評価（授業の評価）はありますか？

２９
・分かりやすい場の設定になっていますか？

トピック

場の設定の工夫

よりよく遊ぶことができるように，場の設定も考えていく必要があります。子どもたちの関心，遊びの現状，使うことのできる場所，子どもの人数や教師の人数などに応じて，みんなで遊べる遊び場を工夫して作ります。

小学部全員で遊ぶために体育館やプレイルーム，また中庭や校庭などの広いスペースに作る場合があります。広い場所の遊び場で１箇所で遊ぶ場合もあれば，教室など部屋を複数使ったり，校庭，裏庭など分散したりして遊び場を設けることもあります。

遊び場には，危険箇所がなく，子ども同士の衝突，転落，衛生上の危険性もないことなどを確認し，安心して遊べるように配慮しましょう。

After

６　評価の観点

○児童の評価

氏名（学年）	評価の観点
A	・扇風機のスイッチを押して，紙を飛ばして遊んだか。 ・気に入った遊びを見つけ，教師と何回もやってみたり，遊び方を変えたりして遊ぶことができたか。
B	・ランドの中にある遊びに興味をもち，自分で手を伸ばすことができたか。 ・友達と一緒の場所で嫌がらずに遊ぶことができたか。
C	・教師といっしょに言葉や物などのやりとりをしながら遊ぶことで友達とかかわれたか。 ・紙をめくったり，遊び方を変えたりして遊ぶことができたか。
D	・気に入った遊びを見つけ，その場所に自分で行って遊ぶことができたか。 ・友達や教師が遊んでいる様子に興味をもち，まねをしようとすることができたか。

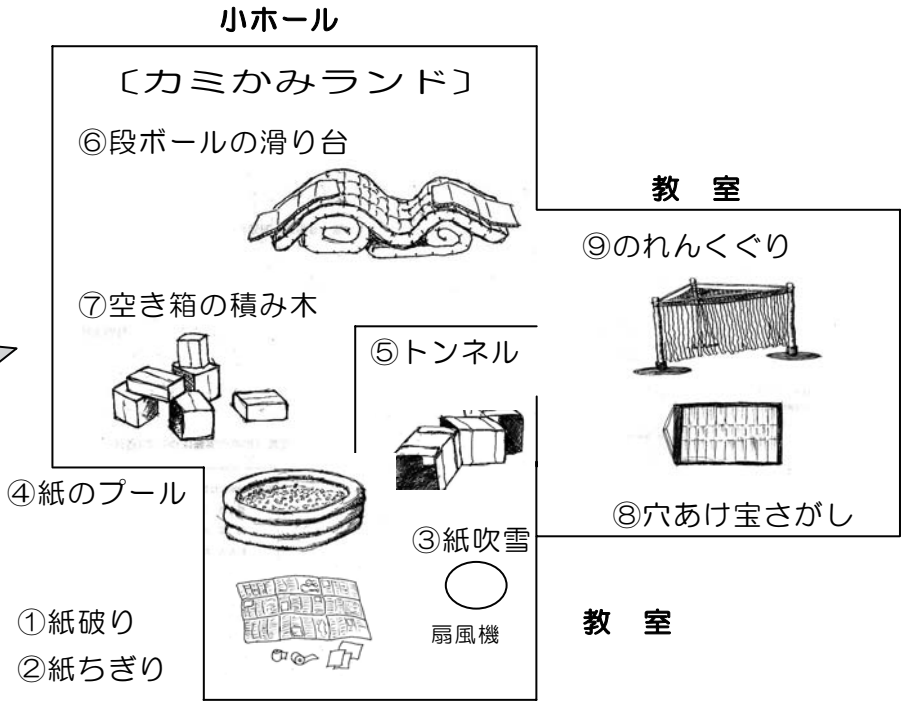
○教師の評価

・児童の動きを配慮して適切な場の設定をしていたか。

・教師の役割・分担は，適切だったか。

目標の裏返しとなる評価でなく，児童の変容を具体的にとらえられる評価を！ 25

７　場の設定



一目でイメージしやすいように，図に表すとよい！ 29

コラム

遊びの発達

子どもにとって遊びは身体をつくり，脳を柔軟にし，創造力と豊かな感性の土台をつくる大切なものです。「遊びの指導」の計画を立てる際は，子ども一人一人の遊びの発達段階をしっかりと理解し，目標を設定する必要があります。

ここでは，いろいろな遊びの発達の中から，代表的なピアジェとパーテンの遊びの分類を紹介します。

◇ 子どもの遊びの思考の発達

ピアジェは，図１のように，思考の発達の段階に対応させて遊びの発達を考えました。感覚や運動の機能を喜ぶような人に関係のない遊びの①「感覚運動的思考の時期」（０～２歳），情緒的体験と同化する遊びの②「表象的思考の時期」（２～7 歳），パズル・ゲームなどの守るべき規則のある遊びの③「具体的操作の時期」（7～11 歳）を経て，思春期以降の「抽象的思考の時期」へと発達していきます。①や②が個人的な遊びであるのに対して，③は社会的遊びとされています。

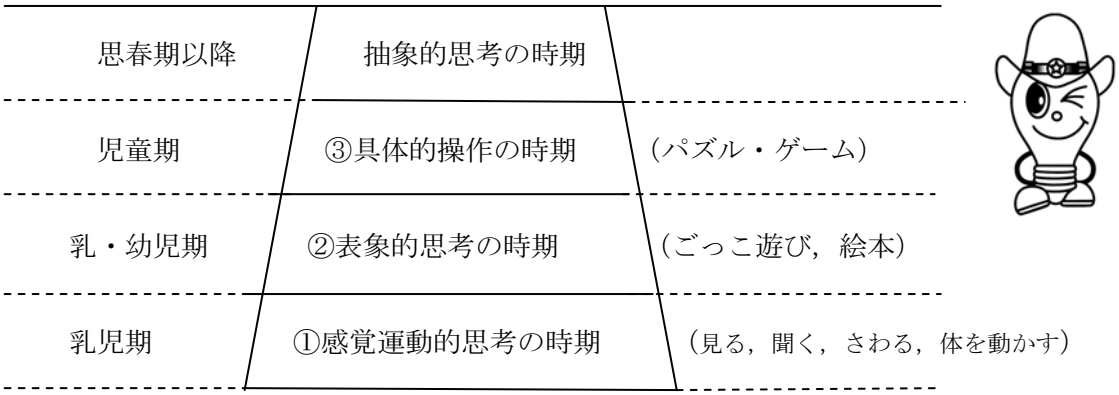


図１　子どもの遊びと思考の発達（ピアジェ・津守）

◇ 子どもの人間関係の発達からみた分類

パーテンは，子どもの自由遊びを観察し，発達と社会的参加の度合いから遊びを六つに分類しました。

① 何もしていない遊び
② 傍観者的遊び（他の子どもの遊びを見ている）
③ ひとり遊び
④ 並行あそび（子どもたちがそばで同じようなおもちゃで遊ぶが，お互いに干渉がない）
⑤ 連合遊び（おもちゃのやりとりなど交渉があり，同じように遊ぶ）
⑥ 協同的遊び（共通の目的があり，リーダーの存在，役割分担がある）

子どもをじっくり観察することで，どの遊びの段階かを知ることができます。

「生活単元学習」の学習指導案を書こう

「生活単元学習」のポイント

生活単元学習は，領域・教科を合わせた指導の一つです。

生活に基づいた課題処理や解決に，児童生徒が自分で取り組んでいけるように，単元構成で指導計画をたてます。

個別の指導計画や，教科等の指導内容を関連させながら，指導内容を設定します。

１　「生活単元学習」の学習指導案を書こう

○ はじめに

「生活単元学習」は，領域・教科等を合わせた指導の一つです。児童生徒がより豊かな社会生活や職業生活を送れるように，必要な内容を教科や領域と関連付け，意図的，計画的に進めていきます。児童生徒の実態を考慮し，興味・関心に基づきながら意欲的に取り組めるように，生活的な目標や課題に沿った単元構成に配慮しましょう。また，指導体制も加味しながら，児童生徒の実質的な活動が保障されるようにしていくことも大切です。

また，指導計画の作成に当たっては，学習指導要領解説にも示されている，以下のような点について考慮することが重要です。

○ 単元は，実際の生活から発展し，児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり，個人差の大きい集団にも適応するものであること。

○ 単元は，必要な知識・技能の獲得とともに，生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり，身に付けた内容が生活に生かされるものであること。

○ 単元は，児童生徒が目標をもち，見通しをもって，単元の活動に積極的に取り組むものであり，目的意識や課題意識を育てる活動を含んだものであること。

○ 単元は，一人一人の児童生徒が力を発揮し，主体的に取り組むとともに，集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。

○ 単元は，各単元における児童生徒の目標，課題の成就に必要かつ十分な活動で組織され，その一連の単元の活動は，児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること。

○ 単元は，豊かな内容を含む活動で組織され，児童生徒がいろいろな単元を通して，多種多様な経験ができるよう計画されていること。

ここでは，次のような生徒を想定して「生活単元学習」の学習指導案例を提示します。集団としての活動とともに個に応じた指導の充実を図り，TT による指導をスムーズに行うため，また，自閉的な傾向のある児童生徒の増加を受けて，個別の指導計画と結びつけた個別の学習過程を明確にするため，全体と個別に分けた書き方の例を示します。

生活単元学習では，授業全体の流れが分かる学習過程と，個別の学習過程を示しています。紙面の都合で１名分を載せています。

～こんな子たちです～

特別支援学校（知的障害）
中学部　１年
在籍　　６名（男４名，女２名）
生徒の様子

・６名中５名の生徒は安定して歩行することができるが，１名は不安定であるので補助が必要です。（３人は自閉的な傾向）
・６名中４名の生徒は教師の指示を理解して行動できます。２名の生徒は言葉掛けに応じて声で返したり，体や腕を動かして答えることができます。
・６名中２名は発語が無いが，２択による選択など，指を差したり手を振ったりすることで意思表示できます。

■■まずは略案から■■

「生活単元学習」　略案　『街に出かけよう』

小単元名	活動のまとめを発表しよう	指導日時	平成　　年　　月　　日（　）
目標	○これまでの「みんなの活動」でそれぞれどんなことを頑張ってきたのか，楽しかったのかを発表し，お互いの頑張りを認め合う。 ○写真カードや実演など，自分の表現でみんなに発表する。		

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
１　はじめのあいさつをする。	・日直を指名し，注目を促し，元気よくあいさつできるようにする。
２　先生の話を聞く。	・前日までにまとめた活動の記録を提示しながら本時の活動内容を説明する。
３　活動の発表をする。 ・めくりプログラムに従いながら，ＢＣＤＥＦＡの生徒の順番に発表を進める。	・発表の順番を黒板に掲示しておき，見通しをもって参加できるようにする。めくりプログラムも併用し，担当の生徒（Ａ君）を決めて進めるようにする。
・一人一人前に出て，発表用の準備物やビデオ，活動ファイルを使用しながら活動のまとめを発表する。	・教室の前の方を広く取り，生徒が言葉だけでなく身振りや演技を交えながら発表できるような場を設定する。 ・生徒の実態に応じて発表用の原稿や具体物，ポスターなどを準備し，少ない支援で，できるだけ一人で発表できるようにする。
４　みんなの発表を評価する。 ・自分の評価表に記入する。	・一人一人の発表の後，当日のビデオを全員で見ながら振り返り，目標が達成できていたのかをそれぞれ評価シートを用いて評価できるようにする。
・全体評価表にまとめる。	・全体の評価表を使って個々の評価結果を集計し，互いに目標を達成できたのかを確認しやすくする。
５　先生の話を聞く。	・個別の目標が達成できていたのか，発表の様子や評価表を提示しながら振り返る。 ・互いに記録した評価シートを参考にしながらも，生徒が気がついていなかったところを指摘し，お互いに頑張りを賞賛し合えるようにする。
６　終わりのあいさつをする。	・日直を指名し，元気よくあいさつできるようにする。

備考	・それぞれの生徒の目標を理解し，その目標を達成できたかどうかを本人に理解できるようにする。 ・発表用の準備物を用い，少ない支援で，できるだけ一人で発表することができるようにする。 ・友達の発表を集中して聞くことができるように，見る所を指差したり，重要な言葉を繰り返したりして注意を促す。

Before

■■細案に挑戦■■

生活単元学習 学習指導案

ポイントでチェック

１　単元名

「校外学習」

２　単元について

○・・・計６名で構成されている。言語面では不明瞭な会話をする生徒が多く,意思を示せない生徒がいる。運動面ではほとんど一人で歩いたりできる生徒もいるが,補助を必要とする生徒が多い。また,文字情報から活動内容を理解できる生徒は少なく,自分のやっていることを理解できない生徒がいる。・・・

○・・・「校外学習にいこう」は,生徒の興味・関心も高く,校外の施設や交通機関を利用させるために設定した。・・・

○・・・この単元での指導をもとに家庭と連携を取りながら,今後の生活の基礎となる力を身に付けさせていきたい。・・・

・・・指導に当たっては,生徒個々の実態を考慮した日程と活動内容を設定し,生徒が無理なく取り組んでいけるように配慮していく。・・・

1
・子どもの意欲を高める表現になっていますか。

3　**4**
・否定的な表現ばかりになっていませんか。

5　**6**
・この題材を取り上げる意義が分かりますか。
・どんな変容を期待しているのか明確ですか。

9　**１０**
・指導において留意する観点が具体的ですか。

トピック

生活科と生活単元学習の違いは？

生活科は,教科の一つとして位置付けられ,新学習指導要領においては,小学部の教科として,「日常生活の基本的な習慣を身に付け,集団生活への参加に必要な態度や技能を養うとともに,自分と身近な社会と自然とのかかわりについての関心を深め,自立的な生活をするための基礎的能力を育てること」を目標にしています。内容的には１２の観点から構成されています。

生活単元学習は,領域・教科を合わせた指導の代表的な指導の形態であり,「児童生徒が生活上の目標を達成したり，課題を解決したりするために，一連の活動を組織的に経験することによって,自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。」『特別支援学校学習指導要領解説』と述べられています。

After

書きなおして
みると・・

生活単元学習 学習指導案

日時：　　年　月　日
　　校時
場所：中１　教室
Ｔ１教諭　Ｔ２教諭　Ｔ３講師

１　単元名

「街に出かけよう」

生徒のやる気を高める表現に。 1

２　単元について

○・・・言語面では不明瞭な部分はあるが会話することができる生徒から，声・サイン・表情，目の動きなどにより意思を示す生徒がいる。運動面ではほとんど一人で歩いたりできる生徒から，補助を必要とする生徒がいる。また，文字情報から活動内容を理解できる生徒から，声掛けをされたり具体物を見たり，実際に活動したりする中で，自分のやっていることを理解できる生徒がいる。このように個人差のある学級ではあるが，入学後，徐々に学校生活に慣れてきている。・・・・

個人と集団の実態が理解できる記述に。 3

良さを認める表現に。 4

○・・・「街に出かけよう」は，１年生にとって初めて取り組む単元であり，これから１年間あるいは中学部卒業までの期間における活動の個人目標を定めていく上で，必要な生徒の実態把握の場である。この単元での実態をもとに家庭と連携を取りながら個別のめあてを設定し，今年一年の生活単元学習のめあてを設定する。また，１か月間で４回と集中して実施し，校外の施設や交通機関を利用し，今後の活動の基礎となる力（友達や教師と一緒に行動すること，ふれあい乗車証や定期券を扱うこと，自分のしたいことや食べたい物を選択していくこと等）を身に付けさせる。

単元に取り組む意義を明確に。 5

指導後に身に付ける力をはっきりと。 6

○　指導に当たっては，次の点に留意する。

・ビデオ，写真，実物，支援カード等を前もって準備し，各々の生徒に応じた情報の提供や支援を行うようにする。
・生徒の実態に応じた日程や活動内容を設定する。
・活動への意欲を高め，生徒同士や教師との交流により仲間意識をもてるようにする。
・活動後は行った場所を確認し，頑張ったところをお互いに評価し，それらを発表する時間を設ける。
・事前に一人一人に情報を提示して選択し，活動中に興味を示したものを記録していく。

支援の基本的な考えを観点別に記述。 9

実態，単元での取り組みを踏まえて。 10

Before

ポイントでチェック

３　単元の目標

○　みんなで活動し，集団行動を身に付けさせる。
○　店や交通機関の利用に慣れることができる。

１１
・児童生徒の立場で書かれていますか。

４　指導計画

小単元名	主な学習内容	時数
街に出かけようⅠ	・仙台駅周辺に出掛け，買い物や食事を楽しむ。	１５時間
街に出かけようⅡ	・公共施設，公共交通機関の利用の方法を学習する。	１５時間
まとめ	・活動のまとめをする。	４時間

１３　**１４**
・単元全体の内容がはっきりしていますか。

５　本時の指導

（１）本時の小単元名　　「活動のまとめを発表しよう」
（２）本時の目標
　○　活動を振り返り，発表することができる。
（３）個別の実態と目標

名前	実　　態	目　　標
A	・写真を見て，行った場所をを思い出せる。 ・話すことが苦手である。	・プログラムをめくって,会の進行ができる。
B	・一語文でしか自分の思いを表現できない。 ・指示した写真を選択できる。	・発表をしっかり聞き，写真を使って発表することができる。

１６
・授業後の姿がイメージできますか。

１８
・実態ができないことの把握になっていませんか。

１９
・個々の実態から目標に無理はないですか。逆に，設定が低すぎませんか。

トピック

生活単元学習の発展？

生活単元学習は,「今までもこの単元をやってきたから・・」と固定化し，マンネリ化した単元計画による学習になりがちです。

子どもの生活は，年齢とともに質が変化し，興味・関心や課題に対する意識も広がっていくものと考えられます。したがって，単元設定を子ども主体に考えると，結果として単元の内容や特徴も当然発展していくことになります。毎年実施する単元であっても,子どもの生活経験の量や学年等も考慮し,質を高める工夫が求められ,見直しが必要です。

そのためには，単元展開中や終了後の評価を生かしながら，創造的に単元を発展させていくことが大切になります。

After

取り組みと目指す姿を明確にする。 **11**

個別の指導計画の目標につなげる。 **11**

より詳しく学習内容を示す。 **13**

総時数と本時の位置付けを明確に。 **14**

全体としてのねらいをより分かりやすくする。 **16**

本時にかかわる実態にしぼってできそうなことを記述する。 **18**

よりしぼり込んだ目標を設定する。 **19**

３　単元の目標

○　クラスのみんなと一緒に活動し仲間意識をもち，集団活動を身に付ける。

○　店や交通機関を利用させながら活動を楽しみ，街に出掛けようとする意欲をもつ。

個別の単元目標

生　徒　名	単元における目標
Ｓ・Ｊ	○公共の交通機関利用時のマナーを身に付ける。 ○欲しい物と依頼された物の買い物をする。

４　指導計画

総時数　３４（本時　３４／３４）

小単元名	主な学習内容（配当時数）	時数
買い物や食事をしよう	・計画を立てよう。（２） ・駅周辺のスーパーで買い物をする。（５） ・駅周辺のレストランで食事をする。（６） ・振り返りをしよう。（２）	１５時間
バス,地下鉄に乗って出かけよう	・計画を立てよう。（４） ・路線バス，地下鉄を使って,図書館,美術館などを利用する。（１１）	１５時間
活動のまとめを発表しよう	・活動のまとめを一人ずつまとめて発表する。（４）	４時間 本時４／４

５　本時の指導

（１）本時の小単元名　「活動のまとめを発表しよう」

（２）本時の目標

○　互いに活動を振り返り，楽しかったことを発表する。

（３）個別の実態と目標

名前	実　　態	目　　標
A	・写真を見て，行った場所を思い出せる。 ・一人で話すことができる。	・友達の名前をしっかり呼んで会の進行ができる。
B	・一語文で自分の思いを表現できる。 ・二つの写真から，指示したものを選択できる。	・教師の問い掛けに写真を示して答える。

全体の流れが分かる学習過程です。
改善前の学習過程になっています。

Before

（４）学習過程（全体）

段階	学習活動	教師の働き掛け	指導上の工夫・留意点
導入	１　はじめのあいさつをする。	・日直の号令に従い，元気よくあいさつをするように言葉掛けする。	
		今日の学習活動を知ろう！	
	２　先生の話を聞く ・本時の活動内容を説明する。	・これまでの学習の振り返りをすることを話す。Ｔ１	・これまでの学習で頑張ったことを賞賛し，生徒が自信をもって発表できるように気持ちを高める。
展開	３　活動の発表をする。	活動報告会をしよう！	
	・活動のまとめを順番に一人一人発表する。	・生徒（Ａ）にめくりプログラムを担当させ，順番ごと（ＢＣＤＥＦＡの順）に発表を進行させる。Ｔ２	・めくりプログラムを準備するとともに，発表の順番を黒板に掲示しておく。
	・友達の発表に注目させる。	・発表者に注目するように言葉掛け，必要に応じて言葉を繰り返したりしながら発表への集中を促す。Ｔ２	・生徒一人一人に応じて発表原稿やポスター，活動ファイルなどを準備し，できるだけ少ない支援で発表できるようにする。
		・頑張ったことや楽しかったことなどが印象に残るように強調してあいづちを打ったり質問したりする。Ｔ２	・今回の学習でそれぞれどんな事を頑張るのかを記した一覧表を掲示しておく。
		発表を評価しよう！	
	４　みんなの発表を評価する。	・一人一人が発表した後，ビデオを見ながら振り返り，頑張りを具体的に賞賛する。Ｔ１，Ｔ２	・当日の活動の様子を記録したＶＴＲを発表順に準備しておく。
	・個別の評価表に評価する。	・発表評価表にシール（にこにこ，普通，泣き顔）を使って評価させる。Ｔ１，Ｔ２	・（にこにこ，普通，泣き顔）の三段階で評価できるシールを準備しておく。
	・全体の評価表に評価を集計する。	・友達の発表がどうであったのか生徒一人一人に尋ねながら，全体の評価表にシールをはっていく。Ｔ１	・個別に記録した評価表を使って友達の評価を集計する。
終結	５　先生の話を聞く	お互いの頑張りを評価しよう！	
	・生徒一人一人の発表に関して評価をする。	・発表の仕方や個別の目標がどうであったのかを具体的に話し，一人一人を賞賛する。Ｔ１	・他の友達から賞賛されることにより成就感や達成感を感じることができるようにする。
	６　終わりのあいさつをする。	・Ｔ１に注目させ，元気よくあいさつをする。	

教師の動きやＴＴ間の役割を明確にしよう。 **２３**

授業全体の流れが分かり，中心的な学習活動を明確にしよう。 **２１**

個別の学習過程を載せています。
改善前の学習過程です。

Before

（３）学習過程（Ａさん）

段階	学習活動	予想される児童の活動	教師の働きかけ
導入	１　はじめのあいさつをする。	○日直の号令に従い，元気よくあいさつをする。	
		今日の学習活動を知ろう！	
	２　先生の話を聞く。 ・本時の活動内容を説明する。	○校外学習ファイルを見ながらこれまでの学習を振り返る。 ○教師からの質問に答える。	●これまで校外学習でどこに行ったのか，どんなことを頑張ったのかなどを振り返り な
展開	３　活動の発表をする。	**活動報告会をしよう！**	
	・めくりプログラムを使って発表会を進行する。	○めくりプログラムを担当し，順番（ＢＣＤＥＦＡの順）に生徒の名前を呼んで会を進行する。	●自分の順番まで待つことで るようにめくり型プログラムを準備し，担当させる。
	・自分の校外学習の発表をする。	○発表用のポスターや発表用原稿を使いながら，聞いている人が聞き取りやすい話し方で発表する。	●発表用原稿を準備して，ゆっくり，はっきりと読みながら一人で発表を進めさせる。
		○必要に応じてポスターを指差し，どこを説明しているかを分かりやすく発表する。	●発表用ポスターの写真と発表原稿に番号のシールを付け，何について話しているのか分かるようにしておく。
	・友達の発表を聞く。	○友達の発表用ポスターを見たり，自分の校外学習ファイルを見たりしながら発表を聞く。	●どこを見ればよいのか指で示したり，言葉を繰り返して注意を促す。
	４　みんなの発表を評価する。	**発表を評価しよう！**	
	・自分の目標はどうだったのか評価してもらう。	○発表した後に当日のビデオを見て，課題への取り組みがどうだったかをみんなに評価してもらう。	●個別の目標を説明した後，必要に応じてビデオを止めながら目標が達成できたのかどうか分かるようにする。
	・友達の発表を個別の評価表に評価する。	○発表評価表にシール（にこにこ，普通，泣き顔）を使って評価する。	●（にこにこ，普通，泣き顔）の三段階で評価できるシールを準備しておく。
	・全体の評価表に評価を集計する。	○全体の評価表を見ながら目標が達成できたのか楽しみにしながら見る。	●順番に全体の評価表に評価シールの数を集計し，それぞれの目標が達成できたか分かりやすく表示する。
終結	５　先生の話を聞く。	**お互いの頑張りを評価しよう！**	
	・生徒一人一人の発表に関して評価をする。	○自分の発表や目標が達成できたのか，賞賛を受けることで成就感や達成感を感じる。	●良かったところ，悪かったところなどを説明し，次の活動に生かすことができるようにする。
	６　終わりのあいさつをする。	○日直の号令に従い，元気よくあいさつをする。	

ポイントでチェック

21 本時の中心的な活動が分かるか。

22 一人一人の学習課題が明確か。

23 教師の働きや役割がはっきりしているか。

24 課題を達成するための支援が具体的に分かるか。

生徒一人一人の学習課題を明確にしよう。 22

主体的な活動を促す支援が具体的に分かるようにしよう。 24

成就感を味わわせ，次時への意欲付けを図る支援が具体的に分かるようにしよう。 24

Before

（５）　評価の観点

○　元気に発表することができたか。

○　友達の発表をしっかり聞くことができたか。

名　前	個別の評価の観点	評　価
A	・名前を呼んで会を進行することができたか。 ・友達の発表を聞くことができたか。	
E	・大きな声で発表できたか。 ・友達の発表の内容に興味がもてたか。	
F	・しっかりと発表できたか。 ・話を聞いて質問することができたか。	

（６）　資料

○　評価表(略)

○　場の設定（略）

ポイントでチェック

２５

・具体的な変容を評価できますか。

２６

・個々の達成状況が分かりますか。

・評価の観点が明確ですか。

２８

・授業としての評価を位置づけていますか。

トピック

単元の内容と構成は？

単元として設定するテーマには様々なものが考えられます。子どもの興味・関心や生活上の課題などから考えても限りなくあるといっていいくらいです。

「生活単元学習の手引き（文部省１９８６）」では，「学校行事と関連付けた単元」「季節や季節の行事と関連付けた単元」「生活上の課題をもとにした単元」「生活上の偶発的な事柄のもとにした単元」等のタイプ分けをしています。

このほかにも，遊ぶ活動，つくる活動，合宿・旅行活動，働く活動，表現活動，行事活動などに実際の活動で分けていく場合もあります。

単元の指導時数については，設定するテーマや内容によって異なります。数日，数週，数か月，学期または年間を通じて行うなどの様々な工夫が可能ですが，子どもにとって必然的な，まとまりのある課題意識の持続できる単元構成が望まれます。

After

書きなおして
みると・・

より具体的に生徒の変容の姿がイメージできるように。 **25**

評価の観点をより明確に。 **26**

授業についても項目を設定して評価し，指導の改善につなげる。 **28**

（５）評価の観点

＜生徒の評価＞

○ みんなに聞き取りやすい話し方で発表することができたか。

○ 友達の言いたいことをしっかりと聞くことができたか。

名　前	個別の評価の観点	評　価 方　法
A	・順番に名前を呼んで会を進行することができたか。 ・ポスターやファイルを見ながら,友達の発表を聞くことができたか。	観　察 観　察
E	・　写真を使って, ゆっくりと大きな声で発表できたか。 ・　友達の発表に興味を持ち,行った場所を話すことができたか。	観　察 発　言
F	・　写真を使いながら, 行った場所を自分から発表できたか。 ・　友達の発表を聞いて, 行った場所を思い出すことができたか。	観　察 観　察

＜教師の評価＞

○ 自分から進んで発表させるための場の設定はできていたか。

○ 友達の発表を聞くための手だては十分だったか。

項　　目	具体的評価事項	評　価 方　法
個への配慮	・発表の際，自分で作成したカードを使いこなせたか。	観　察
活動の分量	・発表する時間と聞く時間のバランスがとれたか。	観　察 計　時
教材・教具	・評価表にシールをはって，友達の発表の評価が可能だったか。	観　察 評価表

（６）　資料

○　評価表(略)

○　場の設定（略）

コラム

特別支援教育とキャリア教育

特別支援教育の基本理念である「自立と社会参加」にむけた指導の充実を進めるなかで，キャリア教育にかかわる目標や内容も見直しが進められています。

今回の学習指導要領の改訂では，特別支援学校高等部の学習指導要領の総則の中に，「キャリア教育」という文言が入ったこと，キャリア教育の視点に立って中学部や職業に関連する各教科の記述が見直されていること，職業に関する専門教科として「福祉」が位置付けられたことが挙げられます。

具体的には総則の職業教育に関して配慮すべき事項に「学校においては，地域や学校の実態，生徒の特性，進路等を考慮し，キャリア教育を推進するために，地域及び産業界や労働等を行う関係機関との連携を図り，産業現場等における長期間の実習を取り入れるなど就業体験の機会を積極的に設けるとともに，地域や産業界の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする。」（下線が挿入，変更された部分，以下同様）と記されています。

この記述は，高等学校学習指導要領の改訂を受けたものですが，キャリア教育には関係機関との連携の下，積極的に現場実習などの就業体験の機会を設け，地域や産業界の協力を得ながら進めていくことが求められています。

また，総則の教育課程実施に当たって配慮すべき事項には「生徒が自己の在り方生き方を変え，主体的に進路を選択することができるよう，校内の組織体制を整備し，教師間の相互の連携を図りながら，学校の教育活動全体を通じ，計画的，組織的な進路指導を行い，キャリア教育を推進すること。その際，家庭及び地域や福祉，労働等の業務を行う関係機関の連携を十分図ること。」と記されています。

このようにキャリア教育は，進路指導と密接な関連をもち，校内の組織体制の整備，教師間の連携，そして，家庭、地域、関係機関との連携を十分図っていくことも求められています。

キャリア教育は，勤労観，職業観をはぐくむことを基本とする教育です。これまで特別支援学校では，日常生活の指導で基本的な生活習慣を形成したり，生活単元学習では家庭生活や生活に主体的に参加し，役割を果たす力を育てたりするなど，児童生徒の勤労観をはぐくむ指導を小学部段階から行ってきています。また，中学部段階では，作業学習等で職業に就こうとする意欲，態度，実際に働く力や職業的自立に向けての職業観をはぐくむ指導を行ってきています。

特別支援学校,特別支援学級においても,キャリア教育推進を意識し，現在行われている小学部から高等部までの教育活動（日常生活の指導,生活単元学習,作業学習等）の内容を自立と社会参加の視点でいま一度整理して，より意図的に行っていくことが必要です。

「作業学習」の学習指導案を書こう

「作業学習」のポイント

作業学習は，領域・教科を合わせた指導の一つです。

実際的な活動を通して，将来の職業生活や家庭生活に必要な知識・技能，勤労を重んずる態度を身に付け，働く力や生活する力を高めていくものです。

作業の実際では，作業工程の分析や教材・教具の工夫，場の設定等の工夫が大切です。

４　「作業学習」の学習指導案を書こう

○はじめに

「作業学習」は，領域・教科を合わせた指導の形態の一つとして，主に中学部と高等部の教育課程に位置付けられています。

「作業学習」は，実際の生活場面の具体的な内容を，実際的な活動を通して行うことで，将来の職業生活や家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能，勤労を重んずる態度を身に付け，働く力や生活する力を高めていくものです。

「作業学習」では，中学部の「職業・家庭」及び高等部の「職業」及び「家庭」を中心的な内容とし，領域・教科を合わせた指導と教科別，領域別の指導等との関連も図りながら，次のような力をはぐくむことをねらいとしています。

【作業態度及び作業習慣の形成について】
意欲，積極性，成就感，達成感，責任感，集中力，持続力，確実性，協調性，協力，注意力，安全性，礼儀，清潔さ，働く意義，卒業後の生活，整理・整とん

【作業等に必要な知識及び技能の習得について】
道具や機械等の名称や安全な使い方，安全に関する用語等の理解，材料の適切な扱いや利用の仕方，製品のできの良否の判断，製品の整理や管理，社会での流通の仕方

＜作業学習指導の手引【改訂版】　平成７年　文部科学省より＞

これらの内容を踏まえて，各学校で作業学習の観点を設定すると良いでしょう。

単元の構成については，単に物を製作するだけではなく，材料の仕入れから，デザイン，実際の製作，販売あるいは製作後の利用の仕方，収支や収益，実生活や余暇への活用といった一連の流れで構成することが重要です。また，地域の専門家を就労サポーターとして招くなど，外部の人々の協力を得ることで，より実践的な学習活動が見込まれ，将来の自立した生活や社会参加にもつながっていきます。

学習指導案作成に当たっては，以下の点について，明確にすることが重要です。

・長期間にわたる単元の全体の指導計画と本時のねらい等の位置付け
・単元全体や個人のねらいの評価の時期や仕方など
・教師の指導についての評価の仕方など
・作業班や個人によって作業内容や工程ごとに活動が分かれている時の学習内容や指導上の留意点など
・作業内容や作業工程の分析による，ねらいとする観点や工程図など
・教材・教具や場の設定の工夫
・図や写真などを用いたねらいや工夫したことなど

ここでは，次のような生徒を想定して「作業学習」の学習指導案例を提示します。

～こんな生徒たちです～

特別支援学校(知的障害) 高等部　木工作業班 男子１５名(１年５名　２年５名　３年５名)

○２・３年生はバザーの経験はありますが，流通の仕組みについては，あまり理解していません。
　１年生は，初めての経験になります。

○１年生５名は，作業に関する知識や技能と共に，集中力を身に付けていくことが求められます。

○２年生５名は，活動に慣れてくると作業が雑になりがちです，作業の正確さが求められます。

○３年生５名は，作業内容・工程を自分で判断し，主体的に取り組むようになってきています。

■■まずは略案から■■

「作業学習」　略案　　『バザーでおしぼり置きを販売しよう』

小単元名	おしぼり置きを製作しよう	指導日時	平成○○年○月○○日（○） １０：００～１０：５０
目標	１　担当する作業工程や作業内容，役割を理解し，目標をもって主体的に取り組む。（意欲） ２　やすりがけ，塗装などの各作業工程を安全に，より正確に行う。（知識･技能） ３　担当する作業に集中して取り組む。（集中力･持続力）		

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
１　はじめのあいさつをする。	
２　前回までと今日の製作数の確認をする。	・製作数グラフで状況を確認するように促す。
３　今日の目標や注意事項を確認する。	・作業班内で作業カードを活用し，作業目標を確認できるようにする。
４　作業班での作業を開始する。 １）けがき・・・・（Ｔ１）※教師の役割 ２）切断・・・・・（Ｔ１） ３）接合・・・・・（Ｔ２） ４）塗装・・・・・（Ｔ３） ５）やすりがけ・・（Ｔ４）	・必要に応じて作業マニュアルを活用できるようにする。 ・各班内で，互いに検品を行うなど，協力して取り組めるようにする。 ・切断で扱う電動糸のこをはじめ，機械の取扱いやけがなど，安全面に配慮する。
５　作業を終了し，後片付け，清掃をする。	
６　作業カードと製作数グラフに今日の製作数を記入する。	・自己評価をし，仲間同士の評価や教師の評価も取り入れて，次時の目標を立てられるようにする。 ・製作数グラフに記入し，製作計画の検討を促す。
７　おわりのあいさつをする。	

備考	【次時に向けた確認事項】 ・作業マニュアルの活用について，個人で見て確認しても不確実な場合は，班内でリーダーを中心として互いに確認できるように，さらに促していく。 ・次時の目標設定について，班内での話し合いの時間をさらに確保する。

■■細案に挑戦■■

Before

作業学習 学習指導案

ポイントでチェック

１　単元名

「バザーでおしぼり置きを販売しよう」

２　単元について

○木工班の生徒は，比較的指示理解に優れ，作業能力全般について能力が高く，卒業後は一般就労を希望している。しかし，物の流通の仕組みや働くことによって生活の糧を得ていくことなど，卒業後生活していく上での知識や理解が不足している。また，自主的な活動や自己選択・決定能力が乏しく，判断力や意欲，協調性も欠けている。

3
単元に関する実態，これまでの経験が記述されていますか？

4
困難なことだけでなく，できることも記述されていますか？

○本単元で取り上げる「販売をしよう」では，流通に関する様々な過程を学習することができ，販売をするという具体的な目標をもって作業に取り組むことができる。また，販売においては，お金のやりとりなどを実際の場面で体験することができ，流通の仕組みや仕事と収入の関係，人とのやりとりなど，様々な体験をすることができると考え本単元を設定した。

5　**6**
この単元の教育的価値や，ねらい,期待される学習の効果が具体的に記述されていますか？

7
これまでの，学習経験等との関連が記述されていますか？

○指導に当たっては，バザーの流れを総合的に学習できるように指導計画を工夫する。長時間にわたる指導計画になるため，製作計画を生徒と一緒に立案し，進ちょく状況を確認するなどの振り返りの時間を設定するようにし，目標を意識させるように工夫する。また，個々の生徒の目標を意識した学習内容を設定するとともに，自主的な取り組みを促すための工夫を行っていく。評価に関しては，できるだけ客観的な評価に務めるように工夫する。

8
指導の手だて，方針が具体的に記述されていますか？

9
読みやすく，簡潔に記述されていますか？

１０
生徒観，単元観との一貫性がありますか？

書きなおして
みると・・

After

作業学習 学習指導案

単元についての，実態についても記述する。 3

「教師の○○があると，△△ができる」などの表現を工夫する。 4

これまでの学習経験との関連を押さえながら，具体的にどんなことをねらって単元を設定したのか記述する。
5 6 7

生徒観や単元観と関連をもたせたり，箇条書きで具体的に記述する方法もある。
8 9 10

１　単元名

「バザーでおしぼり置きを販売しよう」

日　時：○月○○日
○校時
場　所：木工室
指導者：Ｔ１～Ｔ４

２　単元について

○木工班の生徒は，・・・卒業後生活していく上での知識や理解については，実体験を通した活動がさらに必要な状態である。また，教師の指示や促しがあると，友達と一緒に協力して，意欲的に活動したり，自分で考えようとしたり，選択や決定をしたりすることができる。バザーの経験は，１年生は初めてであるが，２・３年生は経験をしており，販売することについては，興味をもっている。しかし，製作から販売，収支といった流通の仕組みについてはさらに体験を通した学習が必要である。木工の作業については，・・・・・・

○本単元で取り上げる「バザーでおしぼり置きを販売しよう」では，製作に係る計画から実際の製作，販売，収支にいたるまで流通に関する様々な過程を学習することができ，・・・。また，販売することで，自分たちの製品の出来栄えや丁寧な作業や作業効率なども意識できるようにすることができる。本単元で製作する「おしぼり置き」は，出来上がった製品が実際の生活の中で使用されるイメージがもちやすく，作業工程もこれまで経験したけがき，切断，接合，塗装等を取り入れて，難易度も工夫でき，個に応じた課題を設定することができると考え本単元を設定した。

○指導に当たっては，以下の点に留意して指導に当たる。

・指導計画について，製品の製作から販売について総合的に学習できるように・・・
・作業計画を生徒と立案し，進ちょく状況を確認するなどの振り返りの時間を設定し，目標を意識できるよう・・
・個々の生徒の目標を意識した学習内容を・・・
・主体的な活動を引き出すため，作業マニュアルや作業カードを活用し・・・
・評価に関しては，自己評価と相互評価を行い・・・
・販売や接客については，スーパーの方を・・・・・

Before

３　単元の目標

（１）製作計画から販売などに至るまでのそれぞれの過程を通して，働くことと生活をしていくために必要な事柄について体験を通して理解を深めさせる。

（２）安全面と正確さを意識して作業を進めさせる。

（３）お客さんに喜んでもらえるように，出来栄えを意識して丁寧に取り組ませる。

（４）作業に必要な質問やあいさつ，報告を正確に行わせる。

（以下省略）

４　指導計画

「バザーでおしぼり置きを販売しよう」（９６時間扱い）
○販売製品を考えよう（９時間） ・昨年のビデオを見る。 ・おしぼり置きのデザインを考える。 ・材料や製作工程を考える。 ・品質の高い製品の製作に必要なことを理解する。 ・目標製作数を設定する。 ○おしぼり置きの作業工程や作業内容を理解しよう（１８時間） ・一人一人が様々な工程を経験し，一連の作業工程や作業内容を理解する。 ○おしぼり置きを製作しよう（４８時間：本時１８／４８） ・能力や課題に合わせて製作する。 ・仕上がり具合を意識しつつ一連の作業を正確に行う。 ・課題に適した工程を担当し，集中して取り組む。 ○おしぼり置きを商品に仕上げよう（１２時間） ・製品の値段を話し合う。　・商品ポップの作成をする。 ・包装作業をする。 ○販売の仕方を練習しよう（６時間） ・就労サポーターを招いて接客の仕方を練習する。 ・販売予定数と売り上げ予定金額を確認する。 ○バザーで販売しよう（６時間）※行事扱い ○ご苦労さん会をしよう（３時間） ・販売数と売り上げ金額を確認する。 ・ご苦労さん会をする。　・次の製作物を考える。

１１

「～させる」など，教師の立場ではなく，生徒主体の記述になっていますか？
自分たちの学校で必要と思われる作業学習でねらう観点が記述されていますか？

１３

指導内容の順序性やステップが分かりやすく記述されていますか？

After

生徒の立場で目標を設定します。
ねらう観点を明確にすると，目標がはっきりとしてきます。
１１

小単元の内容やねらい，取り扱い時数を入れて，矢印や帯などを使い図で整理してみると，指導内容の順序性やステップも，分かり易くなります。
１３

３　単元の目標

１）製作計画から販売などに至るまでのそれぞれの過程を通して，働くことと生活をしていくために必要な事柄について体験を通して理解を深める。（成就感，達成感，働く意義，社会での流通の仕方）

２）道具の使い方を理解し・・・作業を進める。（知識，技能）

３）・・・丁寧に取り組む。（確実性，製品のできの良否の判断）

４）・・・正確に行う。（コミュニケーション）

（以下省略）

４　指導計画

（９６時間扱い）

「バザーでおしぼり置きを販売しよう」

小単元及び内容	小単元の指導計画及び指導時数（単位：時間）
○販売製品を考えよう ・バザーのイメージをもつ。 ・おしぼり置きのデザインや材料，作業工程をみんなで考える	９
○おしぼり置きの作業工程や作業内容を理解しよう ・一人一人が・・・	１８
○おしぼり置きを製作しよう ・能力や・・・ ・作業の仕方や目標数について確認し，必要に応じて修正する。	48(本時 18／48) 6 時間毎 8 サイクルで作業
○おしぼり置きを商品に仕上げよう ・製品の値段を・・・	１２
○販売の仕方を練習しよう ・就労サポーターを・・・	６
○バザーで販売しよう ※行事扱い：指導時数には含めない	６
○ご苦労さん会をしよう ・販売数と・・・	３

Before

１５
単元全体との関連が具体的になるように作業学習の観点を明記されていますか？

５　本時の指導

（１）小単元名　「おしぼり置きを製作しよう」

（２）本時の目標

〇全体の目標

①バザーに向けた製作計画を意識して作業を進める。

②入室後，作業に必要な道具と材料を準備する。

③自分が担当する作業工程や作業内容，役割を理解し，目標をもって主体的に取り組む。

④やすりがけ，塗装などの各作業工程を安全に，より正確に行う。

（以下省略）

〇生徒の実態及び目標，本時の目標，評価の観点

生徒	単元における生徒の実態	単元の目標	本時の目標	本時の評価の観点
A（1年生）	・物の流通の仕組みについての具体的なイメージをもつにいたっていない。	・物の流通の仕組みを知る。	・製作計画を意識して作業をする。	・製作計画を意識して作業ができたか。
	・作業上の注意を意識することが困難である。	・作業上の注意を理解し，手早く進める。	・作業を正確に手早く進める。	・正確に手早く作業を進めることができたか。
	・長時間一定のペースで作業に取り組むことが困難である。 ・バザーでの販売経験はない。	・長時間一定のペースで作業に取り組む。 ・販売活動を通して，お金の扱いに慣れる。	・一つ一つの工程に根気強く取り組む。	・自分の作業に根気強く取り組むことができたか。
B	・物の流通の仕	・製作した物	・製作計画	・製作計画

１９
めざす生徒の姿がより見えるような目標になっていますか？

２０
単元全体の目標とのつながりは明確になっていますか？

２４
課題を達成するための指導の手だてがはっきりしていますか？

２６
評価の観点が指導目標の裏返しになっていませんか？
評価をするための生徒の具体的な姿がはっきりしていますか？

（３）学習過程（別紙参照）

After

単元全体の目標に付けた作業学習の観点別に，単元全体の目標と関連付けて本時の目標を立てると分かりやすい。 **１５**

目標，評価の観点に作業学習の観点を入れることで，全体目標とのつながりがはっきりしてきます。主な手だてを明確にすることで，授業の具体的な進め方が見えてきます。 **１９** **２０** **２４** **２６**

５　本時の指導

（１）小単元名　「おしぼり置きを製作しよう」

（２）本時の目標

〇全体の目標

①バザーに向け製作計画を意識して作業を進める。（製品の整理や管理）

②・・・・・・・・・・・・・・・（基本的生活習慣）

③・・・・・・・・・・・・・・・（意欲）

④・・・・・・・・・・・・・・・（知識，技能）

（以下省略）

〇単元における生徒個々の実態及び目標，本時の目標，主な手だて，評価の観点

生徒	単元における生徒の実態	単元の目標	本時の目標	本時の主な手だて	本時の評価の観点
A（1年生）	・物の流通の仕組みや働くことと収入の・・・	・バザーに向けた，製作計画，製作，商品化，収支等の活動を通して物の流通の仕組みや働くことと収入の関係を知る。（製品の整理や管理）	・バザーに向けて製作計画を意識して作業をする。（製品の整理や管理）	・作業開始，途中，終了の時に目標個数の確認や進ちょく状況を確認できるようにする。	・目標の個数を意識し，作業速度を考えたり，自分の作業の良し悪しを振り返ることができたか（製品の整理や管理）
	・作業上の注意を気にせずに自分勝手に作業を進めてしまうことが多い。	・作業上の注意を確認し・・（知識，技能）	・曲尺を正しく使い，正確に手早くけがきを行う。（知識，技能）	・曲尺の正しい使い方を判断できるような質問をする。 ・作業マニュアルを手元に置き，それを見て作業上の注意点を確認できるようにする。	・作業マニュアルで確認をしたりし正確に目標数の作業を進めることができたか。（知識，技能）
B	・物の流通の	・製作した物・・・	・製作計画・	・製作計画・・・・	・製作計画・・

（３）学習過程（別紙）

Before

（４）場の設定の工夫について

①前後の工程とのかかわりを意識し，同一作業の友達の様子が見合える位置の工夫を図る。

②自主的に取り組めるような資材置き場や道具置き場等の工夫を図る。

③資材の準備から作業，検品，後片付けまで，生徒の作業の動線を工夫し，安全で効率的な動きになるように工夫する。

④長時間の作業に適応できるように，作業台を高くし，立って作業を進めるようにする。

２９

場の設定がイメージしやすいですか？

（５）教材・教具の工夫について

①作業工程を分かりやすくするために，全体掲示用の作業工程表を工夫する。

②作業の途中に自分で確認できるように，一人一人「作業マニュアル」を工夫する。

③作業開始の時の目標の確認と作業終了時の自己評価と相互評価に活用できるよう作業カードを工夫する。

④自分の目標を意識したり，相互評価で相手にも分かってもらうようにするための，目標カードを工夫する。

３０

教材・教具の具体的な工夫点が記述されていますか？

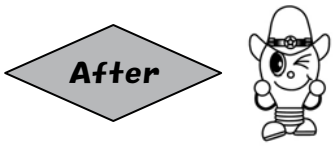
トピック

作業工程の分析と作業内容の分析の大切さ

作業学習では，製品を作る学習が活動となるので，生徒がどのような工程を担当し，どのような内容の活動を行えるようにするか，また，どのような態度や知識，技能が求められ，高められていくのか十分検討していくことが必要です。そのためには，作業工程の分析と作業内容の分析を適切に行うことが大切です。

作業工程の分析とは，完成品ができるまでの手順を分析することであり，例えば，木工作業であれば，材料の仕入れ，けがき，切断，加工，組立，仕上げなどの工程に分けることができます。更に，組立一つの工程についても，細かな分析をしていくことができ，生徒の作業能力に応じて工程を取り入れることができ，作業活動を十分に成し遂げられるようにすることが可能となります。

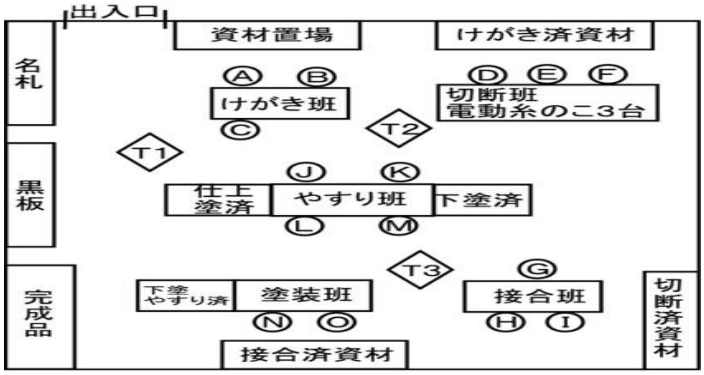
作業内容の分析とは，一つの作業工程を遂行するために必要な要件のことです。例えば，木工作業で，２時間で１００個の部材にドリルで穴を開ける作業では，部材の向きを判断する（判断力など），１０個のまとまりを作る（手指の機能性，計算など），一定時間持続して作業をする（時間，持続力など），ドリルの扱い方が分かる（確実性，使用方法など）等が挙げられます。　　＜作業学習指導の手引より＞



図を用いて活動場所全体の配置や教師と生徒の位置等を示すと具体的なイメージをもちやすくなります。　29

（４）場の設定の工夫について

場の設定は，作業班相互の連携協力や生徒の動線などを安全かつ効率的にできるよう工夫することが必要です。

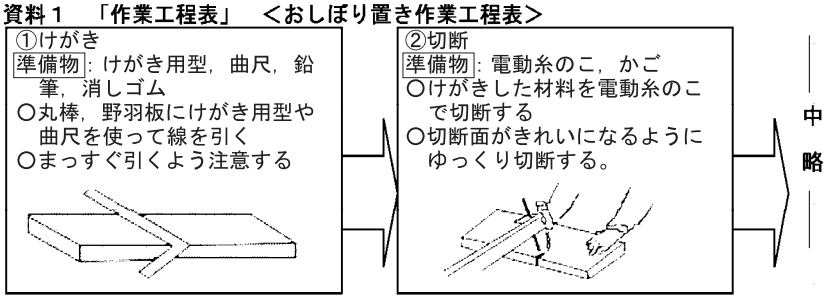


作業の工程図や教材・教具のねらいや工夫点を図や写真で示すと分かりやすい。
作業カードなど具体的に生徒が記入しているものを示したり，資料として添付するとより分かりやすい。　30

（５）作業工程及び教材・教具の工夫について

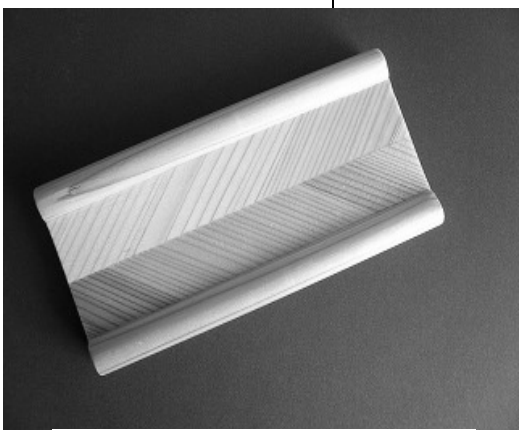
①・・・「おしぼり置き」の各工程の写真と準備物や作業内容，注意点を明記した全体掲示用の作業工程表を工夫する。・・・

資料１　「作業工程表」　＜おしぼり置き作業工程表＞



②・・・各工程の具体的な作業内容や注意点，ポイントを自分で考えて進めることができるような「作業マニュアル」を・・・

③＜作業カード＞



「おしぼり置き」完成写真

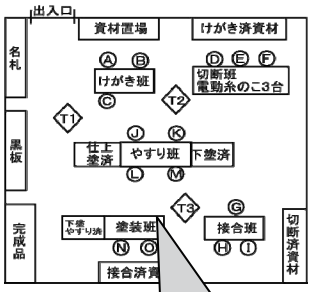
木工班　作業カード　　年　氏名

単元の目標	① ②

今日の目標						
① ②						
／ （　）	①			②		
	自分	友達	先生	自分	友達	先生
／ （　）	①			②		
	自分	友達	先生	自分	友達	先生
／ （　）	この期間の自分の反省，評価					
	① ②					
	この期間の友達からの評価					
	① ②					
	この期間の先生からの評価					

＜日々の目標の評価基準＞
ほとんどできた：◎　　ある程度できた：○
あまりできなかった：△　　ほとんどできなかった：×

（３）　学習過程（１単位時間　50 分の例）

段階	学習内容	場面図･準備物	Ｔ１ けがき Ａ，Ｂ，Ｃ
導入 ５分	１　はじめのあいさつをする。 ２　前回までの製作数と今日の製作数の確認をする。 ３　今日の作業の目標や注意事項を確認する。	・名札カード ・製作数グラフ	・製作数グラフで確認するように促す。 ・作業カードで確認するように促す。
展開 35 分	４　作業を開始ずる。 １）けがき　２）切断　３）接合 ４）塗装　５）やすりがけ 各作業工程が終了したら，同じグループで確認をした後，検品をし，次の作業工程に進む。 ※仕上がり具合を自己評価→同じグループ内の仲間に検品してもらう。 ・不合格→作業をやり直し，再度グループ内で検品する。 ・合格→教師の検品 ↓ 不合格→やり直し 合格→次の工程に進む ５　作業を終了し，後片付けは，清掃をする。	場の設定  ・ニス ・紙やす ・コンプ ・木工ボ ・電動糸の ・曲尺　・丸棒 ・矢羽板　・マスク	・丸棒１本，板材１枚ずつ行う。 ・Ａ：曲尺の正しい使い方を判断できるような質問をす 手早く るよう す。 Ｄ：丁寧に行えるようにする。 ・グループ毎に，丁寧に掃除できるようする。
終結 10 分	７　おわりのあいさつをする。	・製作数グラフ	・作業を振り返られるようにする。

ＴＴの役割と，活動グループが分かるように記述する。 **２２** **２３**

作業工程表を示すと分かりやすく，参照資料として示すのも良い。 **３０**

場面図等は，学習過程に明記すると分かりやすい。別紙資料も考えられる。 **２９** **３０**

中心となる課題や活動は枠で囲むなどして強調すると分かりやすい。 **２１**

自己評価の後,仲間と教師に評価してもらい次時の目標を立てる。

○製作数を確認し，製作計画の修正が必要かどうか問い掛ける。

学習過程は改善前のページだけを載せているよ！

Before

指導上の留意点			
Ｔ１	Ｔ２	Ｔ３	
やすりがけ	切断	接合	塗装
Ｊ，Ｋ，Ｌ，Ｍ	Ｄ，Ｅ，Ｆ	Ｇ，Ｈ，Ｉ	Ｎ，Ｏ
確認するように促す。	確認するように促す。	確認す に促す	作数グラフ確認するよに促す。 業カードで認するよう促す。
・やすりのかけ具合を確認する	・丸棒１本，板材１枚ずつ行	・１セ 行う	枚ずつ行 い作

中心となる課題や活動は枠で囲むなどして強調すると分かりやすい。 **２１**

リーダーを中心に作業カードで確認をする。

「○教師の働き掛けと●指導上の留意点」を分けて記述すると分かりやすくなる。 **２４**

○Ｊ：紙やすりのあて方やかけ方にについて質問する。 ●Ｊ：作業マニュアルで確認しながら作業を進められるようにする。	○Ｄ：始めに材料のあて方，固定の仕方，切断の速度等の確認を促す。 ●Ｄ：手順が適切でない時は，作業マニュアルを活用したり，実践を通して確認できるようにする。	○Ｇ：組み立ての順序について質問する。 ●Ｇ：迷っている時は，作業マニュアルや作業工程図を見ながら，実践を通して確認できるようにする。	○Ｎ：作業の状況について質問する。 ●Ｎ：自分の目標に対して，製作した数や製作した物の出来栄えについて，完成された見本と比較して確認できるようにする。

作業カードを活用し，自己評価や相互評価を行う。

ポイントでチェック

２１
生徒の中心的な活動が明確であり，授業全体の流れが分かりやすく記述されていますか？

２３
教師の役割が明確に記述されていますか？

２２
生徒一人一人の課題やグルーピングが明確に記述されていますか？

２４
どの場面で，どのタイミングで支援するのかが明確に記述されていますか？

２９　**３０**
教材･教具や場の設定の工夫などを示す図や写真等は，明記されていますか？

Before

（６）評価の観点

〇生徒の評価

ア　製作した個数と製作計画を比べて進み具合を確認することができたか。

イ　入室後，作業に必要な道具と材料を準備することができたか。

ウ　自分の目標達成に向け，努力，改善するところを意識し，進んで取り組むことができたか。

エ　各作業工程で道具を安全に正しく使い，丁寧に作業することができたか。

（以下省略）

２６

作業学習の観点が明確であり，本時の目標と対応していますか？

具体的にどのような行動をとらえて評価をするのか，明確に記述されていますか？

〇教師の評価

ア　製作計画を検討するような働き掛けができたか。

イ　準備物を理解できるような作業課題の提示と場の設定ができたか。

ウ　安全に対する意識と作業の正確性を高められる助言や作業目標の設定ができたか。

（以下省略）

２７

具体的な変容をとらえられるようになっていますか？

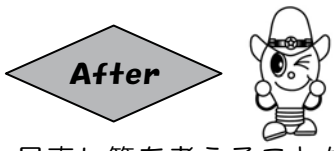
作業学習の観点を明確にして記述されていますか？

トピック

作業学習と進路学習との関連

作業学習は，職業・家庭を中心とした領域・教科を合わせた指導です。進路学習は，ホームルーム活動や総合的な学習の時間などで取り扱われ，生徒の自己理解，職業や将来の生き方と進路の適切な選択・決定に関することなどが中心的な内容になります。

作業学習と進路学習は，各教科等と同様に，生徒が学習に興味・関心をもち，知識・技能，思考力や学ぶ意欲などの確かな学力，豊かな人間性，健康・体力を合わせた生きる力を身に付けられるようにすることが求められます。指導に当たっては，作業学習の一環である産業現場等における実習（現場実習）の評価を基に，学校内での指導や家庭，地域の関係諸機関との連携の在り方などを検討し，指導や支援を改善していくことが大切です。生徒が自己理解を深め，日常生活をはじめ将来の職業生活や社会生活を主体的に営めるよう，既習の経験を生かして，実際の活動や体験を重視した学習の積み重ねがポイントになります。



（６）評価の観点

〇生徒の評価

ア　・・・進み具合を確認し，見直し等を考えることができたか。(製品の整理や管理)

イ　作業に必要な道具と材料を作業工程表や作業マニュアルを活用するなどして，自分たちで考えて準備することができたか。(道具や材料の準備や活用)

ウ・・・(意欲)

エ・・・(知識，技能)

（以下省略）

作業学習の観点を明確にすることで，評価をする際に求める姿や行動を具体的にすることができる。

２６　２７

〇教師の評価

ア　製作数グラフと作業カードでの製作個数の比較や計画の見直し等の際の働き掛けは分かりやすかったか。(製品の整理や管理)

イ・・・(道具や材料の準備や活用)

ウ・・・作業課題や補助具の提示，適切な助言や賞賛ができたか(意欲)

エ・・・(知識，技能)

（以下省略）

トピック

作業学習における単元と題材との違い

作業学習における単元とは，作業学習の目的のためにーまとめにまとめられた学習計画のことです。これまで例示してきた単元「バザーでおしぼり置きを販売しよう」では，身近にある素材を生かし，日常生活で活用できる製品を製作から販売などの流通に至るまでの過程で，テーマである①販売製品について考える，②作業工程や作業内容を考える，③バザー販売の仕方を考えるなど，①から③の各テーマと関連をもたせて学習内容を組織しています。

作業学習における題材とは，学習内容を日常生活や社会生活との関連に配慮し，生徒の実践的・体験的な活動が充実するように組織化されたものです。例えば，題材「花びん製作」においては，花びんを製作するという一連の活動を通して，生徒一人一人の身に付けたい力をはぐくむために必要な目標を設定し，学習内容を構成していくことが大切になります。

「自立活動」の学習指導案を書こう

「自立活動」のポイント

自立活動は，児童生徒一人一人の障害による学習上又は生活上の困難の改善，克服を目的とした指導領域です。個に応じた指導の改善・充実を図るため，必ず「個別の指導計画」を作成し，指導に当たることが大切です。

自立活動の指導は，学校の教育活動全体を通じて行うものであり，自立活動の時間における指導は，その一部です。

実際の指導に当たっては，自立活動の時間における指導を中心とし，各教科等の指導においても自立活動の指導との密接な関連を図ることが必要です。

ここでは，保健体育科における自立活動の指導と自立活動の時間における指導の両方の学習指導案を例示します。

自立活動の具体的な「指導内容」は，自立活動の六つの区分26項目から，一つの区分や項目を取り出して指導するものではなく，実態に応じて必要な項目を選定し，それらを相互に関連付けて設定されるものです。

項目を組み合わせて具体的な「指導内容」を決め，指導計画を立てて，授業づくりをすることが大切です。

５　「自立活動」の学習指導案を書こう

○ はじめに

障害のある子どもには，その障害によって，日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じます。小・中学校等の通常の学級に在籍している子どもたちと同じように生活年齢に即して系統的・段階的に心身の発達段階等を考慮して教育するだけでは十分ではありません。そのため特別支援学校では，自立活動の指導が設定されています。

自立活動の指導は，個々の子どもが自立を目指し，個々の障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取り組みを促す教育活動です。そのため個々の子どもの実態を的確に把握し，個別に指導の目標や具体的な指導内容を定めることにより，人間として調和のとれた育成を図る必要があります。

そのため，個々の児童生徒の実態に即して個別の指導計画を作成し，適切な指導実践を行うことが大切です。自立活動の指導においては，個別の指導計画に基づいた個別指導の形態で行われることが基本的で，最初から集団で指導することを前提としているわけではありません。しかし現実は，知的障害を主とする特別支援学校においては，学校事情が大きく影響するので，まず校内において教師間の共通理解のもと，指導の体制を作ることが必要となります。

さらに，自立活動の指導は学校の教育活動全体を通して行います。自立活動の時間の指導は，自立活動の指導の一部でしかありません。ですから各教科等の指導においても，自立活動と密接な関連を図ることが大切です。

○自立活動の内容

自立活動の内容は，人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と，障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素を検討し，代表的なものを項目として六つの区分に分け，その下に分類・整理したものです。

その内容は次のとおりです。

１ 健康の保持 （１）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 （２）病気の状態の理解と生活管理に関すること。 （３）身体各部の状態の理解と養護に関すること。 （４）健康状態の維持・改善に関すること。 ２ 心理的な安定 （１）情緒の安定に関すること。 （２）状況の理解と変化への対応に関すること。 （３）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 ３ 人間関係の形成 （１）他者とのかかわり軒祖に関すること。 （２）他者の意図や感情の理解に関すること。 （３）自己の理解と行動の調整に関すること。 （４）集団への参加の基礎に関すること。 ４ 環境の把握 （１）保有する感覚の活用に関すること。 （２）感覚や認知の特性への対応に関すること。 （３）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	（４）感覚を統合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。 （５）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。 ５ 身体の動き （１）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 （２）姿勢の保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 （３）日常生活に必要な基本動作に関すること。 （４）身体の移動能力に関すること。 （５）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。 ６ コミュニケーション （１）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 （２）言語の受容と表出に関すること。 （３）言語の形成と活用に関すること。 （４）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 （５）状況に応じたコミュニケーションに関すること。

これら六つの区分と２６の項目は，区分ごと又は項目ごとに別々に指導することが意図されているわけではなく，子どもの実態を基に六つの区分の下に示してある項目の中から，個々の子どもに必要とされる項目を選定し，それらを関連付けて具体的な指導内容を設定することを意味します。

〇知的障害児への自立活動の考え方

知的障害の子どもたちは，全般的な知的発達の程度や適応行動の状態に比較して，言語，運動，情緒，行動等の特定の分野に，顕著な発達の遅れや特に配慮を必要とする様々な状態が知的障害に随伴して見られます。このような障害の状態による困難の改善を図るために自立活動の指導を効果的に行うことが必要となります。ここでいう顕著な発達の遅れや特に配慮を要する様々な状態とは，例えば，

「理解言語の程度に比較して，表出言語が極めて少ない」
「全体的な身体機能の発達に比較して，特に平衡感覚が未熟である」
「発音や発語が不明瞭である」
「視知覚に障害があるために不器用である」
「身体の動きがぎこちない」
「心理状態が不安定になり，パニックになりやすい」
「極めて動きが多く，注意集中が困難である」
「食事の量が加減できない」　などです。

学校における指導の中で，教科の内容で説明できないものは自立活動の内容として当てはまる場合が多くあります。そう考えると「自立活動をやっていない」というのではなくやっていないと思っている教師が多いのかもしれません。

自立活動編での学習指導案は，略案で保健体育科での『自立活動の指導』，略案と細案で『自立活動の時間の指導』を例示しています。例示した学習指導案は，個を中心とした学習指導案となっていますが，実際に学習指導案を作成する時には学校の実情に応じて，他の子どもたちの指導内容も含まれますので考慮してください。ここで，自立活動における基本は個別の指導計画を基に指導内容を作成することです。最初から集団での指導を想定するものではないことを押さえなければなりません。しかし，他者とかかわる必要がある指導内容であれば集団での設定が必要になる場合もでてきます。

～こんな生徒です～

特別支援学校　中学部１年生

生徒の様子

- 階段の昇降などで，身体の動きにぎこちなさが見られます。
- 注視ができるようになり，指差しの意味理解ができてきています。
- 意思表出に〇×カードを使用しています。
- ボタンかけや文字をなぞろうとするがずれてしまうことが多いです。
- 友達や教師と簡単なボール遊びを楽しむことができます。
- 時々，大声を出したり，自傷行為が見られます。

個別の指導計画

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日作成

氏　名	Ａ　男	１年１組	担　当	〇〇　〇〇
			作成	〇〇　〇〇
障害名	知的障害	諸検査		
学習・行動の実態	○ コミュニケーション ・受容：授業時の「はじめます」等の簡単な言葉での指示はこれまでの経験に上り理解できている ・表出：〇×カードで簡単な意思表示ができる ・その他：自分の思いが伝わらないときや内容が理解でき ○ 基礎的な学力 ・読み：文字に興味を示し，自分の名前が分かる ・書き：文字をなぞる時に，線からずれてしまう ・数量：同じ形での大小が分かり，同じ形を集めることができる ○ 日常生活動作 ・更衣：ボタンのある衣服は難しく，服の前後を間違えること ・排泄：尿意を伝えることができる ・食事：主にスプーンを使用するが，口に運ぶ前にこぼすこと ・移動：階段の昇降や，遊具等で遊ぶときの動きがぎこちない ○ 興味・関心 ・好奇心がおう盛で，どのような活動にも意欲的に取り組む ○ 社会性・対人関係 ・教師や友達の動きをまねたり，一緒に簡単なボール遊びを楽し ○ 行動の特徴 ・指示内容が理解できないときに大声を出したり，自傷行為がある			
本人と親のねがい	本人：みんなと楽しく 親：身の回りの片付けができるようになってほしい			
長期目標	注意して見る力，目と手を協応する力，身体の動 ～善うことができる			
短期目標	○ 対象物を見ながら手を動かすことが ○ 運動を通して，いろいろなかたちを認			

自立活動の区分「コミュニケーション」に関すること。

自立活動の区分「環境の把握」「身体の動き」に関すること。

運動面に顕著な発達の遅れや特に配慮を必要とする様々な状態が見られます。

自立活動の区分「環境の把握」「身体の動き」に関すること。

自立活動の区分「心理的な安定」に関すること。

選定された項目を表示しておくと分かりやすくなります。

自立活動の選定された項目	健康の保持	心理的な安定	環境の把握	身体の動き
	・健康状態の維持・改善に関すること	・情緒の安定に関すること	・保有する感覚の活用に関すること ・感覚や認知の特性への対応に関すること	・日常生活に必要な基本動作に関すること ・作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

各項目を別々に指導するのではなく，楽しみながら主体的に活動できる内容を設定します。

指導内容	止まっている物を注視したり，動いている物を目で追ったりする。	物を注意してよく見て，手を伸ばす。 目で見て上肢の粗大運動をする。	いろいろな場の設定の中で目的や状況に応じて体を動かす。
	活動を分かりやすく伝えることで，何をしたらよいか分からない，あるいは退屈な状況による自傷行為を行わないようにさせる。		
評価			

○保健体育科における自立活動の指導

『自立活動の指導』は，学校教育全体を通して行うことから，教科別の指導における学習指導案の略案を示します。ここでは，保健体育科のボール運動を例示します。なお，保健体育科の指導案なので集団での指導ですが，ここではＡ男への配慮事項のみを提示しています。

「保健体育科」　学習指導案　略案『ボール運動』

小題材名	バスケットボール		指導日時	○月△日　□校時
○ ボールを投げたり捕ったりする技能を高め，バスケットボールをする。 （Ａ男）ボールを受け取る。 （Ｂ男）ボールを投げる。 （Ｃ男）簡単なルールでゲームをする。		区分との関連	健康の保持 健康状態の維持・改善に関すること 心理的な安定 情緒の安定に関すること 環境の把握 環境や認知の特性への対応に関すること 身体の動き 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	

学習活動	Ａ男への配慮事項
１　集合する	○体育館の写真カードを提示する。
２　あいさつをする	
３　本時の学習について知る ①チーム練習 ②ゲーム	○Ｔ１の話を聞くように促す。Ｔ２がＡ男に学習の流れを説明する。 ○Ｔ２とＢ男が向かい合ってキャッチボールを行い，Ａ男に練習モデルを見せる。
４　チーム練習をする ・Ａ男とＢ男，T2 がそれぞれのねらいでの練習 身体の動き に関連しています。	○Ｂ男が投げたボールを，Ａ男がボールの動きをよく見て体全体で受け取る練習をする。（T2 補助） ○Ａ男の注意がそれるときにはキャッチボールを中断し，Ｔ２が言葉掛けして，注意を喚起する。 ○Ａ男がうまくキャッチできたときには賞賛する。 ○次にゲームを始めることを絵カードで知らせる。
５　ゲームをする 環境の把握 心理的な安定 に関連しています。	○ルールを確認する。（絵カード） ○ボールをパスする時には，名前を呼んで相手を意識するようにさせる。 ○Ａ男がボーッとしている時には，Ｔ２がボールの位置を示し，ボールを目で追うように促す。ボールの動きについて行けない時，支障がなければゲームを中断し，落ち着いてから取り組ませる。
６　本時の活動を振り返る	○Ａ男の本時の目標が達成されている時には，Ｔ２が賞賛する。
７　次時の活動にむけて	○次の時間も引き続きバスケットボールを行うことを知らせ，Ｔ２は次時の目標の確認をする。

○自立活動の時間における指導

次に，『自立活動の時間における指導』の学習指導案の略案を提示します。ここでは，ボールを受け取るために必要な，ボールの動きを目で追うこと，ボールとの距離を確認すること，手を伸ばしてボールとの距離を確認すること，ボールが手に触れたらつかむこと等の一連の動作が主な目標です。また，簡単な形をなぞる活動で，形の認識と目と手の協応を促します。

「自立活動」　学習指導案　略案『いろいろな形で遊ぼう』

小題材名	三角形で遊ぼう		指導日時	○月△日　□校時
目標	○ 転がったり弾んだりするボールを受け止める。 ○ 三角形が書いてあるボールを選び，枠に並べる。 ○ 枠にそって三角形をなぞる。	区分との関連	健康の保持 健康状態の維持・改善に関すること 心理的な安定 情緒の安定に関すること 環境の把握 環境や認知の特性への対応に関すること 身体の動き 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	

学習活動	指導上の留意点
１　学習の準備をする	○指差しにより指示する。
２　あいさつをする	
３　ボールキャッチゲームをする ① ボールの受け取り ② ボールの選別 ③ ボール並べ	○図形の描かれたピンポン球を使用する。 ○ボールの速さや投げ方に変化をつけることで，手を伸ばす動きを誘導する。 ○三角形以外の図形が描いてあるボールを選んだ時には絵カードで確認する。 ○始めに言葉掛けし，枠に並べるように促す。
４　いらいら棒ゲームに取り組む ① 三角形のなぞり	○枠に棒が触れたときには，ブザーが鳴るようにして，注意を喚起させる。 ○ブザーが頻繁に鳴るときには，言葉掛けにより，よく見てゆっくり動かすように励ます。 ○成功した場合は，ご褒美シールを活用し，意欲を喚起させる。
５　あいさつをする	
６　学習の片付けをする	○指差しにより指示する。

その他	準備物：ピンポン玉（三角形の描いてあるものを含む），三角形の枠 絵カード（図形），自作教具のいらいら棒一式，ご褒美シール

Before

■■細案に挑戦■■

自立活動の時間における指導の細案の例だよ。
こちらは改善前です。

自立活動 学習指導案

１　　題材名

「手元を見る」

２　　題材について

〇生徒観

Ａ男は中学部１年生で，知的障害のある生徒である。好奇心がおう盛で，どのように活動にも意欲的に取り組んでいる。が，登校後の着替えが，一人でできず教員が必ず手を貸さなければ時間内に終わらない。給食は，スプーンを使ってもこぼしてしまうことが多く，なかなか口に入らない。作業をしていても，集中できないからか手元を見ないで活動している。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

〇題材観

文字に興味を示していることから，国語科の時間に文字のなぞり書き，特にふだん目にすることの多い，自分の名前のなぞり書きに取り組みたいと考えたが，難しくて情緒的に不安定になり，友達に八つ当たりをすることが時々見られた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

After

書き直してみると・・

自立活動 学習指導案

日時：　○月　○日
場所：中学部１年　教室
指導者：　教諭

生徒が分かり楽しみにする表現に！ 1

1　題材名

「いろいろな形で遊ぼう」

□自立活動の区分，項目との関連

１ 健康の保持　（4）健康状態の維持・改善に関すること
２ 心理的な安定　（1）情緒の安定に関すること
４ 環境の把握　（1）保有する感覚の活用に関す
５ 身体の動き　（3）日常生活に必要な基本動

自立活動の区分，項目を示すことで，何が関連して設定されているか分かりやすくなります。

いくつかの項目を組み合わせて指導計画をたてることが大切です。

2　題材について

○生徒観

Ａ男は，好奇心がおう盛で，学校の様々な活動に意欲的に取り組んでいる。発語はないものの，身振りや発声により簡単な意思表示ができることから，積極的に友達や教師にかかわりをもち楽しんでいる。体に緊張があるため，着替えや作業学習における手指を使う活動は苦手で，思いどおりいかないと，情緒的に不安定になることもある。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

何をねらっているのか分かる表現で！ 5

○題材観

形を使った遊びを通して同じ形同士をマッチングする活動により，目と手の協応動作を伴う上肢の粗大運動から上肢の微細運動につながる指導計画を作成した。好奇心がおう盛なＡ男にとってはこの活動内容は，・・・その中で，教師が手本となり模倣させなる。また，Ａ男が楽しみな活動ができるように目で見て手を使うことが楽しめる遊びを通して高めようと考え，この題材を設定した。

なぜこの題材なのか発達との関連から！ 7

○指導観

Ａ男が，苦手を意識することなく，遊びやゲームの感覚で学習に取り組めるように指導に当たりたい。例えば，ボールが転がったり，弾んだりする状況の変化を見て確認し，ボールを追いかけることで自ら体を動かす楽しさや，キャッチできた成就感をもたせたいと考えた。いらいら棒等，ゲーム感覚で・・・・で取り上げる三角形は，・・・・・・・・・・していきたい。

題材観からつなげて順序立てた記述！ 10

Before

３　題材の目標

○ 対象物を見ながら手を動かすことができる。

○ 運動を通して，いろいろな形を認識できる。

４　指導計画

１）　丸で遊ぼう……４月～５月

①　転がるボールを受け止めることができる。

②　丸が書いてあるボールを選び，丸の枠に並べることができる。

③　枠を使って丸をなぞることができる。

２）　三角形で遊ぼう……６月～９月

①　転がったり弾んだりするボールを受け止めることができる。

②　三角形が書いてあるボールを選び，三角形の枠に並べることができる。

③　枠を使って三角形をなぞることができる。

３）　丸と三角形で遊ぼう……１０月～１２月

①　転がったり弾んだりするボールを受け止めることができる。

②　丸が書いてあるボールは丸の枠に，三角形が書いてあるボールは三角形の枠に並べることができる。

③　枠を使って丸と三角形をなぞることができる。

４）　丸と三角形で模様を作ろう……１月～３月

①　枠を使って丸と三角形をなぞることができる。

②　枠を使ってたくさん丸と三角形を書くことができる。

③　書いた丸と三角形に色を塗る。

④　できた模様をデジカメで撮影して，絵はがきを作る。

５　本時の指導

（１）本時の題材名　　「三角形で遊ぼう」

（２）本時の目標

○　ボールを受け止める。

○　三角形が書いてあるボールを選び，三角形の枠に並べる。

○　枠を使って三角形をなぞる。

ポイントでチェック

11

・目指す姿が題材についてとつながらないのでは？

13　**14**

・計画が目標になっていませんか？

・具体的な配当時数は？

・見にくくないですか？

After

書きなおして
みると

具体的に，分かりやすく！ 11

表にして見やすくして，計画上の時間数を表示！ 13 14

自立活動の時間における指導は，個別の指導計画を基にプログラムを工夫しよう！

３　題材の目標

○ 動くボールをよく見て，手を伸ばして受け止める。
○ 手の動きを見ながら，簡単な形をなぞる。

４　指導計画（指導期間４月～３月，３５時間扱い）

内　　容	区　分	時数
「丸で遊ぼう①」 ・ 転がるボールを受け止める。 ・ 丸が書いてあるボールを選ぶ。	健康の保持 健康の状態の維持・改善に関すること	２時間
「丸で遊ぼう②」 ・ 枠を使って丸をなぞる。	心理的な安定 情緒の安定に関すること	３時間
「三角形で遊ぼう」 ・ 転がったり弾んだりするボールを受け止める。 ・ 三角形が書いてあるボールを選ぶ。 ・ 三角形の枠に並べる。 ・ 枠を使って三角形をなぞる。	環境の把握 感覚や認知の特性への対応に関すること 身体の動き 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	１２時間 ※本時 ５／１２
「丸と三角形で遊ぼう①」 ・ 転がったり弾んだりするボールを受け止める。 ・ 丸が書いてあるボールは丸の枠に，三角形が書いてあるボールは三角形の枠に並べる。 ・ 枠を使って丸と三角形をなぞる。		１０時間
「丸と三角形で遊ぼう②」 ・ 枠を使って丸と三角形をなぞる。 ・ 枠を使ってたくさん丸と三角形を書く。 ・ 書いた丸と三角形に色を塗る。 ・ できた模様をデジカメで撮影して，絵はがきを作る。		８時間

５　本時の指導

（１）本時の題材名　　「三角形で遊ぼう」

（２）本時の目標

○ 転がったり弾んだりするボールをよく見て受け止める。
○ 三角形が書いてあるボールを正しく選び，枠に並べる。
○ 枠に沿って三角形をなぞる。

（３）学習過程

段階	学習内容	指導のねらい	評価
導入	１　学習の準備をする。 ２　あいさつをする。	教員が指差した物が必要である きる。	・指差した物が必要と分かり運ぶことができたか。
展開	３　近づいてくるボール け取り，その中の三角形が 書いてあるボールを，三角 形の枠に並べる。	して転がる ボールを受け取る。 ・弾ませたボールに手を伸ばして受け取る。 ・三角形が書いてあるボールを選び出せる。 ・選んだ三角形が書かれたボールを三角形の枠に並べることができる。	・ボールを受け取れたか。 ・形を見て選別できたか。
	４　いらいら棒を使い，三角形をなぞる。 ・棒が枠に触れると，ブザーが鳴るので触れないようになぞる。	・いらいら棒の先をよく見ながら，ゆっくり三角形の枠をなぞることができる。	・直線の部分で枠に触れないで操作できたか。 ・角の部分でゆっくり棒の先を見ながら操作できたか。
	５　学習を振り返る。 ・学習したことの中から楽しかったことを選ぶ。	・楽しかったことを○×カードで伝えることができる。	・○×カードを選ぶことができたか。
終結	６　学習の片付けをする。		

ただ「受け取れたか」ではなく，どの活動で何をねらってどう評価するかが分かるように具体的に書くといいですね。 25

活動に教材を使うときは，図や絵を入れると読みやすくなるね。 30

指導の段階を考慮し，「何回以上触れない」など具体的な評価を示すと分かりやすいですね。 22

学習過程は改善前のページだけを載せているよ！

Before

ポイントでチェック

指導上の留意点	準備物	
・用具を準備させる。 ・写真カードで作ったスケジュール 用具を指差しながら，学習の流れ	教員 ル	20 生徒の実態を生かして指導を行っていますか？ 25 評価の観点が具体的に書かれていますか？
・何も書いていないボールは箱に入れる。 ・ピンポン球をＡ男に届くように投げる ・きちんとキャッチできたときは ・後ろにボールそらした場合でも，それ 種分けしてもいいことにする。 ・ボールを入れる枠は，すべての三角形 るボールを並べると，きちんと埋まる	三角形を書いたピ	24 飽きないような指導上の工夫がされていますか？ 30 教具の配置等，具体的な指導の場面がイメージできますか？
・Ａ男に種分けを確かめるように促し，埋まったところで教師が確認し，賞賛する。 ・ボールキャッチで使う を意識させる。 ・なぞり用の棒が枠の うにして，手元を を図る。 ・言葉掛けにより，ブザーを鳴らさないでなぞること を目標に頑張るように励ます。 ・成功した場合は，ご褒美シール	・三角の枠 ・棒	20 個別の指導計画のねらいが分かるようになっていますか？ 22 生徒に分かる具体的なねらいが提示されていますか？
・またやりたいかどうかで，学習が う　かを評価し，○×カードを選んで表現できる ようにさせる。 ・×を選んだ場合には，どんな点が 気持ちを阻害しているのか確かめ 確認する。	・○×カード	20 生徒の実態のまねのできることを生かしていますか？
・片付けさせる。		

教師や友達の「まねができる」実態を活用して準備することで活動の見通しをもたせ意欲を高めることができると良いですね。 20

「物をよく見て手を伸ばす」「目で見て上肢の粗大運動をする」ねらいの内容からつながるように「転がす」「はずませる」等の工夫も入れるといいですね。 24

「対象物を見ながら操作する」内容の活動が入っています。 20

頑張ったことが生徒にも分かる方法での支援を（５回成功させることを目標に・・・等）明示すると意欲が高まります。 22

教師や友達のまねをしながら片付けをし，そこで再び賞賛し，次時への意欲が高められると良いですね。 20

Before

（４）評価

・　ボールをとることができたか。

・　三角形が書いてあるボールを選ぶことができたか。

・　三角形の枠に並べることができたか。

27 **28**

・子どもの評価だけになっているので指導の妥当性が分からない？

（５）教材・教具

・　いらいら棒

針金（アルミ製でなるべく太いもの）を枠に沿って張り付ける。同じく，針金で棒を作る。

30

・教材・教具の名称は分かるが具体的にイメージしにくくないですか？

After

特に，自立活動の時間の指導においては，子どもの変容についての評価だけでなく教師の評価をすることで指導の妥当性を確認する必要があります。27　28

（４）評価の観点

〇生徒の評価

・ 転がったり弾んだりするボールを受け止めることができたか。

・ 三角形が書いてあるボールを選び，三角形の枠に並べることができたか。

・ 枠を使って三角形をなぞることができたか。

〇教師の評価

・ 活動への意欲が高まるような支援ができていたか。

・ 場の設定や指導内容は適切であったか。

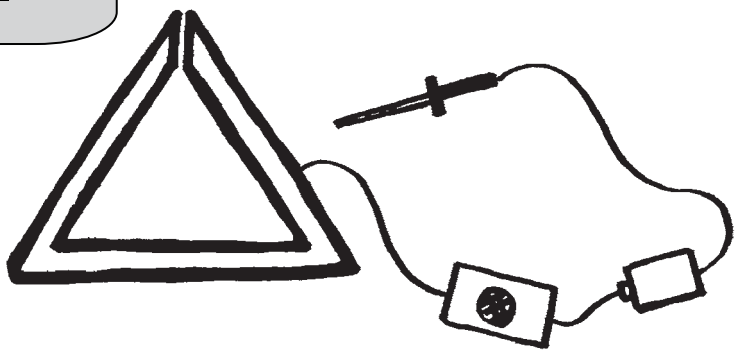
（５）教材・教具

・いらいら棒

針金（アルミ製でなるべく太いもの）を枠に沿って張り付ける。

同じく，針金で棒を作る。

自作の教材・教具は，上手でなくてもイラスト等で紹介すると分かりやすくなります。30



コラム

自立活動とＩＣＦの視点

ＩＣＦ（国際生活機能分類：International Classification of Functioning Disability and Health）**とは**

近年，障害者を取り巻く社会環境や障害の考え方等に大きな変化が見られました。これまでのＩＣＩＤＨでは，疾病等に基づく状態のマイナス面のみを取り上げているとの指摘からＷＨＯでは，改訂版としてＩＣＦを採択しました。ＩＣＦでは人間の生活機能を「心身機能・身体構造」，「活動」，「参加」の三つの要素で表し，この生活機能に支障がある状態を「障害」としています。ここで生活機能と障害は，図２のように健康状態や環境因子・個人因子と相互に影響し合うものと考えています。

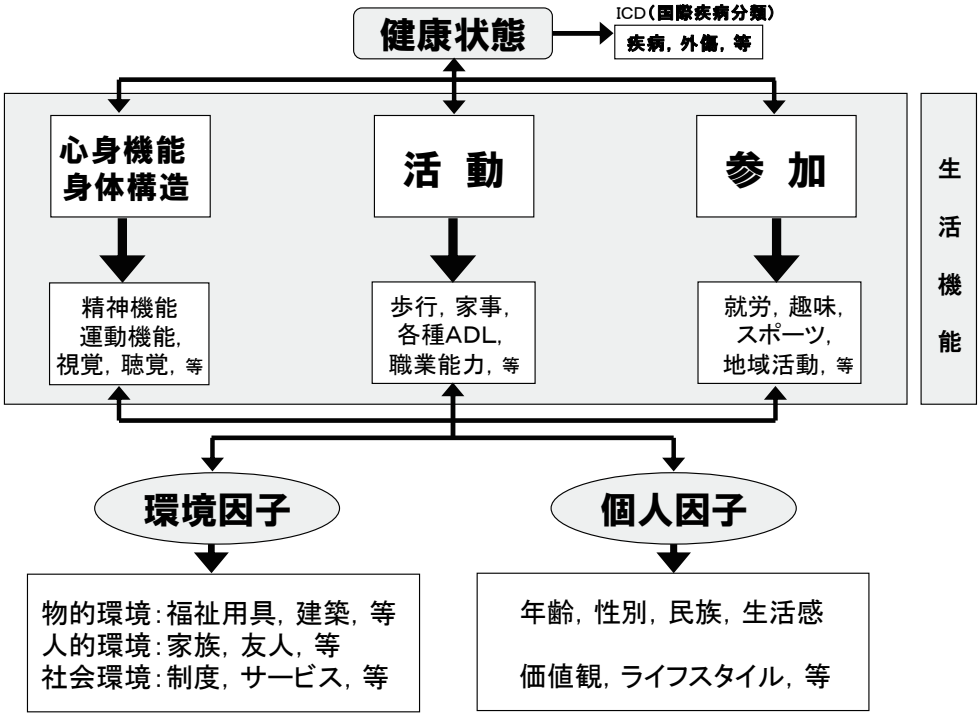


図2（特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より引用）

自立活動との関連

自立活動では，子どもの「障害による学習上又は生活上の困難」を把握し，その困難を改善・克服を図るために指導を行います。ＩＣＦの視点は，これまでの自立活動の指導においても考慮されてきました。なぜなら自立活動の内容は，食べること，視覚や聴覚を活用すること，歩くことなど人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素（生活機能）と，障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素の両方を含んでいるからです。

自立活動の指導を行う際には，生活機能の側面と障害による困難の側面とともに，それらと個人因子や環境因子とのかかわりも踏まえて，個々の子どもの実態を把握し，具体的な指導内容を設定します。この内容は，個々の子どもに必要な項目を選定し，相互に関連付けて指導することになっており，具体的な内容を考える時には項目相互の関連性も考慮が必要になります。

第５章

授業研究会で授業の評価・改善を

１　学校訪問指導から

２　次につながる授業研究会に

　１）チームで授業改善

　２）全員が参加できる授業研究会へ

　３）授業研究会で活用できるいろいろな方法

第５章　授業研究会で授業の評価・改善を

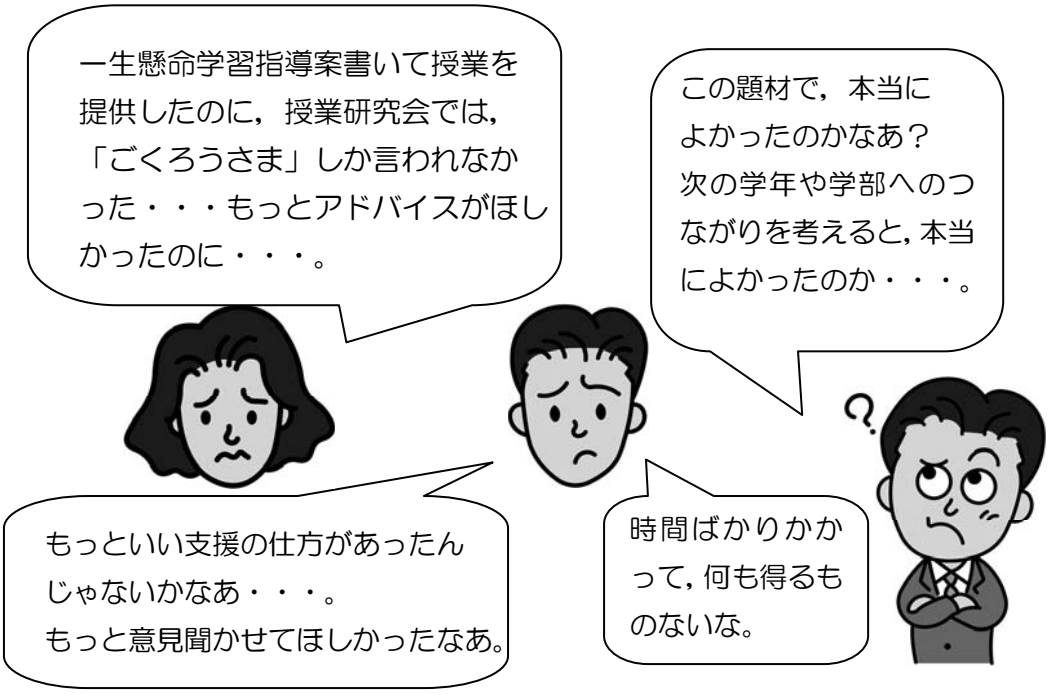
１　学校訪問指導から

宮城県内の特別支援学校での授業研究会は，様々なスタイルで行われています。多くが学部単位で授業研究会を行っているようです。

授業研究会には，授業の前に行う事前検討会と事後検討会があります。事前検討会は主に学級ごと，授業担当者，学部ごとなどで行われ，事後検討会は，参観者全員で行われる場合が多いようです。

さて，授業研究会の協議の内容は，充実したものになっているでしょうか。

学校訪問指導では，主に事後検討会に当たる授業研究会に参加します。学校訪問指導での授業研究会からは，授業研究会のもち方が，必ずしも有意義なものになっていない様子がうかがえました。事後検討会に当たる授業研究会後の授業者の声を拾ってみました。



授業者にとっては，授業提供を引き受け，苦労して学習指導案を書いて教材を作り授業したので，評価をしてほしい・もっといいアイディアがあれば聞かせてほしい，というのが本音のようです。

また，話し合いの様子を参観している指導主事からは，次のような感想が出されました。

- ■　話し合いの人数が多いせいもあり，なかなか意見が出てこない様子で，司会の先生が苦労している。
- ■　研究等にかかわっている一部の先生のみが意見を出しており，若い先生方から意見が出されない。

■　意見が出ずに感想にとどまっており，次の授業への改善にはつながっていない。
■　話し合いの観点がしぼられていないので，話し合いが深まらない。

授業者にとっても，参観者にとっても「なんだかすっきりしない授業研究会だった・・・」「やっても意味があったのかどうか・・・」と思ってしまう授業研究会は，負担に感じるだけで，とても有意義なものとはいえません。

授業研究会が，有意義なものであったかどうかを，授業者の側と参観者の側に分けてチェックしてみましょう。

授業者にとって

○　学習指導案の書き方，授業の組み立て方，具体的な支援の仕方等について，適切だった点と適切ではなかった点が明らかになったかどうか。
○　適切でなかった点に対しての新たなアイディアが得られたかどうか。

参観者にとって（校内の授業研究会の場合）

○　今後自分が授業をしていく時のいくつかの観点について，同じ学部の先生やTT の先生と考えを共有できたかどうか。
○　授業者の先生や他の先生方の意見から，授業づくり・指導や支援の仕方についての新たなアイディアを得られたかどうか。

授業研究会を有意義なものにしていくには，授業研究会の位置付けを，授業者も参観者もしっかり押さえることと，話し合いを深めるための工夫が必要です。

こんな授業研究会に！

■時間ばかりかかって
さっぱり得るものがない。
■意見を出そうと思っても
言えないよね・・・・。
■いつも同じ人ばかり話して
いるよ。
■話していることがよく分か
らないなあ。
■また授業研究会だ・・・
めんどうくさいなあ。

●いろんな意見が聞けて
参考になった。
●こんな考え方もあるんだ
ね。
●今度は，こんなふうに
やってみよう！
●盛り上がったね。時間が
あったらもっと続けたか
ったね。
●授業提供してよかった。

２　次につながる授業研究会に

１）　チームで授業改善　　～一人よりみんなで～

毎年行われる授業研究会ですが，改めて，何のために授業研究会を行うのか考えて見ましょう。

授業研究会の大きなねらいは，教師の一人一人の授業力の向上にあります。教師は，授業で勝負・・・と言われます。私たち教師が子どもと向き合い，一番長く過ごしている時間は授業です。授業する力を身に付けていくことは，私たち教師にとって，最も大切なこと・・といっても過言ではありません。そして，教師一人一人の授業力が向上することで，子どもたちは自分の可能性を伸ばし，生きる力をはぐくむことにつながっていくでしょう。

教師一人一人の授業力を高めるためには，繰り返し学習指導案を書いて授業を積み重ねていくことも大切ですが，数多くこなすだけでは授業力の向上に直接結び付くとは限りません。大切なのは，授業を評価し，授業改善をしていくことです。授業を評価し，改善へ導き，教師一人一人の授業力を向上させていく，それこそが，授業研究会のねらいです。

授業改善をしていくためには，個々の教師の自己評価だけでなく，チームでの組織的な取り組みが効果的です。教師一人一人の感じ方や着目する視点は違い，その違いを生かすことによって，多様なアイディアが引き出せるからです。一人よがりでは，気付かないことも多いですが，チームで意見を出し合い，分析し，整理し，意識付けしていくことで，授業改善が行われていきます。授業研究会は，授業改善に向けて，最も有効なチームでの組織的な取り組みと考えることができます。

チームで授業改善を目指すには，チームの良さを引き出すこと，チーム全体が向上することが大切です。チームで授業改善をしていくために必要なことを考えてみましょう。

① チーム全員から意見を引き出せる話し合いの場の設定
② 意見をまとめて記録し，次の授業へつなげるためのツール（シート等）
③ チーム全員から意見を引き出し，マネジメントできるリーダー

まずは，授業研究会のもち方を工夫するところから始めてみましょう。ここでは，「①チーム全員から意見を引き出せる話し合いの場の設定」の工夫について考えてみます。

ちょっとした工夫で
授業研究会を充実させること
ができるよ！
挑戦してみよう！

２）全員が参加できる授業研究会へ　～ワークショップ型の導入～

授業研究会のもち方は大きく二つのタイプに分かれます。

カンファレンス型（協議会形式）	進行役のもと，参加者がそれぞれ意見を出して話し合いを進める
ワークショップ型（参加者全員体験形式）	進行役が，参加者が自発的に作業できる環境を設定しながら，全員の意見を引き出す

カンファレンス型の授業研究会は，従来行われてきた授業研究会の形で，「意見や感想はありませんか・・。」という進行で進められていきます。しかし，（あまり悪いことを言ったら，授業者が傷つくのでは）と，授業者の心情を配慮したり，年齢差を意識したりして，感想発表に終始した授業研究会になってしまっていることが多いのではないでしょうか。

最近では，「授業リフレクション」と称して，ビデオを活用したり，観点を決めた話し合いを積み重ねることで，授業改善を進めているカンファレンス型の授業研究会もあるようです。

従来のカンファレンス型の授業研究会の課題を改善する方法として，近年ワークショップ型の授業研究会が注目されています。

ワークショップ型の授業研究会では，「参加者全員が，自分の考えを書く」の作業を通して「自分だったらこうするかな・・・」「こんな風にすると，もっといいのでは・・・・」という意見をもって授業を参観し，授業研究会に参加することができます。「参加者全員が，自分の考えを書き，みんなで見合う」というプロセスを通して，一人一人の意見が反映されることから，参加者一人一人の話し合いへの意識付けが図れます。

「いつも決まった人しか発言しない授業研究会」から「全員が意見を出せる授業研究会」に変わる第一歩として，ワークショップ型の授業研究会を導入してみるのも一つの方法です。

さらに，少しの工夫で，全員の意見を取り入れやすくなります。簡単にできる工夫をいくつか紹介していきます。

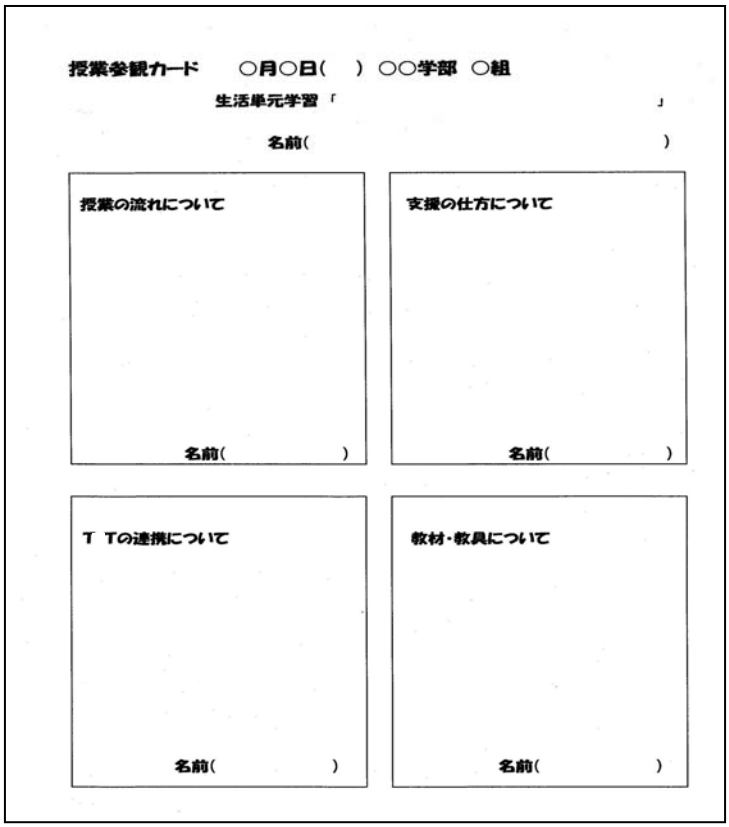
ワークショップ型では，
「参加者全員が必ず意見を書いて発表する」
というプロセスが，とても大切です。
しかし，必ずしも全員の意見が合意されるとはかぎらない，ということを確認しておくことも必要です。

（１）ツールを使おう　～参観シートの工夫～

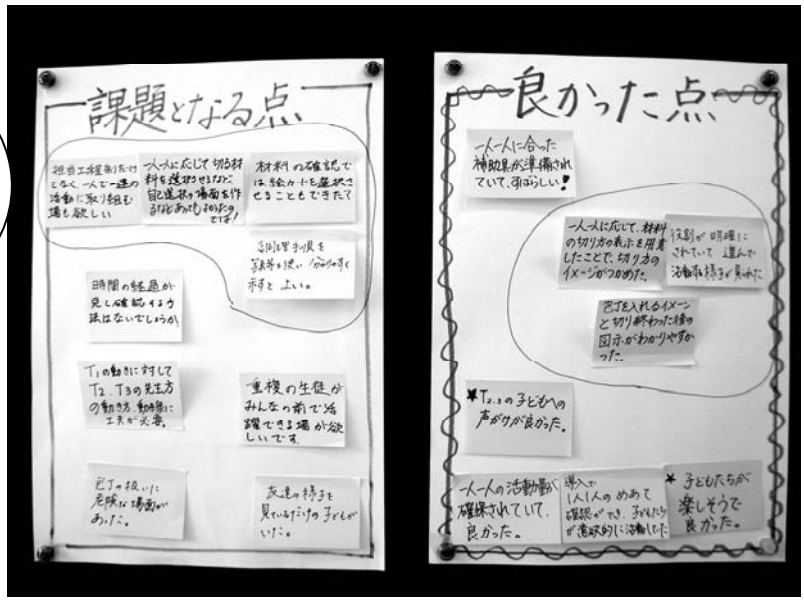
授業の前にあらかじめ参観シートや付箋紙を配布して，参観後，意見を記入してもらいます。参観シートや付箋紙に書かれた意見をもとに話し合いを進めることで，次のような効果が期待できます。

参観シート（カード）の工夫

① シートやカードに書くことを前提にすることで，参観者が自分の意見をもち，授業を参観することができる。
② 参観者全員が意見を書き，配布・張り出しされることで，意見が全員に反映される。
③ シート（カード）にすることで出された意見を分類することができ，観点を絞って話し合いを進めることができる。
④ 付箋紙を活用すると，印刷・切りはり等の作業の手間が省かれ，書いた物をすぐに張り出して参加者で共有することができる。色分けして分類することもできる。
⑤ 参観シート（カード）で，あらかじめ授業の観点を絞って項目を決めておくと，参観者は，観点に沿って参観し，意見を記入するので，話し合いが焦点化される。
⑥ 観点を絞って話し合いができるので，話し合いの時間が短縮できる。
⑦ 書いた物が記録として残るので，後でまとめる時に有効である。



参観カードの例だよ。
カードを分割して，参観者のカードすべてを観点別に整理すると話し合いが進めやすくなるね。
観点を絞って，参観者が書きやすくすることもポイントだね。



（２）話し合いの形態を工夫しよう　～少人数でのグループ協議の工夫～

１５人～２０人の人数での話し合いになってくると，参加者は意見を発表しにくく，話し合いにならない場合や，進行役が意見をまとめるのが難しい場合があります。

こんな時は，思い切っていくつかのグループに分かれて協議を進めてみます。５人～８人ぐらいのグループで，リーダーを決めて話し合いをしてみましょう。ペアで考える時間を設けることも有効です。大勢の場ではなかなか意見が出せなくても，グループでは，話しやすい雰囲気を作ることができます。

少人数でのグループ協議の工夫

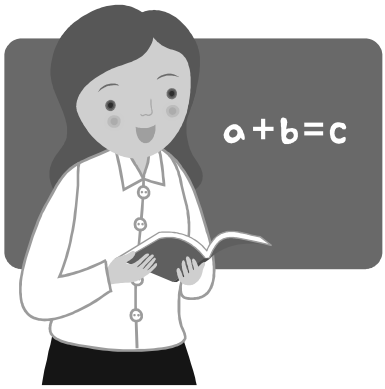
① 話し合う人数が少ないと，参観者全員の意見を聞き出しやすい。
② グループで話し合いをすると，共有する場が狭いので，話し合う相手との距離が短くなり，親しみやすく話し合いを進めることができる。
③ 話しやすい雰囲気になることで，話し合いの内容を深めることができる。
④ リーダーを決めて話し合いを進めることで，リーダーのマネジメントの力を育てることができる。

話し合いの観点は，研究主題であったり，学部の課題であったり等，その時のテーマに沿ったものになってきます。

チームでの授業改善を目指し，全員が参加できる授業研究会の工夫は，それぞれの学校や学部の良さを生かしながら，進めてみましょう。

いろいろな方法を組み合わせてみるのもいいでしょう。

３）授業研究会で活用できるいろいろな方法



P89 でも述べましたが，授業研究会では，授業者への配慮から褒めることのみであったり，一部の参観者からの一方的な発言のみで話し合いにならなかったりと，何のための授業研究だったのか分からなくなってしまうことも少なくありません。授業研究会を充実したものにするためには工夫が必要です。授業研究会をより効果的に行うために，いろいろな方法が取り入れられています。ここでは，代表的なものを紹介します。これらの方法は，単独でも活用できますが，目的に応じて組み合わせて使うこともできます。

（１）　授業評価表を活用した授業研究会

授業研究会では，ただ漠然と授業について話し合うのではなく，話し合う観点を明確にして協議することが重要です。その方法の一つとして，授業評価表の活用があります。

授業評価表は，決まった様式はありませんが，項目として以下のような評価の観点を組み合わせて作成します。

- ○　学習活動の内容に関すること（児童生徒の実態に応じた目標と活動内容か）
- ○　教師の働き掛けに関すること
  （児童生徒の表現の捉え方，声掛け，指示内容，間のとり方，触れ方，児童生徒の姿勢の配慮，位置，教材･教具の使い方）
- ○　チームアプローチに関すること（教師の役割分担，連携のとり方）
- ○　学習環境に関すること
  （教材・教具の準備，学習環境，学習時間）

また，授業評価表は，児童生徒の学習活動を評価するもの，教師の指導を評価するものなどに分けて作成する場合もあります。

授業研究会では，この授業評価表の結果をもとに授業研究会の柱を立て協議を進めます。また，授業評価表に記入することで，協議の時間内に取り上げることのできなかった内容についても，後日検討することができるという利点もあります。

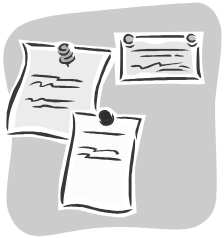
＜授業評価表（教師側）の例＞

年　　月　　日（　　）　　（　　）校時　　授業（　　） 記入者（　　）		
観　点	評　価	理　由
①本時の目標に合った学習内容でしたか。	はい・いいえ	
②教材･教具は活用されていましたか。	はい・いいえ	
③子どもの実態を適切に把握していましたか。	はい・いいえ	
④子どもの実態に合った指導や支援でしたか。	はい・いいえ	
⑤子どもの主体性に配慮されていましたか。	はい・いいえ	

（２）　KJ 法を活用した授業研究会

KJ 法とは，文化人類学者である川喜田二郎氏によって開発された情報を整理分類するための手法です。KJ 法は，情報を整理分類することで新たな発想を促すことに効果があると言われています。

このKJ 法を授業研究会に活用することができます。参観者が授業を参観して感じたことを自由にカードに記入します。その後，いくつかのグループに分かれ，グループごとに問題点や改善点などを絞り込んでいきます。その後，話し合いの結果を全体で協議することで課題を明確にしていきます。また，カードを色分けする工夫もできます。例えば，良かった点と改善が必要な点，観点別などに色分けします。



＜KJ 法を活用した授業研究会の例＞

①授業前に付箋紙を配付する。 → ②授業中に気付いたことを付箋紙に記入する。 → ③グループに別れ，付箋紙を同じ内容や関連のある内容ごとにまとめ整理する。 → ④グループごとに，まとめた内容を発表し協議する。

（3）　インシデント・プロセス法を活用した授業研究会

インシデント・プロセス法とは，マサチューセッツ工科大学のピコーズ教授夫妻により考案された事例研究法（ケーススタディ）の一つです。事例として実際に起こった出来事（インシデント）を基に，参加者は出来事の背景にある事実を収集しながら，問題解決の方策を考えていきます。インシデント・プロセス法は，以下のステップで行います。

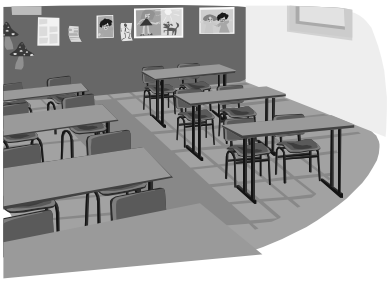
＜インシデント・プロセス法＞

第１ステップ：インシデントを提示し，調べる。 → 第２ステップ：出来事の背景となっている事実を集め，まとめる。 → 第３ステップ：問題点を探り，しぼる。 → 第４ステップ：グループに分かれて対応策と理由を話し合う。 → 第５ステップ：学んだことの検討をする。

この手法を，授業研究会に活用することができます。研究授業の中から，例えば，教材･教具の活用，TT の役割，発問の仕方などの中から観点を決め，その観点での教師の指導や支援や子どもの反応（インシデント）を拾っていきます。小グループを編成し，インシデント･プロセス法のステップに従い，授業者の指導や支援の仕方のアイデアを出し合い，検討していきます。この方法では，参加者一人一人が「自分が授業者ならどのように授業を改善したらいいのか」を考えることができ，授業における課題や改善点の理解が促されやすいという利点があります。

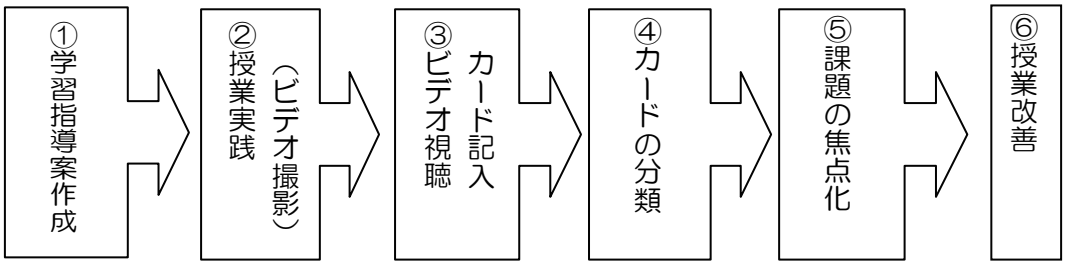
（4）　ビデオを活用した授業研究会

授業をビデオで撮影し，授業研究会に活用します。ビデオを活用すると，授業のポイントとなるところを繰り返し視聴しながら授業の妥当性を検討することが可能です。ビデオ視聴は，一単位時間，すべてを見るのでは時間が掛かりすぎるため，ポイントとなる場面に絞って視聴することが有効です。例えば，ポイントとなる場面５分間を２～３回見ることで，より細部にわたる教師の指導や支援や子どもの反応に気付くことができます。また，協議の最中や協議の最後に必要に応じて，ビデオを見直すことで，参観者全員が映像を確認しながら共通理解を図れるという点で効果的です。

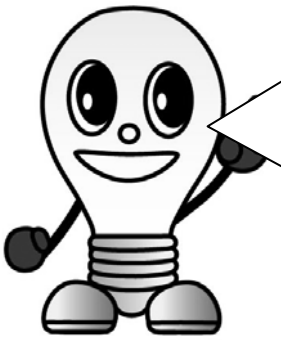


ビデオを活用した授業研究会の例を紹介します。授業実践のビデオを視聴しながら，気になった事実とその事実に対する解釈を参観者一人一人がカードに記入します。そのカードを同じ内容ごとに分類し，互いの解釈を照らし合わせながら，話し合いにより課題を焦点化していきます。焦点化された課題を基に授業を改善します。

＜ビデオを活用した授業研究会の例＞



＜ビデオの撮影方法も目的に応じて工夫してみよう！＞



ほかにもビデオの活用では，目的によりいろいろな撮影方法があります。例えば，

(1) 教師の指導や支援と児童生徒の反応を同時に見るために，1 台のビデオカメラで教室後方から全体を撮影する方法

(2) 教師の指導や支援，児童生徒の反応を詳細に分析するために，2 台のビデオカメラで，教師と児童生徒の正面から別々に撮影する方法

などがあります。目的に合わせて，様々な工夫が可能ですね！

第６章
個別の指導計画とのつながり

１　個別の指導計画と学習指導案

　１）個別の指導計画を理解しよう

　２）個別の指導計画作成の流れをつかもう

２　実態把握（アセスメント）からの出発

　１）実態把握（アセスメント）とは

　２）実態把握（アセスメント）に必要な情報とは

３　個別の指導計画から学習指導案へ

　１）事態把握のためのシート作成

　２）個別の指導計画を作成してみよう

　３）個別の指導計画と学習指導案のつながり

第６章　個別の指導計画とのつながり

１　個別の指導計画と学習指導案

南中山先生は今年４月に初めて特別支援学校に赴任しました。通常の学校とは違うＴＴでの指導にも少しずつ慣れてきたところですが，「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画」など，これまでにあまりなじみのない用語にも戸惑っています。

そこで，これからの保護者との面談等も控え，まずは個別の指導計画について学び，実際の作成につなげていこう，さらには学習指導案とどのようにつながっていくのかをこのサポートブックを使って先生なりにまとめてみようと考えました。

１）個別の指導計画を理解しよう

個別の指導計画とは

文部科学省（「小・中学校におけるLD（学習障害），ADHD（注意欠陥／多動性障害），高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）」（文部科学省：H16.1.30））では個別の指導計画を次のように説明しています。

> 「個別の指導計画」は，児童生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細やかな指導が行えるよう，学校における教育課程や指導計画，当該児童生徒の個別の教育支援計画等を踏まえて，より具体的に児童生徒一人一人の教育的ニーズ対応して，指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだものです。

なお，新学習指導要領・特別支援学校（H21.3.9 告示）においては

> すべての幼児児童生徒について，各教科等にわたる「個別の指導計画」を作成する。

ことが規定されました。

また，これから指導計画を作成するに当たって，南中山先生は，どんな点に配慮しながら作成していけばいいかを，いろいろな文献等から以下のようなまとめをしました

■■個別の指導計画とは■■

○児童生徒一人一人に決め細やかな指導を行うためのもの
○指導目標や指導内容・方法を盛り込んだもの
○単元や学期，学年ごとに作成されるもの
○保護者との連携に十分配慮しながら，実態把握をしていくもの
○計画し，実践したら評価し，次の改善へつなげていくもの（Plan-Do-Check-Action）
○子どもの主体的な活動を適切に指導・支援するもの
○日々の授業に計画された内容が反映していくもの
○学校の教育課程や教育目標を踏まえたもの
○すべての児童生徒について各教科で個別の指導計画を作成していかなければならないもの

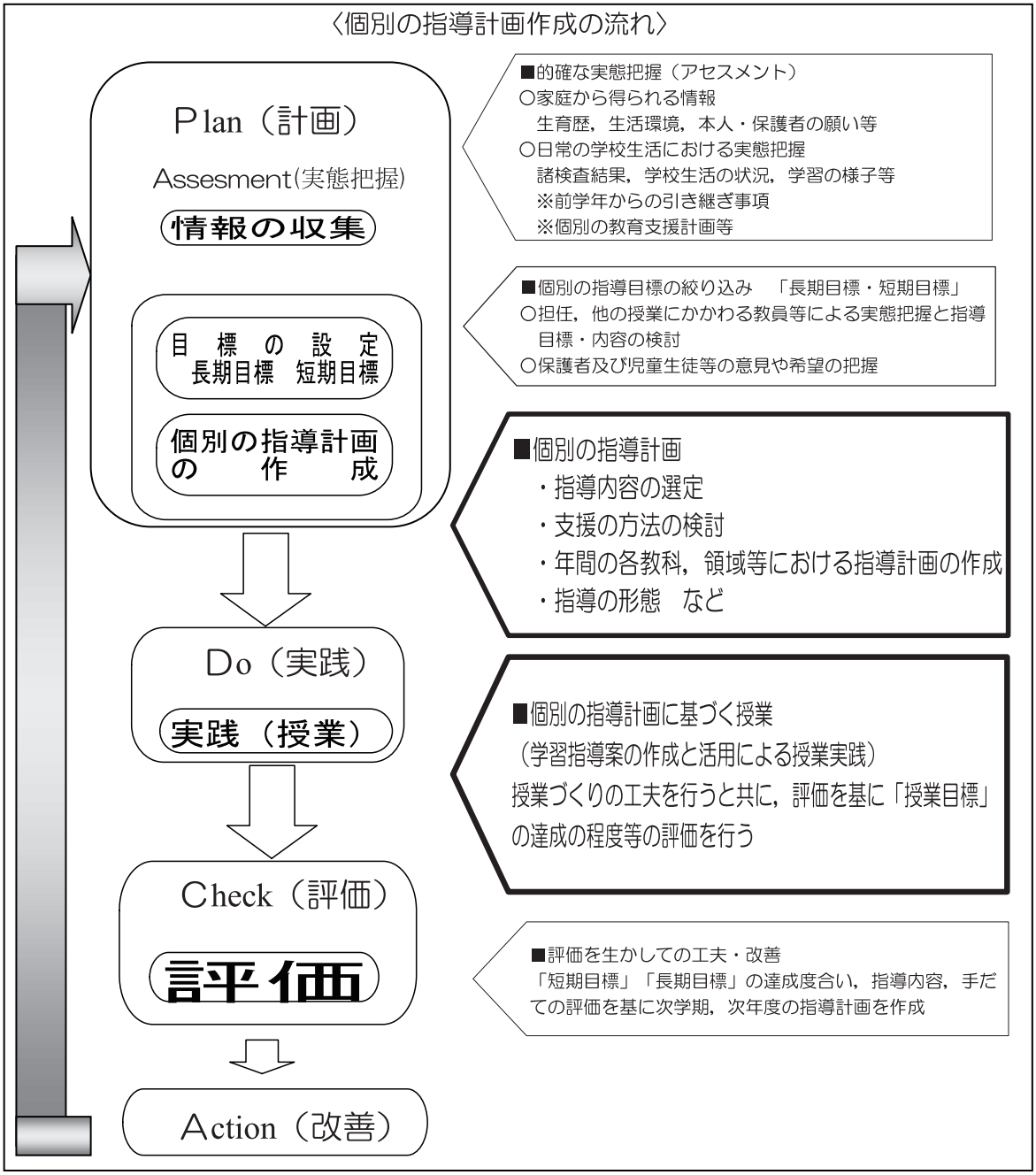
個別の指導計画とは
・・・のまとめ

２）　個別の指導計画作成の流れをつかもう

「個別の指導計画」は単元や学期，学年ごとに作成して行きます。計画を立て，それに基づき実践し，その結果を評価し次の改善につなげるという一連の過程（Plan-Do-See）を繰り返していく事が重要です。また，作成されたものが日々の授業に反映されなければ意味がありません。そのためには個別の指導計画と授業,評価という一連の流れがどのようになっているのかを把握する必要があります。

以下は個別の指導計画の流れについての一例です。個別の指導計画作成の流れは，ＰＤＳまたは，ＰＤＣＡサイクルと呼ばれます。

ここでは(Plan〈Assesment〉-Do-Check-Action）に沿って個別の指導計画を作成し,実践につなげていくという流れで示してみます。



【個別の指導計画を立てることのメリット】

・学校での指導・支援が明確になることで，保護者との共通理解を図ることができる
・子どものどういう点を実態としてつかんでいくべきかが明確になる
・指導の方向性が見えてくる
・個を生かすための具体的な指導・支援を工夫できる
・ＴＴ間の共通理解が図れる
・評価の視点が明確になる
・子ども自身が自分の学習の方向性を理解しやすくなる
・作成者のスキルアップにつながる

２　実態把握（アセスメント）からの出発

南中山先生は個別の指導計画の流れがおおよそ理解できたので，次に児童の実態把握（アセスメント）をどのように行っていくかを学ぶことにしました。

１）　実態把握（アセスメント）とは

「アセスメントは検査や面接などによって定められた機能を測定・評価し，その結果を総合的に解釈し，そこから作業仮説をたてるプロセス・手続きと定義される。」

「教育で行うアセスメントは，子どもの様々な角度から把握した情報を基に，その子どもの教育的課題を明らかにし，有効な指導・支援の手立てを勘案することを目的とし，進められるプロセスである。」　（お茶の水女子大学教授　篁　倫子）

つまり個別の指導計画作成においては，指導計画の根拠となる実態把握（アセスメント）を適切に行うことが出発点となります。実態把握（アセスメント）のために必要な情報を集め，総合的に子どもの状態をとらえることから始めていきましょう。

個別の指導計画の作成の際には，指導の目標や方法を指導者の思いこみではなく根拠のあるものにするために，また単に子どもができたかどうかを評価するのではなく，指導が妥当だったのかと指導自体を見直すためにも実態把握（アセスメント）は大切なことです。

２）　実態把握（アセスメント）に必要な情報とは

子どもの年齢や，学習経験，障害の状態等によって必要な情報は違ってきますが，基本的には以下のような情報が実態把握（アセスメント）のためには必要と考えられます。

【実態把握のために必要な情報】

情　　報

■家庭から得られる情報
〇生育歴　　〇療育歴
〇養育環境　〇医療関係
〇視覚機能，聴覚機能，身体機能等の状況

■学校生活における情報
〇学校生活の状況
〇興味・関心
〇諸検査の結果
〇学習の状況と障害に応じた学習上の配慮等

■家庭と学校の両方からの情報
〇適応行動の状況
〇興味・関心
〇関係機関の情報等

実態把握のために必要な情報を集め，総合的に子どもの状態をとらえましょう

①「保護者・本人等からの聞き取り」　②「行動観察」
③「諸検査の実施と分析」

情報の整理

①「本人・保護者からの聞き取り」
・保護者の願い
・本人の願い
・生育歴
・療育歴
・医療機関等の状況
・適応行動の状況（コミュニケーション，日常生活，社会生活の状況）
・興味・関心
・配慮事項　等

保護者からの情報を得ることで多面的に子どもを見ることができます

本人・保護者の願いを反映しましょう

②「行動観察」
〈ねらいをはっきりさせて観察しよう〉
・授業中の様子
・日ごろの行動
・遊びや興味・関心
・得意なこと・苦手なこと
・友達との関係
・コミュニケーション

〇普段の様子，行事等での様子
〇行動の記録
〇「どんなとき」「どんな行動」「周りのかかわり「頻度や間隔」なども考えてみましょう

複数の教員で観察をしましょう

③「諸検査の実施と分析」

〈主観的な子ども理解や不十分で曖昧な解釈〉を〈科学的に見ていく視点〉〈客観的な根拠のある視点〉で実態をまとめていくためには諸検査の実施とその分析も重要です。

以下に主な検査の種類を示しました。

実施する検査は子どもの何を知りたいのかで当然違ってきます。まずはどんな検査法があるのか，そしてその検査によって子どもの何を知ることができるかを把握した上で，検査を実施していきましょう。

知りたい情報	主な検査
○学習のつまづきや発達の遅れ	「ＷＩＳＣ－Ⅲ知能検査」 「田中ビネー知能検査Ⅴ」 「津守式乳幼児精神発達診断法」 「新版Ｋ式発達検査」 「Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」 「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」 「Ｋ－ＡＢＣ心理・教育アセスメントバッテリー」
○発音やことばのつまずきの状態	「絵画語い発達検査」 「ＩＴＰＡ言語学習能力診断検査」
○障害の程度	「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」

南中山先生は実態把握(アセスメント)について以下のように自分なりにまとめ，実際に担当している児童生徒についての実態把握(アセスメント)を実施してみることにしました。

(特別支援学校には既に各学校で実態把握のためのシート〈次ページに例を示しました〉や個別の指導計画の様式がありますので，それに従って作成していきましょう。)

実態把握のまとめ

■■実態把握（アセスメント）とは■■

・子どもの状態を様々な角度からとらえることで，子どもの状態像がつかめ，課題が見えてくる。

・課題が明らかになることで，個別の指導計画の目標が設定でき，支援や指導の手だての根拠につながっていくのである。

３　個別の指導計画から学習指導案へ

１）　実態把握のためのシートの作成

学部　　年　　組	担任	
氏名	生年月日	
障害名(障害の状況)		
かかっている医療機関		
生育歴(家族の状況，身体の状況)		
療育・相談歴		
本人の特徴		
本人の願い		
保護者の願い		
特徴的な様子		
No.	項目	内容
1	興味・関心 得意なこと，趣味	
2	苦手なこと	
3	学習	
4	行動	
5	健康	
6	日常生活	
7	その他	
8	心理検査等	

・かかっている医療機関や生育歴，療育歴等については主に保護者からの聞き取りを参考に記入しましょう。
・服薬や担当医療機関など，指導及び支援で必要となる事項について記入していきましょう。

・本人の特徴は保護者，本人，担任等で話し合いを行ってまとめていきましょう。
・本人の願いは，本人が言えるときには本人から，また，難しい時には保護者との話し合いで記入しましょう。

・特徴的な様子について項目ごとにまとめていきましょう。その際は保護者からの情報も合わせてまとめて記入します。内容の項目には様子だけでなく配慮事項も合わせて記入してあるといいですね。
・保護者との話し合いの前に学校の様子はある程度まとめておくと話がしやすくなります。
・その他の欄は支援をする上で参考となるもの，例えば福祉サービスの利用状況やこれまでの指導上で配慮すべき点などを記入しましょう。

今年度実施の結果だけでなく，これまで実施した検査等でも指導上必要なものは記入しておきましょう。

トピック

個別の指導計画の短期目標と長期目標

・目標は，実態把握に基づき，教科ごと，領域ごと，もしくは生活単元学習等の指導の形態ごとに設定します。
・目標を設定する際には，　明確で具体的な指導目標になるよう「いつ，どこで，何を誰と，○○できる」ように具体的に示す事がその後の指導や評価に結びつきます。
・「長期目標」は子どもの指導の方向性が分かるように，そして一年後の目指す姿を想定して書いてみましょう。できれば，将来につながるような自立・社会参加を配慮した目標であるといいですね。
・「短期目標」は具体的で学期や月，単元などの短い単位での目指す姿です。目標が達成できたかどうかが分かるよう「動詞」を使うといいですが「…わかる」「…理解する」「…楽しむ」などの動詞では客観的な評価は難しいです。
「～する」「～ができる」「～選ぶ」などの動詞であれば達成したかを客観的に評価できます。
例　△「かけ算がわかる」→○「九九カードを使って５の段までのかけ算ができる」

さあいよいよ個別の指導計画を作成します。
実態把握の資料を基に様式に従ってまとめていきましょう。

２）　個別の指導計画を作成してみよう

氏　名	○○　○○	記入日	月　　日
長期目標	①友達と一緒に学校行事や学級活動に参加する。 （生活単元学習，日常生活の指導） ②一人で着替える。（日常生活の指導） ③自分の名前を書く。（国語）		

・長期目標は児童生徒の実態にもよりますが，２～３程度の目標とし，あまり多くの目標ではなく一年間程度で達成できる数とします。（学校により異なる）
・目標は「領域・教科を合わせた指導」「教科」の両方の視点で考えていくと指導場面が想定しやすくなるでしょう。

短期目標	指導の手だて	指導場面	評　価
① （△）友達と活動に参加する。	（△）言葉掛けをする。	日常生活の指導 「朝の会」	・教師の言葉掛けとカードの意味を理解できた。 ・朝の会を抜け出さなかった。 ・１０分間座っている。 ・○○活動に一人で取り組む。
（○）朝の会を抜け出さず，１０分間教室で朝の会に参加する	（○）「先生がいいよというまで自分のいすに座っています」という言葉掛けと共に本人が椅子に座っているカードを同時に提示する。		

場面があいまいだったり基準を設定しないと評価がしにくくなります。

・指導の手だての主語は教師です。
・言葉掛けといってもいろいろありますので，より具体的に書くといいでしょう。

短期目標は学期，単元をめやすに設定します。（学校により異なる）

・指導目標が具体的であれば評価は○△でもできます。
・児童生徒の取組の様子や，達成の回数を記入することもできます。
・何ができて，どんな課題が難しかったかも記載するといいです。
・数値的な記録もあれば記載しておきましょう。（達成した月日等も含む）

学習指導要領解説総則等編においては
『すべての幼児児童生徒について，各教科にわたる「個別の指導計画」を作成する』（Ｐ７）とされましたので各教科等別に指導の手だてや評価が記載されていくとよいでしょう。

３）　個別の指導計画と学習指導案のつながり

個別の指導計画は作成したものの，日々の指導にどのように反映していくかは現場の教師にとっては頭を悩ます所です。 個々に作成された個別の指導計画【個別化】と，子どもの所属している学習集団の全体計画【集団化】が，どのような関連性や整合性をもって授業に生かされていくかを整理しておく事が必要です。個別の指導計画を活用するためには個別の指導計画を単元・題材レベルまで具体化していきます。

個別の指導計画の短期目標や手だてを，学習指導案の「単元(題材)設定の理由〈児童（生徒）観，単元（題材）観，指導観〉」や「本時の目標」における「個人の目標」また「学習過程」における「手だて」，「評価」に反映していくのですが，学習指導案のどの部分に関連させていくのか，例えば指導観なのか，目標なのかあるいは学習過程の部分なのかは個々の学校によってあるいは学習内容によっても異なってきますし，すべてに関連させなければいけない訳ではありません。

肝心なことは個別の指導計画と学習指導案の関連性や整合性があること
つまり，個別の指導計画が実践とどのようにつながっているのかを授業者がしっかりと把握して実践しているかどうかです。

個別の指導計画

短期目標	指導の手だて
○○○○	□□□

指導場面

☆☆学習指導案
単元(題材)について
児童(生徒)観　○○○○
単元(題材)観
指導観　□□□□
本時の目標
個別目標　△△児　☆☆☆
学習過程

学習内容	教師の働き掛けと指導上の留意点		
	△△児		
○○○	○○○		

(略)

評価
△△児　★★★

【児童(生徒)観，指導観との関連性】
児童(生徒)観や指導観は一人一人の子どもの個別の指導計画の目標とつながっているでしょうか？
明確な表現のつながりでなくても単元の中に，指導していく対象の子どもの姿が見える児童(生徒)観や指導観であるといいですね。

【目標との関連性】
本時の目標は実態把握で得た子どもの配慮や個別の指導計画の短期目標が明確に反映された本時の△△児の個別目標となります。

【指導方法学習内容との関連性】
個別の指導計画の指導の手だてが教師の働き掛けや指導上の留意点とつながるものになります。

【評価との関連性】
・個別の指導計画の評価とつながっている。
・次の指導の改善につながる評価である。

そこで南中山先生は以下のように担当の子どもの個別の指導計画がどのように学習指導案とつながっているのかを【**関連性**】という視点で実際に学習指導案に反映させてみることにしました。

第４章の学習指導案，遊びの指導のＡさん，Ｄさんを例に関連性をみてみます。

【個別の指導計画と児童(生徒)観，指導観との関連性】

Aさんの個別の指導計画	Dさんの個別の指導計画
長期目標	長期目標
①　友達と一緒に学校行事や学級活動に参加する。 ②　一人で着替える。 ③　自分の名前を書く。	①　好きな活動・興味のある活動に取り組む。 ②　活動に一緒に参加する。 ③　情緒の安定を図る。

対象となる児童の姿が児童生徒観・指導観に見えます

【児童(生徒)観】

大集団での集会に不安を感じたりする児童もいるが，…。

本学年の児童は，…普段の遊びの様子を見ると，お互いをあまり意識することなく，それぞれが自分の好きな遊びをしていることが多く，…教師の働き掛けによっては，新しい遊びに気付いたり，友達を意識して遊んだりする姿も,見られるようになってきた。

【指導観】

指導に当たっては，紙の素材を生かしていろいろな遊びの楽しさを味わわせたい。また，…みんなで一緒に遊ぶ楽しさを実感させたい。さらに，児童の自発的な遊びになるよう，できるだけ規制を少なくし，状況に応じた…。

【個別の指導計画と本時の目標との関連性】

Aさんの個別の指導計画	Dさんの個別の指導計画
短期目標	短期目標
①　興味のある学習活動に自分から参加する。 ②　２０分程度は集中して活動する。	①　活動の中で興味ある物を一つ見つけ，取り組む。 ②　友達や教師の活動を見て，一緒に取り

個別の指導計画の目標が本時の目標と明確につながっています。

Aさんの本時の目標	Dさんの本時の目標
①扇風機のスイッチを押して紙吹雪を飛ばして見せる。 ②好きな遊びを見つけて遊び，教師と繰り返し遊ぶ。	①　教師のまねをして紙を丸めたり破いたり，ちぎったりできる。 ②　好きな遊びの場所に自分から行く。 ③　友達や教師のまねをして一緒に遊ぶ。

【個別の指導計画と本時の目標，学習過程との関連性】

Aさんの個別の指導計画	Dさんの個別の指導計画
短期目標	短期目標
①　興味のある学習活動に自分から参加する。 ②　２０分程度は集中して活動する。	①　活動の中で興味ある物を一つ見つけ，取り組む。 ②　友達や教師の活動を見て，一緒に取り組む。

Aさんの本時の目標	Dさんの本時の目標
①　扇風機のスイッチを押して紙吹雪を飛ばして見せる。 ②　好きな遊びを見つけて遊び，教師と繰り返し遊ぶ。	①　教師のまねをして紙を丸めたり破いたり，ちぎったりできる。 ②　好きな遊びの場所に自分から行く。 ③　友達や教師のまねをしていっしょに遊ぶ。

本時の目標が学習過程のどの部分につながっているでしょうか。教師の働きかけと指導上の留意点の中に目標が反映されているといいですね。

【学習過程】

学習内容	教師の働き掛け(○)と指導上の留意点(●)	
	A(T２)	D(T３)
１　始まりの音楽で集まる。	○絵カードで始まりを確認する。	○曲を聞き，教師のおじきの合図で集合を知る。
	活動の見通しがもてるように活動の流れを確認する	
	○教師の言葉と提示したカードで，今日の遊びのコーナーが分かる。	○　教師と一緒にいろいろな遊びのコーナーを回って今日の遊びの内容を知る。
２　いろいろな遊びのコーナーで自由に遊ぶ。	遊びのコーナーへ移動する	
	●すべての遊びのコーナーを教師と一緒に体験する。 好きな遊びを教師と選ぶ。 ○教師がいくつかの遊びを提示しその中から好きな遊びを教師の質問で選ぶ。 ○選んだ遊びを繰り返しする。	●教師はどのようにして紙を使って遊ぶのかをやってみせる。 ○教師と一緒に紙を丸めたり破ったりする。 ○好きな遊びを一つ見つけて自分から教師を引っ張ってその場所に行く。

【個別の指導計画と評価との関連性】

Aさんの個別の指導計画	Dさんの個別の指導計画
短期目標	短期目標
①　興味のある学習活動に自分から参加する。 ②　２０分程度は集中して活動する。	①　活動の中で興味ある物を一つ見つけ，取り組む。 ②　友達や教師の活動を見て，一緒に取り組む。

個別の指導計画の目標と評価がつながっています

【評価】

児童名	評価の観点	評価
Aさん	○　気に入った遊びを見つけ，何回か遊ぶことができたか。	
	○　気に入った遊びの遊び方を変えて遊ぶことができたか。	
	○　スイッチやボタンを押して，紙を動かす遊びができたか。	
Dさん	○　気に入った遊びを一つ見つけることができたか。	
	○　気に入った遊びの場所に一人で行くことができたか。	
	○　友達や教師の遊びをまねすることがきたか。	

南中山先生はこのようにして，個別の指導計画がどのようにして日々の学習活動につながっているかを確認していくことができました。

それぞれの子どもの個別の指導計画の目標や手だてが反映された学習指導案を作成してくことが重要であると，今回の個別の指導計画から学習指導案作成までの流れで理解することができたようです。

個別の指導計画から学習指導案作成までつながりのまとめ

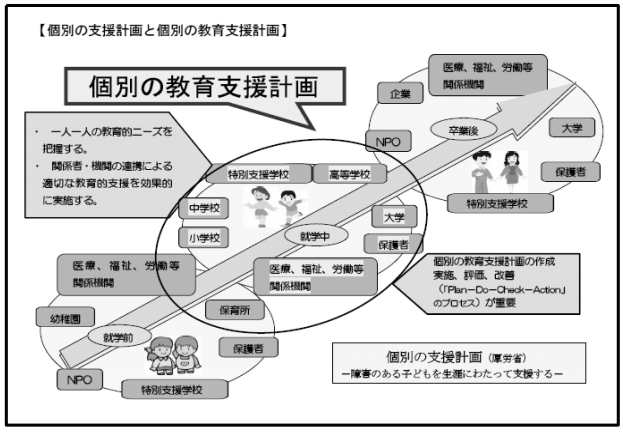
コラム

個別の教育支援計画と学習指導案

【個別の支援計画と個別の教育支援計画はどう違うの？】

「個別の支援計画」とは，乳幼児期から学校卒業後まで生涯にわたって一貫した支援を行うための計画です。

関係機関等が連携協力して作成するときには「個別の支援計画」と呼んでいますが，学齢期を中心に，学校や教育委員会などの教育機関等が中心になって作成する場合は「個別の教育支援計画」と呼びます。



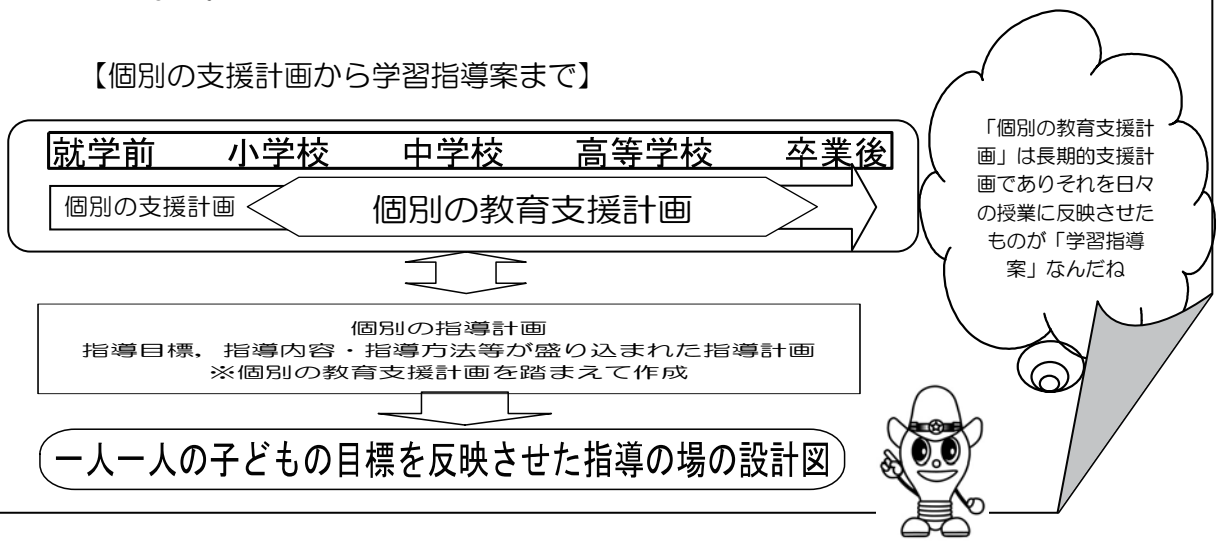
「個別の教育支援計画」は教育のみならず，福祉，医療，労働等の様々なニーズに応じ支援機関が連携して，一人一人のニーズに応じた支援を効果的に実施するための計画であり，支援機関の役割を明確にし，連携協力体制を構築して支援をするための手だてとなるものです。

【個別の教育支援計画と個別の指導計画はどう違うの？】

「個別の教育支援計画」が乳幼児期から学校卒業後までを通じた長期的な計画であるのに対して，「個別の指導計画」は，障害のある幼児児童生徒一人一人の障害の状態等応じたきめ細かな指導を行うために教育課程を具現化したものであり，指導目標や指導内容・方法などを盛り込んだ計画です。目標を学期や学年ごとに設定するなど短期的な計画であるとも言えます。また，「個別の教育支援計画」を踏まえて「個別の指導計画」を作成・充実するという関係になります。

「個別の指導計画」は，学校における指導目標や指導内容・方法等についての計画であり，日々の学習の場にそれを反映させるために必要な授業の設計図が学習指導案であると言えるでしょう。

【個別の支援計画から学習指導案まで】



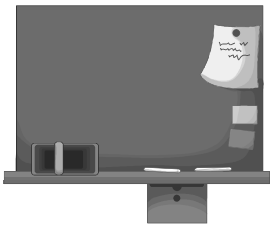
コラム

PATH を個別の指導計画の作成につなげよう！

PATH（Planning Alternative Tomorrow with Hope）とは，カナダの Inclusion Press International の Jack Pearpoint と Marsha Forest によって開発されたワークショップの方法です。この方法では，障害者本人や保護者，それにかかわる多くの人々が，本人や保護者の願いの実現を目指し話し合いを行い，問題を解決していきます。この方法を活用し，本人の将来の夢やその夢に近づくための手だてについて話し合いを行い，長期目標から短期目標，明日から取り組む課題を明確にすることができ，個別の指導計画の作成につなげることが可能です。

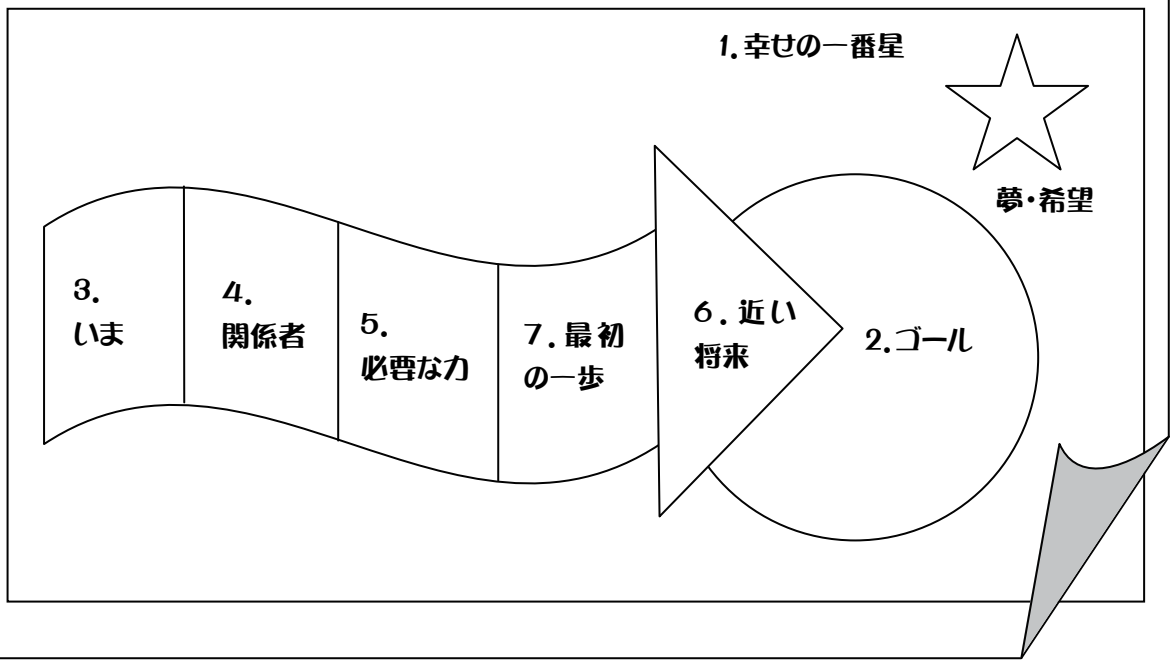
PATH の手順は，次の七つのステップに分かれています。

ステップ１　幸せの一番星（夢や希望について語ること）
ステップ２　ゴールを設定する・感じる
ステップ３　いまに根ざすこと(どこに私／私たちはいるのか)
ステップ４　夢をかなえるために誰を必要とするか
ステップ５　必要な力（どんな力を増したらいいか）
ステップ６　近い将来の行動を図示する
ステップ７　初めの一歩を踏み出す



この手順に従い，話し合いながら，下のような図を作成していきます。幸せの一番星を出発点にして，ステップを重ねるごとに具体的で現実的なものを検討し記入していきます。そうすると，目標に向かって，段階的に取り組むべき課題が明確になります。また，作成には様々な色を使い，図を作成するため，視覚的に理解しやすく，お互いの意見を交換し，協力関係を築くことができます。個別の指導計画の作成にも活用でき，長期的な視点に立った目標を明らかにすることができます。

<PATH のステップ>



資　　料

自閉症教育の授業づくり

資　料　　自閉症教育の授業づくり

本誌では，知的障害を主とする特別支援学校（以下，知的障害特別支援学校）での学習指導案の作成について述べてきました。しかし，知的障害特別支援学校では，知的障害を伴う自閉症児も多く在籍しています。知的障害を伴う自閉症児の指導には，知的障害教育の考え方を適用するだけでは必ずしもうまくいきません。知的障害を伴う自閉症児の指導には，自閉症教育という視点から授業を作ることが求められています。知的障害のある児童生徒への指導においては，子どもの生活経験と関連のある具体的な指導が有効であると言われてきました。しかし，自閉症のある児童生徒への指導については，その障害特性，感覚過敏，認知的な発達のアンバランス，生活全般にわたるスキルの習得などに配慮した指導が求められています。本誌で述べてきた学習指導案は，知的障害のある児童生徒に焦点を当てて述べてきました。したがって，自閉症のある児童生徒に対してはそのままでは活用できません。そこで，ここでは知的障害を伴う自閉症のある児童生徒への授業の観点について述べたいと思います。これらの観点を学習指導案の中にも，盛り込むことで本誌で提案する学習指導案が自閉症教育にも生かせるものと思います。

（１） 障害特性の考慮（障害特性に応じた支援）

自閉症の障害特性として，①社会性に関する障害，②コミュニケーションに関する障害，③想像力に関する障害が挙げられます。その外にも，感覚・知覚の過敏性，アンバランスな認知発達などの課題があり，自閉症教育においては，これらに配慮した授業づくりが求められます。例えば，

① 注視が困難な子どもがいる場合は，仕切りを設け，他の物が見えないようにする。
② 聴覚過敏な子どもがいる場合には，余分な情報や音を遮断する。
③ 機械的な記憶や視覚的情報など，長所を生かした指導を行う。

（２） 構造化による環境整備（構造化による支援）

自閉症教育においては，構造化による環境整備が必要です。

① 活動場所を分かりやすく（場の構造化）
　例えば，活動場所や空間に意味付けをするために，活動と活動する場所を対応させる。
② 時間を分かりやすく（時間の構造化）
　見えない時間に意味付けをして，見通しをもてるように時間設定を行います。例えば，子どもが使えるスケジュール表などを活用します。

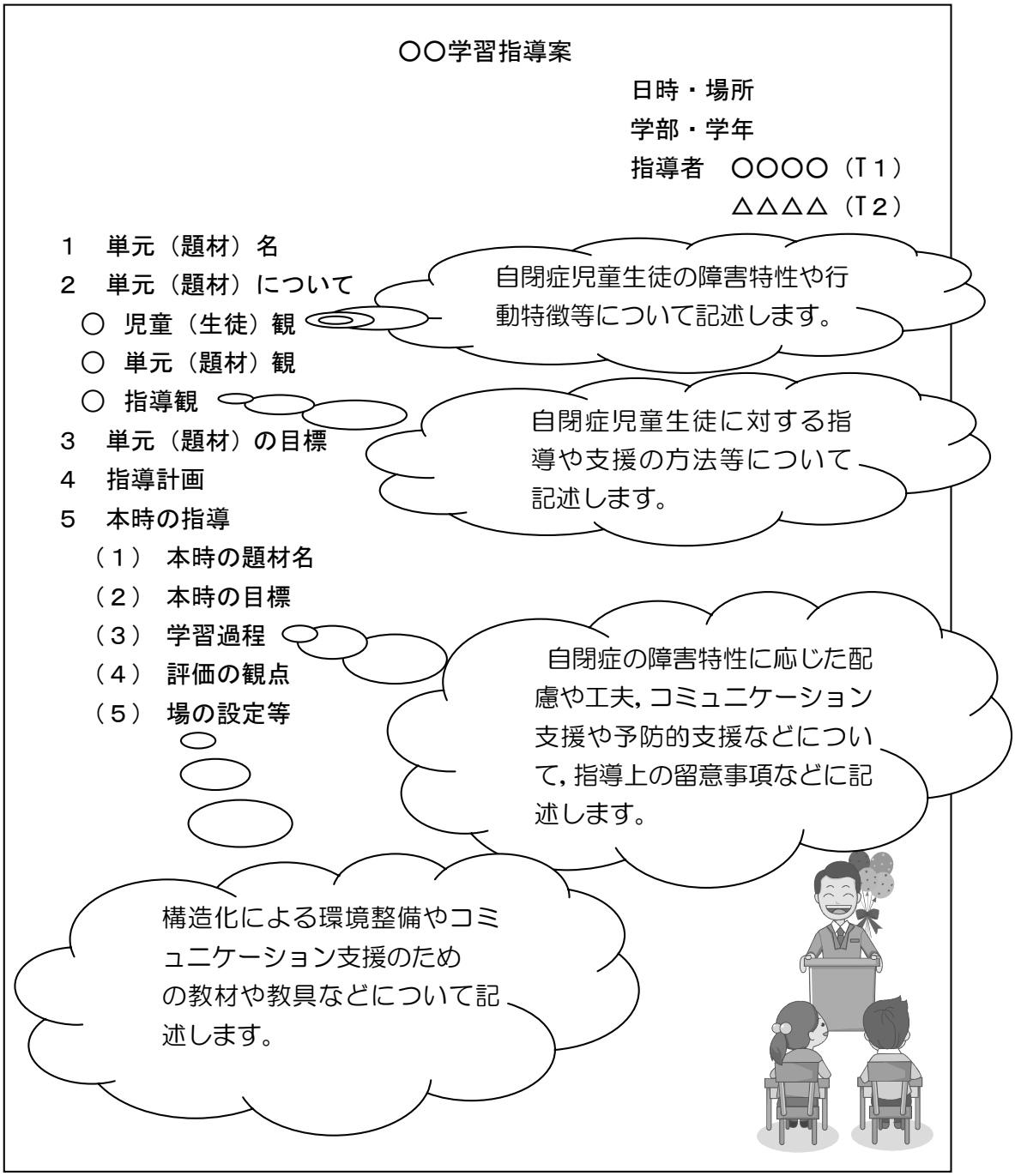
（３） コミュニケーション支援

自閉症のある子どもは，ことばを状況に応じて使うことが難しく，コミュニケーションに課題があります。子どもがコミュニケーションを通じて言葉が伝わる喜びが体感できるよう支援することが大切です。そのために，絵カードやＰＩＣカード（絵文字カード），ＡＡＣ（代替コミュニケーション），ＶＯＣＡ（ボタンで合成音が出る電子器具），ＰＥＣＳ（絵カード交換式コミュニケーションシステム）などを利用することも有効でしょう。

（４） 不適切行動に対する予防的支援

自閉症のある子どもは，時としてパニックを起こす場合があります。その時は，本人とその周辺の安全を確かめ，落ち着くまで時間を置くなどの配慮が必要です。しかし，できればあらかじめこのような状態にならないように，支援していくことが必要です。

例えば，学習指導案では，（１）の障害特性や行動特徴等は「児童（生徒）観」に，（２）の構造化による環境整備や（３）のコミュニケーション支援は「場の設定等（配置図，準備物など）」や「学習過程」の中に記述します。また，（４）の不適切行動に対する予防的支援は「学習過程」の中の「指導上の留意点」に記述します。



参考・引用文献

＜第１章＞

辻　誠一：特別支援教育のコツと技　教師力アップのために　　日本文化科学社　2008
阿部芳久：障害児教育・授業の設計　　日本文化科学社　1997

＜第２章＞

宮特研精薄専門部：やさしい指導案の書き方＜精神薄弱教育の手引　第１７集＞　1994
宮崎直男：特別支援教育の学習指導案づくり　　明治図書　2005
広島県教育委員会：盲・聾・養護学校　授業改善ハンドブック　2006
北海道立特別支援教育センター：特殊学級担任のためのハンドブック　2001

＜第３章＞

辻　誠一：特別支援教育のコツと技　教師力アップのために　　日本文化科学社　2008

＜第４章＞

文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説　総則等編　2009
文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編　2009
太田正己：特別支援学校の授業づくり基本用語集　　黎明書房　2008
宮特研精薄専門部：やさしい指導案の書き方＜精神薄弱教育の手引　第１７集＞　1994
森　楙・柚木　馥・植田ひとみ：仲間あそびを育てる　　コレール社　1998
文部省：作業学習指導の手引（改訂版）　1995
大阪府教育センター：個別の指導計画に関する研究　2003
埼玉県立南教育センター：知的障害養護学校における自立活動に関する研究　2000

＜第５章＞

竹林地　毅：一人一人に応じた指導の現状と改善＜特別支援教育Ｎｏ３５＞　2009
太田正己：授業こそ教師の専門性＜発達の遅れと教育　第５７３号＞　2005
横浜市教育センター編著：授業力向上の鍵　ワークショップ方式で授業研究を活性化！　2009

＜第６章＞

文科省：小・中学校におけるＬＤ，ＡＤＨＤ，高機能自閉症児童生徒への教育支援体制整備のためのガイドライン　　2004
文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説　総則等編　2009
全国特殊学校長会：よくわかる“個別の教育支援計画”Ｑ＆Ａ　　ジアース教育新社　2005
徳島県立総合教育センター：個別の教育指導計画を作成するために　2008
広島県教育委員会：特別支援教育ハンドブック　Ｎｏ．２　2008
広島県教育委員会：盲・聾・養護学校　授業改善ハンドブック　2006
国立特別支援教育総合研究所：肢体不自由教育授業の評価・改善に役立つＱ＆Ａと特色ある実践　ジアース教育新社　2008
国立特別支援教育総合研究所：知的障害のある子どもの担任教師と関係者との協力関係推進に関する研究　2004

＜資　料＞

国立特別支援教育総合研究所：知的障害養護学校における個別の指導計画とその実際に関する研究　2002

サポートブックⅡ　項目別索引

【あ】

アセスメント　101
遊びの指導　36
遊びの発達　46
ICF　88

【い】

インシデント・プロセス法　96

【か】

学習案　19
学習過程　8

【き】

キャリア教育　58
教科別の指導　24
教師の授業力　4

【け】

KJ 法　96

【こ】

個別の教育支援計画　110
個別の指導計画　104

【さ】

作業学習　60，72
作業工程の分析　68
作業内容の分析　68
参観シート（カード）　93

【し】

支援案　19
実態把握　101，103
指導案　19
指導観　6
指導内容　76
指導内容表　30
自閉症　112
自立活動　75
授業研究会　89
授業評価表　95
進路学習　72

【せ】

生活科　50
生活単元学習　48，52

【た】

体育　40
題材　73
題材観　6
短期目標　105
単元　56
単元の目標　28

【ち】

長期目標　105

【て】

ＴＴ　20

【は】

PATH　111
場の設定の工夫　44

【ひ】

PDCA サイクル　100

【り】

略案　17
領域・教科を合わせた指導　34

編　集　同　人

研究協力者

宮城県立古川支援学校	教諭	大関　敦子
宮城県立迫支援学校	教諭	秀　由佳
宮城県立利府支援学校	教諭	山浦　裕次
宮城県立気仙沼支援学校	教諭	熊谷　昌祐
宮城県立名取支援学校	教諭	遠藤　浩一

所　員

平成２１年度

所　長	辻　誠一
主任主査	牛渡　丈晴
主　事	佐々木英樹
次長〔班長〕（指導主事）	相澤　一夫
次長（指導主事）	男澤　清勝
次長（指導主事）	千田　良
主幹（指導主事）	佐藤　百合
主幹（指導主事）	小西志津夫
主幹（指導主事）	中村　好則
主幹（指導主事）	佐藤　瑞恵
主幹（指導主事）	三浦　由美
主幹（指導主事）	神田　裕樹
主幹（指導主事）	西城　長一

平成２０年度

所　長	菊地　健
主　幹	村上　景造
主　事	千葉　隆弘
次長〔班長〕（指導主事）	佐々木清秀
主幹（指導主事）	大和由起江
主幹（指導主事）	熊谷　利治

お　わ　り　に

宮城県特別支援教育センターでは，これまで多くの研究紀要，手引き，事例集などを発刊してまいりました。平成２１年度には,「幼稚園，小・中学校，高等学校 教師のためのサポートブック（特別支援教育）」を発刊し，幼稚園から高等学校まで配布し,「すぐに使える」「今後に役立つ」といった多くのご意見と反響，そして活用の報告をいただきました。その反響は大きく，県内の私立の幼稚園や高等学校からも引き合いがありました。

今回，その反響をさらに広げ，特別支援教育の推進に向けた新たな情報を発信するため，教育現場の今日的な課題について検討を重ねてきました。そして，児童生徒数が増加し，新たな授業づくりや授業改善が求められる今日の特別支援学校の授業展開の上で，最も基本となる学習指導案の作成に着目し，指導案作成のポイントと新たな視点について，改めて提案させていただくことにいたしました。

編集に当たっては，特別支援学校の先生方にも，研究協力者として資料提供や原稿作成などのご協力をいただきました。お忙しい中，快くお引き受けいただきました先生方と所属校の校長先生はじめ職員の皆様に，心より感謝を申し上げます。また，発刊に当たり，本県教育庁特別支援教育室にもご支援，ご協力をいただきました。ありがとうございました。

サポートブックの第二段として発刊しました「特別支援学校 教師のためのサポートブックⅡ 学習指導案を書こう 30 のポイント」が，特別支援学校の新しい授業づくりと，教師の資質向上に役立つものとして活用いただくことを期待しております。

なお，本サポートブックの発刊は，文部科学省委嘱事業「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」の一部として行っています。

平成２２年２月

宮城県特別支援教育センター

「特別支援学校 教師のためのサポートブックⅡ 学習指導案を書こう 30 のポイント」

発　行　平成２２年２月

編集兼責任者　　宮城県特別支援教育センター

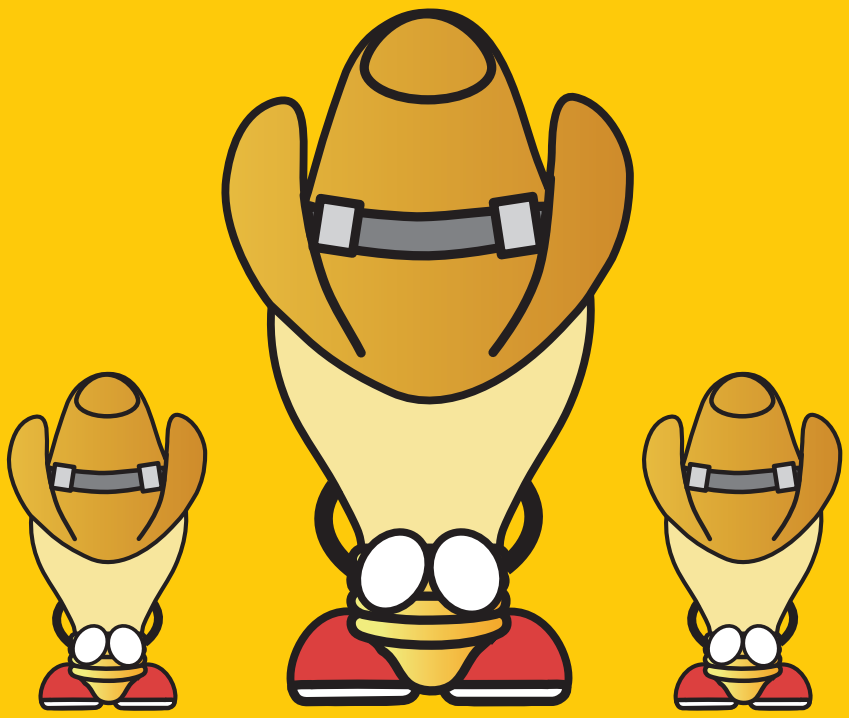
所長　辻　　誠　一

〒981-3213　仙台市泉区南中山五丁目３番１号

TEL（022）376-5432（代）

FAX（022）376-5435

E－mail　tokusek@pref.miyagi.jp



この冊子の発行は，文部科学省委嘱事業
「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」
の一部として行っています。

PRINTED WITH SOY INK 再生紙を使用しています。